と同様何れにも使用せらる。

黄白雞油　とは九州地方にて稱する白欅(シロケヤキ)に近きものにして、材は帶白淡黄色を呈し、外觀極めて優美なり、木理は通直、材質亦良好、紅雞油よりは稍、硬きも加工は容易なり。

大正十二年當時の　攝政宮殿下御行啓の折り　時の總督閣下の獻上せるタイワンケヤキも本種なり、新竹州大湖郡下の蕃地タビラス産のものに多く他の州廳下には多く生産せざるが如し、用途は建築、指物、電柱腕木等に恰好し又造船用材として極めて良好なり。

タイワンケヤキの各種材質の一般的差異は大畧、敍上の如くなるが4種中、兩極端の性質を有する黄雞油と紅雞油との外觀的特質の對照を表記すれば次の如し

區別	黄雞油	紅雞油
材色	帶青黄色に近し	赤褐色を呈す
年輪	幅大なり	幅狹少なり
木理	緻密なり	緻密ならず
導管	數少くして小なり	數多くして大なり
光澤	鉋削すれば板目に光澤を生ず	鉋削するも板目に光澤を有せず

尙前記の各種と雖も經驗に據れば其鑑別は敢て難きにあらず。

二　理學的性質

以上四種の理學的性質中、比重、硬度、抗折强、抗壓强等の比較を表示すれば次の如し（本成績は著者の濫踏的、實驗による）

材質別	比重	硬度	抗折强	抗壓强	備考
黄雞油	100.0	100.0	100.0	100.0	表中の數字は黄雞油の數値を100として換算したるものなり
紅雞油	73.3	58.1	55.8	60.3	
黄紅雞油	90.0	65.1	78.2	72.0	
黄白雞油	78.4	62.6	80.7	74.9	

本表に據りて黄雞油の數値を標準とし、他の3種の夫れを比較する

に、先づ比重に於て紅雞油は其約70％に當り、黄紅雞油は其90％に當り、黄雞油と紅雞油との略、中位數を示す。

黄白雞油は其78％に當り、黄雞油に近似せる數値を示す。

今此比重よりして各種材質の石當り重量を本邦單位の貫匁に換算すれば次表の如し。

材種別	氣乾材の石當り重量	備考
黄雞油	66.784	木材の單位容積の重量は、其樹種の比重を單位容積の水の重量（1立方尺の水の重量＝攝氏4度ニ於テ＝7貫4204）に乘すれば容易に算出することを。
紅雞油	48.975	
黄紅雞油	52.685	
黄白雞油	51.343	

この重量の大小は水運に際し經濟的に頗る重大なる關係を有するは材木業者の屢々訴ふる點なりとす。

次に硬度を比較すれば紅雞油は黄雞油の58％に當り42％少く、黄紅雞油は其65％に當り35％少く、紅雞油よりは約8％大なる計算となる、黄白雞油は約63％に當り黄紅雞油に近似せる數値を示す。

次に强度中、先づ抗折强を比較すれば紅雞油は黄雞油の56％に當り44％弱く、黄紅雞油は78％に當り23％弱く、恰かも黄雞油と紅雞油との中位數を示し、黄白雞油は約81％に當り、前者に近似せる强度を示す。

次に抗壓强に就て比較すれば、紅雞油は黄雞油の60％に當り40％弱く、黄紅雞油は72％に當り28％弱く、稍黄雞油と紅雞油との中位數を示す、黄白雞油は約73％に當り、是亦略、前者に近似したる强度を示す。

以上の關係は諸種の因子に基くは勿論なるも、兩極端の性質を有する黄雞油と紅雞油とに就て比較すれば紅雞油は前述の如く生長遲緩にして、年輪の幅、狹し是、其主なる原因なりとす。

元來濶葉樹の環孔材は針葉樹とは異なり、生長の遲緩にして年輪の幅、狹少なるものは導管と柔細胞の存在多く、强靭なる纖維質少く、爲に材質は輕軟となる、是强度の小なる所以なりとす、反之、黃雞油は一般に生長迅速にして年輪の幅廣く、從つて年輪と年輪との間に木材に强固性を附與する纖維質を增加するが故に自ら紅雞油に比べ比重大にして又强度の大なる所以なり、黃紅雞油及黃白雞油の材質は前兩者の中間性を帶有するにより、中位數に近似せる數値を示す結果に歸著することゝなる。

三 粕車(Phoh-chhia)用材

用途及構造

本車は從來舊式糖廊に於ける蔗粕又は肥料の運搬等に使用せらる、最も簡單輕便なる運搬用車にして車床(車臺)は車坪と稱する長8—9尺の竹稈2本を取り、2本の棧を以て幅1尺9寸の框を組み、更に割竹又は籐を以て踈に編み竹稈の半部に達せしめ殘り半部は車手となす、車輪は直徑1尺1寸、厚さ1寸5分の板子を圓形に挽き廻はし、中央部に方形の車軸嵌入孔を設け、二輪車となす、本車輪は車軸と共に回轉すること牛車の夫れと同樣なり、車坪の後端より8寸の所に於て竹を曲げて車軸に乘せ竹稈に取り付け回轉せしむ。

用 材

車輪用材には茄苳(Ka-tang＝和名 アカギ)を利用す、本材は質强靭に割裂を生ずること少なし、南部地方にて利用せらる。

車坪(車臺)用材には薊竹(Chhì-tek＝和名 シチク)を使用す、稈肉厚く、堅硬にして保存期永きが爲めなり。

四 輕便車(Kheng-piān-chhia)用材

總 說

輕便車は一に臺車とも呼稱す、輕便軌道用の車輛なり、本軌道は本島

に於て最も重要なる交通の補助機關にして、地方開發に貢獻する頗る大なるものあり、其發達は明治42年以後にして、爾來長足の進歩を遂げ、今日の盛況を見るに至りしものにして再昨大正13年度に於ける軌道哩數は 586 哩、是に要する臺車數は實に4,962臺の多數に達せり。

用途及構造

本車は低き四輪車にして軌道上を人力に押行す、主として石炭、貨物、乘客等の搬送に使用せらる、車體の構造は勿論、取扱ひ極めて粗放なるにより保存期は比較的に短し、其構造は頗る簡單にして、其各部は車坪、鐵車輪、車止等よりなる、車坪は長さ5尺3寸の3—4寸角2本を立框とし、之に幅2尺5寸の間隔にて2寸角の横棧3本を嵌入固定し、長方形の框を作り、兩立框の兩端4寸5分は殘して、長さ3尺2寸、幅1尺の8分板、4枚を横に張る、2本の車坪の腹面には一方に2個宛計4個のベアーリング、メタルを取り付け、2個のトロリー、ホキールを嵌入す、車輪には丸太のブレーキを備ふ、兩立框の兩端には幅1寸長さ1寸5分の穴を設け、車杢の嵌入孔となす、四隅に立てる車杢は小杭にして乘客の自體安定、貨物積載の杭及臺車押人夫の押行把手又はブレーキの把手をも兼ぬるものにして先端の嵌入部には角面を附す。

用 材

樹 種

地方名		和名
松柏	Chhêng-peh	タイワンアカマツ
〃 〃	〃 〃	タイワンゴエフ
八重山松柏	Pat-tiōng-san-chhêng-peh	ヲキナハマツ
柯仔	Ko-á	タイワンジヒ
白雞油	Peh-koe-iû	シマトネリコ
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ

大頭茶	Toā-thaû-tê	タイワンツバキ
烏材	O'-chhâi	ヤハラケガキ
山黄麻	Soa^{n}-iû^{n}-moâ^{n}	ウラジロエノキ
九芎	Kiú-kiong	シマサルスベリ
赤蘭	Chhiah-laû	タイワンアデク

特質及利用部分竝利用地方

本用材は堅硬にして衝動に堪へ、釘持ち良好なることを要件とし**マツ類**最も賞用せらる、**松柏**(タイワンアカマツ)は北部の鑛山地方にては多く車坪の全部に使用せらるゝも供給充分ならざるを以て**八重山松**(オキナハマツ)を代用す、本材は松柏に比すれば堅重にして良好なりと稱せらる、福州より輸入する**厦門松**はタイワンアカマツと同一種なるも材種は板割のみなるを以て車板のみに使用せらる、**八重山松**、**厦門松**(福州松又は馬尾松とも稱せらる)は全島的に使用せらる。

松柏(タイワンアカマツ)は又東臺灣に於ても利用せらる。

タイワンゴエフは松柏の名稱の下に本島の内陸地方たる埔里附近にて利用せられ全部に使用するも、タイワンアカマツに比すれば堅重の度合は小なり。

柯仔(タイワンジヒ)は北部の山脚地方及蘭陽地方にて使用せらる。

白雞油(シマトネリコ)は强靭なるを以て北部の三峽地方に於ける三井合名會社の使用する臺車の車坪には本材を賞用す。

赤皮(イチヰガシ)は堅靭にして抗折强大なるを以て車杢に最も賞用せらる、**大頭茶**(タイワンツバキ)**九芎**(シマサルスベリ)は堅靭にして其樹幹は通直、側枝少く利用に手間を取らざるを以て各地にて車杢に利用せらる、其他**烏材**(ヤハラケガキ)、**山黄麻**(ウラジロエノキ)の如きも代用材として各所にて使用せらる。

赤蘭(タイワンアデク)は材の强靭なることは赤皮に亞ぐ、各地にて利

用せらる。

車止は鐵輪と摩擦の關係上比較的柔軟なることを要す、**福州杉**(コウエフザン)及山黄麻は多く此部分に使用せらる。

第六 小木(Sió-bak=指物)用材

一 家具(Ke-si)用材

總說

本島人の指物屋は之を總稱して**合做店**(Kap-choh-tiàm)又は**木匠店**(Bak-chhiū^{n}-tiàm)と云ふも、事實は小木卽ち一般家具の製作と、**鑿花**(Chhak-hoe)卽ち家具を裝飾する彫刻部の製作との二業に分る、是家屋の構造より來れる嗜好、慣習の然らしむる所にして、例へば家具の如き其製作の多くは彫刻するにあらざれば、彎曲したるものなるが爲め、斯くは分業的に發達したるものなるべし、而して家具の種類は勿論、形狀の意匠、裝飾法等の如き所謂美術的情操なるものは、北部より中南部に亙りて殆ど同揆なるも、其利用樹種に至りては、地方的色彩とも見るべきものありて稍〻其選を異にす、總じて家具用材の要件たる素地の美觀は要せざるにあらざるも、保存力と强固とに主きを置き、差狂の有無等には餘りに顧慮せざるが如し、例へば北部地方(臺北市を中心とす)に於ては各種の用材中、肖楠(セウナン)を最良とし、素地塗の光澤と美觀とを嗜好するの風あり、該樹は單に北部のみならず全島の指物用材の代表たるの觀あり、**楠仔**(タブ類の總稱)は臺灣產の濶葉樹材中最も普通の代表材にして楠仔料と稱し、用途の廣汎なる他に比儔を見ず、其他の樹種は一定の名稱あるも使用者每に其名稱を異にし、其材質の如何によりて充分識別し得べき科學的能力は固より求むべくもあらず、從て外觀、用途の略〻相類似せるものは之を同一名稱の元に一括し、單に之を楠仔材として取扱ふ、中部地方(臺中市を中心標準とす)は肖楠を優良材として嗜好するも埔里地方

にては容易に得難きのみならず、價格の不廉は百日青(マキ)を嗜好するの慣習あり、南部地方(臺南市を中心標準とす)は中北部の夫れと稍趣を異にし、復雜なる彫刻又は木象嵌等を嗜好すること甚し、而して其用材は茄苳(アカギ)を主要材として百日青(マキ)、山杉(ナギ)、烏心石(ヲガタマノキ)等之に亞ぐ、楠仔は普通材として使用すること中北部に讓らざるも多くは漆塗を施す、肖楠は優等材として之を賞用せざるにあらざるも、其分布は中部以北にして、其産地と隔遠し、加ふるに該材の供給は近時著しく減少せしため材價に影響し、特別嗜好の外は多く之を使用せず。

以上は指物卽ち小木匠工の區別と用材樹種の地方的概要なるが、特に注意すべきは、因襲主義なる本島人も從來の慣用材の選擇のみに捉はるゝこと能はず、地方によりては薪炭材の外、觀みざりし所謂雜木を代用するに至りしと、營林所材の潤澤なる供給に伴ふ材價の低廉と、其特色ある材質とは、加工能率の大と、相俟ちて松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)の如きは何れの地方を問はず、之を使用するに至り、殊に近來は材價の低廉なる北海松(トヾマツ、エゾマツ)又は樺太松(同上)を白松柏と稱し使用するに至りしが如き、是等の原因は種々あるべしと雖ども、近來木材の需要が激增し、從來消費の中心に近き産地の森林資源が漸次に窮乏を告げ、加ふるに物價騰貴の諸掛に及ぼしたる經濟關係の反映により、從來の用材選擇標準に變化を來したるが爲めなるべしと雖も、時代思想乃至は民度の向上が牢乎として拔くべからざる因襲主義の一角を動搖せしめたる結果たらずんばあらず。

翻て木工品の構成、意匠を通觀するに、前述の如く厝屋の構造は押入戸棚等は勿論、床板の設備なきを以て、本島の家具は一般に露出的なる裝飾に適應すべく、平面的裝飾法よりも立體的裝飾法に意匠製作せられ、其形狀及著色の如き冗繁にして濃厚なるもの多く、頗る沈重の趣に富む、又居常、卓子、椅子を使用するを以て、其種類の多種多樣なる、實に枚

擧に遑なし、然りと雖も、家具の種類と其配屬は各間によりて一定せるを以て、指物の種類は各間の所屬に從て之を分類して、記述するを便なりとなす。

次に其各說に移らんとするに先立ち、代表的の用材數種を選び、其材の理學工藝的に關する性質及利用變遷の概說を述べ、多種に亙る家具及器具の各個に就て縷述するの繁を避けんとす。

一 舊來より慣用せるもの

樹種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石(スシムチヨ)	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
茄苳(カアタン)	Ka-tang	アカギ
楠仔(ラムア)	Lâm-á	オホバタブ
山杉(ソアサム)	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青(パアジツチイ)	Pah-jit-chhi^{n}	マキ

特質

肖楠(セウナンボク)は中部地方にて黃肉樹(ŃG-bah-chhiū)と云ふ、心材の黃褐色を呈するによる、本島に於ける代表材の一なり、元來肖楠は臺灣及支那の原産にして、本島にては中部以北に産す、彼の合衆國のインセンスシダー(Incense ceder)卽ちLibocedrus decurrens *Torr.* 南米産のLibocedrus chilensis、ニユージーランド産のニユージーランド・シダー(Newzealand cedar)卽ちLibocedrus Bidwillii *Hook. fil.* 及、Libocedrus Doniana *Endl.* 等と同屬にして、其種類極めて尠く、僅かに是等の數種に過ぎず、就中本島産のものは材質最も優良にして芳香を放つ、肖楠(クス)(楠に肖似せる芳香ある木の意義)の名ある所以なり、肌理甚だ緻密にして、硬度は本島産針葉樹中大なるものゝ一なり、其硬度試驗に當り鋼鐵球(スチールボール)を供試材に壓入するや、皆悉く供試材の割裂を生

起するは、其密度の大を示すものにして、此狀態は癒瘡木(リグナムバイター)(Guiacum officinale L.)及白檀(Santalum album L.)材の夫れと異なるなし、然れども加工は比較的容易にして鉋削面は滑澤あり、又研磨に適す、塗料の利(キ)き極めて良好にしてラックを塗れば鮮かなる光澤を放つも感觸は極めて淡く俗氣を生せず、家具裝飾材の覇者と稱せらる、本樹は直幹をなすもの尠く多くは屈曲するを以て當(アテ)あり、又木纖維錯綜して逆目を生起し易し、本材の缺點は粘靭性に乏しく、割目と缺損を生じ易きことなり、故を以て緻密なる透彫(スカシボリ)には適せざるも、大型の厚彫(アツボリ)又は挽物に適す、臺中州下の東勢方面より産出するものは、材質柔かにして細小なる胡麻斑(ゴマフ)ありて最も聲價あり、材の鋸屑は淨香と稱し線香の調合料として利用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)とは「材色黑く(烏の羽色の如く黑しとの意)して石の如くに堅し」と云ふ意義より來りたる全島的の名稱なり、然れども材は新しき狀態にありては、邊材は淡黃灰白色を呈し、同科に屬する內地產ホホノキ(Magnolia ovobata *Thunb.*=木蘭科 Magnoliaceae,)の夫れに髣髴たるものあるも質は頗る堅重なり、今次に著者の實驗に基づく兩者の理學的性質の成果を比較するに、烏心石の年輪密度、比重、負擔强、抗壓强(縱壓)、抗伸强、抗剪强、硬度等の平均數値を 100 とし、ホホノキの夫れの平均數値を改算すれば

樹種別	年輪密度	比重	負擔强	抗壓强(縱壓)	抗伸强	抗剪强	硬度
烏心石(ヲガタマノキ)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ホホノキ	93.3	97.6	67.6	87.1	87.5	69.0	62.8

本表の如くにしてホホノキは烏心石に比し、年輪密度(供試材の斷面の半徑方向に於ける平均一糎間に存在する年輪數)の平均値が約 7 分小なる場合に於て、比重は約 2 分、負擔强は約 3 割 2 分、抗壓强(縱壓)は 1 割 3 分、抗伸强は約 1 割 3 分、抗剪强は 3 割 1 分、硬度は 3 割 7 分、小なるが故に年輪密度の同一

なる場合に於てはホホノキは烏心石に比し、及ばざるは勿論なり、心材は暗黃褐色を呈す、本材は柾目に挽かざれば狂ひを生じ易し、柾目に見れば木理は通直なるが如きも、週期的なる生長層の組成は交互に中軸に或る角度の傾斜をなして回撚錯綜するが爲め、徑斷面卽ち柾目に鋸斷する時は組織の走行方向によりて細胞は斜斷せられ、是を鉋削すれば照射光線の方向に平行する各層帶は光澤を發し、逆行層は之に反す、これ帶狀に平行せる條縞の分明する所以にして、此性狀は割裂は勿論、鉋削仕上の手數に煩を及ぼす、然れども仕上りは極めて優美なり、新らしき鉋削面は日を經る毎に古色を呼び雅致を增す、研磨に適するを以て塗料の利(キキ)も極めて良好なり、材の糊著力は亞杉、肖楠に次ぎ、釘の緊著力、枘持等も他に比し頗る大なり、材は極めて强靭にして負擔强試驗當時に於ける破壞時の撓みの大なることは、これ又相思仔(サウシジュ)と共に本島產の主要材中他に比儔なし、此靭性は彫刻材としての一要件にして、緻密度及網目と相俟ちて彫刻材に賞用せらる、抗折及抗壓强も家具用材中、茄苳に亞いで大なり。

茄苳(アカギ)は材稍〻堅重にして其硬度は肖楠と相伯仲す、心材は帶紫赤褐色を呈し、邊材は稍〻淡し、肌理は粗にして柾目に挽かざれば狂ひを生じ易し、然れども泥水中に數年間沈漬するときは黑褐色に變じ、狂ひの程度を減少することを得、材は靭性に富むが故に蒸し曲げに適す、加工は困難ならざるも、導管部には白色の充塡物卽ち磷酸石灰の沈澱、斑狀をなして點在し、鉋の刃を損傷すること少からず、本樹の石灰土壤の發達せる土地に生育したるものは、材色濃厚にして、生石灰の溶液を塗布すれば直に帶紫黑色を呈し、紫檀の模擬材となり、甚だ雅致あるのみならず、本來茄苳材は塗料の吸收力大なるが故に一層の美觀を呈す、本島產貴重樹種の一に數へられ、其材色の美なるものは素地のまゝマホガニー(Swietenia Mahagoni L.)に代用し得可し。

楠仔とはMachilus屬の總稱にして、眞の楠仔は**大葉楠仔**(オホバタブ)なり、臺灣產、濶葉樹中、普通品として最も利用系の廣汎なる代表的の用材なり、材は心材は淡紅灰褐色又は帶紅黃褐色を呈す、質は堅硬中庸にして加工、容易なるも稍〻狂ひ易きを缺點とす、材の光澤は少きも塗料の著色は良好なり、各種の抗力を初め釘の保持力、糊著力、枘持等も頗る大なり、材は長大なるもの多く、價格も低廉なるにより、樟腦が專賣制となりて樟樹の伐採を禁止せられし以來、本材は其代用材として益〻其利用を增大するに到れり。

山杉(ナギ)は邊材は淡黃灰褐色、心材は稍〻濃色を呈し小さき胡麻斑を有す、質は緻密にして稍〻堅く、其硬度は家具用材の針葉樹中、肯楠、百日青に亞ぐ、材の抗折及抗壓强は大なるも、肯楠と同じく粘性に乏し、然れども狂ひは少し、加工は難きにあらざるも、鉋は澁り、鉋削面は光澤に乏し、素地色の塗料は良好ならず、特にラックを施したる場合に於て然りとす。

百日青(マキ)は山杉と同屬なり、材色は稍〻暗色を帶び淡紅灰褐色を呈し、小なる胡麻斑を有す、山杉に比すれば外觀、落付き澁味あり、質は緻密にして加工し易く、鉋の乘り頗る良好にして、其鉋削面は滑澤あり、ラックを塗れば光澤を生ず、材の重さは比重階級によれば輕級に屬するも、山杉よりは約1割內外重し、硬度は山杉より1割5分位小なり、狂ひ少きも粘性あり、爲めに彫刻部に使用するも缺損の恐れなし、抗折强は家具用材の針葉樹中最も大なるも抗壓强は稍〻小にして中位數を有す、臺中州新高及能高郡下より多く生產す、南部地方にて高雄州、潮州郡下の蕃地より生產す。

二 近來の利用に係るもの

樹種

地方名		和名
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ
亞杉	A-sam	タイワンスギ

特質

松梧(ヒノキ)は竹山地方にては厚殼(Kaň-khak)と云ふ、蓋し紅檜の樹皮に比し厚きに由る、內地產ヒノキに比すれば稍重く、强度の大なる割合に靭性は小なり、材は赤味强く、樹脂多し、ベニヒに比すれば狂ひ多く又割目を生じ易し、加工はベニヒに比すれば大差なきも鉋削は一般に澁ぶると稱せらる、樹脂多きを以て抽出の出入を妨げ且つ含有成分は衣類の色物を褪色せしむの缺點ありとして、抽出の內部用材には十全ならずと稱せらる、然れども材は緻密にして研磨に適し塗料の利き良好なるを以て、家具又は器具材に好適し、慣用材の代用材として其特質を認めたると、潤澤なる供給に加へて材價の遞下は近來大に需要を喚起するに至れり、元來松梧は古くより櫧櫥(質堅而膩大者數圍性重入土不朽僞鄉取爲棺屍悉化故名消耶)として淡水廳誌、臺灣府誌等に記載せられたる註解の如くに棺材に關する記事の外、他の用材としての記載なきは其名稱起因の傳說を嫌忌して之を使用せざるが爲めなるべく、現今の旺盛なる利用は木材に關する智識の普及と、生產の增大とによる利用變遷の例證を明に語るものと云ふを得可し。

紅檜(ベニヒ)は臺灣特有の樹種にして營林所主要材の一なり、材は稍〻輕軟にしてヒノキに比すれば比重、硬度及强度等何れも2割內外小なり、然れども狂ひと割目を生起することの少きは反つて其優越點なり、材に俊烈なる一種の香氣を有するも漸次に消失す、色は紅褐色なるを普通とするも、往々にして黃色を呈し松梧と類別し難ものあり、本材は紅檜と松梧との中間性を有し杣夫は俗に「アイノコ」と云ふ、其工作的性狀は寧ろ兩者より優るものあり、坊間にては扁柏の名稱の元に使用せ

られ建具用材に適好すと稱せらる、總して紅檜は松梧に比し加工容易にして塗料の利も亦た比較的良好なり、本材には蓮根材と稱し立木の生活中、材部を腐蝕菌の爲めに犯され、其狀恰かも蓮根巢の如くなるものあり、材の利用價値を損すること甚し、竹山地方の本島人は呼んで蠅蟧(Lok-chhah)と云ふ、蓋し腐斑が花鹿の白斑に髣髴たるものあるが故なりと、價格の特に低廉なると夫れ以上に白蟻其他の害蟲に絶對的の抵抗を有するてふ傳說あるが故に同地方にては建築柱に賞用す、又各地に於ても棺柴に使用せらる、同地方にては松梧の樹皮の厚きに比し薄きを以て之を薄皮(Poh-phê)と呼び、古くより棺材又は桶板(樽)として利用し該地方の附近に之を供給せり、阿里山材の初めて上市せし當時は市街地にては一般にヒノキと共に松梧の名稱の下に一括したるも近來、材の出廻り豐富となり、價格の又た遞下するに及び棺材は勿論、各般の用材として其利用價値を認め、其需要の旺盛なるに及び今は營林所材名を其まゝ紅檜(Aûg-koê)と呼稱するに至れり。

亞杉(タイワンスギ)は是亦本島特有の樹種にして竹山又は北部の蘭陽地方にては之を松蘿(Siông-lô)と呼ぶ、竹山地方にては古くより棺材に利用したるものなりと云ふ、材質は內地杉に似たるも緻密性にして割裂極めて容易なり、本材を資料とせる柿枚の一種なる杯(第二二 杯用材參照)は同地の特產物なり、心材の色は一定せざるも、黃地に鮮かなる紅紫色の混淆せるもの、又は深紅紫色に鮮黃色の點在せるもの、深紅紫色のもの等あり、特に其杢板の如き紅蓮の猛威に髣髴たるものありて、壯美を極む、其材色の美は一種の雅致にして器具裝飾材に利用せらる。

上敍の各樹種に就て著者の實驗せる材の比重及外力に對する抗力試驗の成績を參考の爲め表記すれば次の如し。

注意 本表の數値は肯楠の數値を100として改算せるものなり。

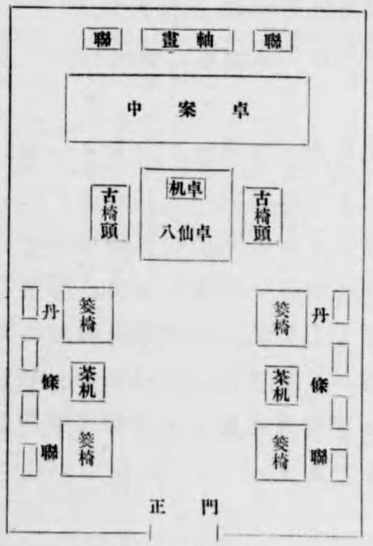
樹種名	比重	硬度	抗折强	抗壓强	抗伸强	釘の保持力	糊著力
肯楠(セウナンポク)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
烏心石(チガタマノキ)	104.8	89.5	115.6	128.2	143.5	127.9	90.4
茄苳(アカギ)	137.1	100.8	135.9	135.1	196.7	159.4	78.2
楠仔(オホバタブ)	96.8	54.9	108.3	124.0	—	85.8	83.8
山杉(ナギ)	91.9	71.5	99.5	111.6	138.6	77.3	—
百日青(マキ)	96.8	83.7	119.0	100.0	—	103.6	—
松梧(ヒノキ)	85.5	56.0	88.7	110.5	206.5	62.3	87.9
紅檜(ベニヒ)	69.4	42.5	69.0	82.9	109.8	45.8	70.4
亞杉(タイワンスギ)	72.6	38.0	66.7	92.5	109.2	56.7	112.9

附 裝飾彫刻用材の比重及外力に對する材の性質は彫製用材(第七)に併記す。

一 廳堂(Thia^{n}-tûg)用具用材

總說

廳堂(第一 建築用材の一 建築法の概要參照)は一に客廳(Kheh-thia^{n})の名あり、これ平素正式の儀式及來客に應接するに用ひらるゝによる、恰も日本家屋の床の間と佛間とを兼ねたるものに相當す、廳堂の位置は門を入りて正中面に設くると雖も、商業を營む店舗にあらざる街庄地の普通の厝屋にありては道路に面せる部分は殆んど廳堂にして厝屋中の第一の廣間(大なるは間口2間奥行3間尙大なるものあり)なり、凡て清潔を旨とし、香を焚き、穢物は一切之を拒み、威嚴を保持し堂に入る時は自ら敬神、崇祖の念を湧起せしむ、堂內は正面壁に書畫軸(主と



廳堂平面圖

して神、佛、仙の畫像なれども稀には書、山水畫等も見ることあり)を、其左右には聯(半切形の掛軸にて軸面は紅紙、文句は對句なり)を懸く、正面に近く大案卓又は中案卓を据ゑ卓上には正式として中央に大鏡(塞付にして福祿壽の彩畫を寫したるものと、普通の硝子鏡とあり)右方には時表(据置時計)、花矸(陶器製の花瓶なり)、左方には古盤(果物、菓子、草木花等を盛れる皿にして一種の裝飾なり)を飾る、普通卓上には神、佛、仙の彫塑像及神主(位牌)を安置し、燭臺、香爐等を備付く、卓の前には八仙卓又は四仙卓を据へ、卓上の後方に偏して机卓仔を置き、其中央に煊爐(銅製にして香木を焚く器具)を備へ、右に花矸仔(花矸の小形なるもの)、左に古盤仔(古盤の小形なるものにして珍果を盛る)を置き、卓に添ひて古椅頭と稱する椅子を列ぶ、左右の壁面には丹條聯と稱する半切形四副對の軸物を掛け(主として書畫)、其下に茶机仔を置き、之を挾みて左右に簽椅を並べ、來客用に供す、儀式に際しては壁面の上方に彩と稱し赤地に精巧なる刺繍を施せるもの(八仙像を模樣取れるを八仙彩、六仙像なれば六仙彩の名あり)を懸け、八仙卓の前には卓裙と稱する刺繍ある飾布を垂れ、又室の中央よりは彩燈と稱し裝飾を施せる燈籠を吊下す。

イ 大案卓 Toū-àn-toh 及 中案卓 Tiong-àn-toh

構造

廳堂備品中の主なるものにして、其用途は前述せるが如く一種の祭壇なり、其構造は高さ普通4尺2寸、幅2尺内外、長さ7尺乃至8尺の細長き腰高の唐机式の長卓子にして各部は卓面(Toh-biu)、卓脚(Toh-kha)、脚杆(Kha-koai^{n})よりなる、中等品以上のものは脚杆の持送りに屈己(Khut-kí)と稱する透彫を施す、多くは漆塗となすも上等品の彫刻部、及縁取りには金銀箔を貼附して沈重、莊麗の趣を添へしむ、價格は用材、彫刻の精粗によりて差異ありと雖も、下等品は18—19圓、普通品25—26圓乃至35圓、上等品は70—80以上數百圓に達するものあり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
樟	Chiu^{n}	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
茄苳	Ka-tang	アカギ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
狗骨仔	Káu-kut-á	シロミミズ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品の卓面、卓脚に使用し、又中等の卓面に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は中北部にては中等品の卓脚に利用するも需要者によりては卓面をも製作す、又上中物を問はず屈己(持送り)の彫刻部には殆んど本材に限り是を使用す、材の强靭にして木纖維交錯し容易に割裂又缺損を生せざるが爲なり。

山杉(ナギ)の素地塗りは光澤に乏しく、特にラックを施したる場合にありては白味を帶び茶ッポクなるを以てラック塗りの流行旺盛なる今日、北部に於ては漆の濃色塗りの外、本材は餘りに賞用せられず、新竹、臺中地方にては幅物の上材は上等品の全部に使用す、又臺南地方にては裝飾部の象嵌材に使用することあり。

百日青(マキ)は中南部地方にては上等級の卓面、卓脚に使用し、中部にては二水材卽ち新高郡下より生產するものゝ材質を最も優良なりとして賞用す、南部地方にて屏東及潮州郡下の生產材を使用することあり。

茄苳(アカギ)の臺南を中心とする南部地方の代表材なるは前述の如

くなるが、同地方にては、上等物の全部に使用し、**白仁**(クチナシ)、**狗骨仔**(シロミヽズ)、**山杉**等の如き白色材又は**黃肉樹**(シマカゴノキ＝北部にて鐵臭楠と稱す)、**九芎**(シマサルスベリ)及**柯仔**(タイワンジヒ)の埋木等の如き黝色又は黑色材を貼り合はして作りたる**帶模樣**、又は**線模樣**等の象嵌にて裝飾す、黑色材には**毛柿**(ケガキ)又は**烏材柿**(マダガキ)を賞用することあるも入材困難なるを以て前記の黝黑色材又は著色材にて代用す。

楠仔(オホバタブ)は南北部を通じ普通品に使用す、北部に於ては主として三峽市場材又は文山郡下の平廣坑產材を、中南部分地方に於ては二水市場の所謂**南投楠仔**(對岸地方の呼稱)を賞用す。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は輕量なりとの說あるも濃色、漆塗を施すを以て外觀の美は、中等級のものに南北を通じて代用せらる、

樟(クスノキ)は保存期永きを以て**脚臺**に賞用し**烏心石**、**楠仔**を以て代用材と爲す。

ロ 八仙卓 Pat-sian-toh

用途及構造

八仙卓は上述の用途の外に、食卓として使用する場合なきにあらず、其構造は3尺2寸の方形にして、高さ2尺8寸、卓面、卓脚、卓杆(Toh-koaiⁿ)等よりなる。

用　材

樹種及特質並利用地方

大案卓用材と同樣なるも、北部に於ては**卓面緣**の裝飾彫刻及象嵌材に赤褐色の**茄苳**(アカギ)を、南部にては白色の**白仁**(クチナシ)を使用するを異なりとす。

ハ 机卓仔 Kí-toh-á

構　造

一に**煊爐仔**(Soāⁿ-lô'-á)と云ふ、其構造は花臺形にして長方形、長さ1尺

5寸、幅8寸、高さは2寸5分乃至3寸、脚部又は**面緣**に彫刻を施し、頗る技巧的に製作せらる、脚端には四脚を連結して固むる薄板の**脚達**(Kha-táh)を附す、漆塗又は金泥となす。

用　材

樹　種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
狗骨仔	Káu-kut-á	シロミヽズ
石柳	Chioh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
茄苳	Ka-tang	アカギ
山杉	Soaⁿ-sam	ナ　ギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マ　キ
白仁	Peh-jîn	クチナシ

特質及使用部分並利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にて全部に使用し、**石柳**(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類、**狗骨仔**(シロミヽズ)は北部にて裝飾部の彫刻に、**茄苳**(アカギ)は**脚部**、**脚達**又は**面緣**等に利用す。

百日青(マキ)、**山杉**(ナギ)は中部地方にて全部に、**石柳**、**茄苳**は其彫刻部に賞用せらる。

南部地方は**茄苳**を全部に、彫刻部には**白仁**(クチナシ)を利用す。

ニ 茶机仔 Tê-kí-á

用途及構造

茶机仔は箋椅の附屬具なり、一種の喫茶用小卓子にして**脫**(Thoah)卽抽出を有す、然れども普通は抽出の代はりに**段棚**を設く之を**架仔**(Kè-á)と云ふ、**脫**及**架仔**には應接用の茶器其他を藏む、本品は廳堂又は客室必

須の備品なるにより、用材を選擇し、漆塗を施して美觀を添はしむ、其構造は矩形にして、上記の各部の外茶机仔面及茶机仔脚、及杆よりなる、卓面は長さ1尺6寸、幅1尺、高さ3尺、接合部はすべて劍留となす。

用　材

樹　種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
茄苳	Ka-tang	アカギ

使用部分及利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部地方に於ては上等物に、烏心石(ヲガタマノキ)は何れの地方にても中等品に、百日青(マキ)、山杉(ナギ)は中部地方にて上等物に、茄苳(アカギ)は南部地方代表的、嗜好材として上等物に使用せらる。

木　椅(カウイ)　Kau-í

用途及構造

椅は椅子(Chair)の一種にして組をなす、客室の左右兩側に置き、甲椅と乙椅との中間には必ず茶机仔を据へ、一室に2組宛(茶机仔2脚、椅4脚)を備ゆるを法とするは前述の如し、本品には木製と竹製との二種あり、木製のものは上等品にして漆塗を施す、其構造は椅子と同じく椅面、椅背(Kau-í-poè=倚靠)、手掛(Chhiú-khòa=臂掛)、椅脚の各部よりなる、椅面は1尺9寸方形にして、背面の椅背は高さ1尺4寸、幅1尺3寸、其中央部には、縦に幅5—6寸の背板(Poè-pang)を附す、背板は挽き拔き細工又は彫刻若くは圓形の杢板等を以て裝飾す、椅面の兩側に附する手掛は

高さ5—6寸、椅脚は高さ1尺5寸を、普通とし、四脚は椅杆にて固む、組方は劍留となす。

用　材

樹　種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
石柳	Chioh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
茄苳	Ka-tang	アカギ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
樟	Chiu^{n}	クスノキ
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aṅg-koè	ベニヒ

特質及使用部分並利用地方

北部に於ては肖楠(セウナンボク)は上等品に、烏心石(ヲガタマノキ)、山杉(ナギ)は中等品に使用するも、中部地方に於ては百日青(マキ)、山杉を上等品に、烏心石を中等品に使用す、南部地方にては茄苳(アカギ)を上等材となし、椅面と同脚とを除く他の部分に使用するも、椅脚には强靭にして納持强く且つ保存期永き烏心石を選用し、椅面にも亦た本材を使用す、蓋し滑澤ありて夏季、熱を傳導せざるの特質あるが爲めなり

と稱せらる。

簽椅背の中央部の嵌板は最も眼に觸れ易きを以て、有色材にて象嵌又は彫刻にて裝飾するを普通とす、北部に於ては茄苳及石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類を、南部にありては白仁(クチナシ)山杉等を使用す、樟(クスノキ)は杢板を利用するものにして肖楠を練心として貼附したるものを使用す。

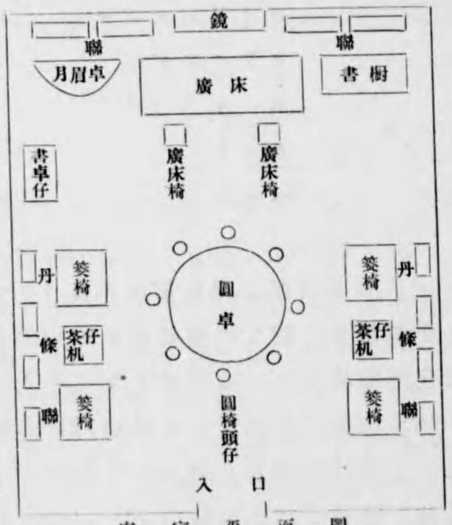
桂竹仔(タイワンマダケ)は竹稈適大、質堅靭にして强度大なるを利用し、全島的に竹製に使用す。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)、福州杉(コウエフザン)、日本杉(スギ)等は工作容易にして且つ塗料の著色良好なるにより、竹製簽椅の面に使用し、朱漆を施す。

二 客室(Kheh-sek)用具用材

總 說

一に客間(Kheh-keng)又は間仔(Keng á)と云ふ、平素來往の貴賓、親戚、朋友を應接する專用室なり、厝屋の左右、何れか便宜の個所に設く、此室は客人に對る其家の體面にして、此室の結構、裝飾等によりて其分限、家格を評價し得ると云ふ慣習あるが故に、清掃に留意し、香を焚き、諸般の設備を整へ莊嚴華麗を劃す、其内部の設備は富限の程度によりて差異ありと雖ども、普通は室の一方に廣床を据ゑ、其前面左右には



客室平面圖

廣床椅一脚宛を備ふ、正面の壁に照身大鏡、神仙、聖人又は偉人等の肖像(一に小影と云ふ)或は名詩、名句の腹方なる軸物を懸け、其兩側には聯對を貼附し、室の左右兩側には丹條、書畫、聯對二軸宛を懸け、其下には簽椅、茶机仔組(簽椅四脚、茶机仔二卓)を備へ、中央に圓卓一脚を据ゑ、其周圍には數脚の圓椅頭仔を配置し、廣床の左右兩側には月眉卓、書卓仔及書櫥を備ふ。

イ 廣床 Khòg-chhńg

用途及構造

廣床は一に大床(Tōa-chhńg)とも云ふ、本島中流社會以上の客室の備品にして圍碁、將棋其他の遊戯臺となすものなるも、又眠床の代用ともなる、近來は其使用の流行稍〻減少せり、其構造は寢臺に類し長さ6尺4寸、幅4尺、高さ2尺、床面の後方には高さ2尺5寸、幅1尺の廣床机(Khòng-chhńg-kí)を置く、床面の兩側には高さ1尺内外の廣床腹(Khòng-chhńg-tó·)を取り付け、正面には廣床道(Khòng-chhńg-tō)及廣床脚(Khòng-chhńg-kha)を附し、多少の彫刻を施す、多くは黑漆にて塗らるゝも、上等物には螺鈿の花鳥を嵌入(南清廣東よりの輸入品多し)す。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
茄苳	Ka-tang	アカギ
烏心石	O·-sim-chióh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
荔枝	Nāi^{n}-chi	レイシ

特質及使用部分並利用地方

肖楠(セウナンボク)は多く北部に使用するも素地塗となす。

茄苳(アカギ)は落付ある赤褐色の材色を利用し、各地方にて上等品に賞用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は抗力大なるを以て廣床脚に、北部にて使用せらる。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中部地方にて中等品に用ひらる。

荔枝(レイシ)は南支よりの輸入に係る、材は堅重緻密にして、黑檀の摸擬容易なるにより賞用せられしも、今は殆んど使用せず。

ロ 廣床椅 Khòng-chhng̍-í

用途及構造

廣床椅は廣床の附屬品にして、正面及其左右に1脚宛据ゑ、廣床の昇降臺となる、椅仔面は緣框に格子狀に横棧を嵌入せるものにして、之を脚踏枳(Kha-tàh-chí)と云ふ、其構造は長方形にして、高さ8寸、椅仔面は長さ1尺4寸、幅1尺なり。

用 材

樹 種

地方名		和名
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナ キ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マ キ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ

特質及使用部分竝利用地方

烏心石(ヲガタマノキ)は北部に於ては、材の堅靭にして摩擦に堪ゆると又抗壓及抗折强の大なるとを利用し上等品に使用す。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)、**烏心石**は中南部に於ては上等品に用ふ。

楠仔(オホバタブ)各地共に普通品に最も多く使用せらる。

ハ 茶机仔 Tê-kí-á

廳堂用具用材の(ニ)に併記す。

ニ 筊椅 Kau-í

同上の(ホ)に併記す。

ホ 圓卓 I^{n}-toh

用途及構造

客室の中央に備ふる圓卓子にして、骨董、盆栽等を載する外又來客用の食卓になることあり、故を以て用材の選擇に顧慮すること頗る大なるが如し、其構造は大小數種ありて一定せざるも、普通のものは卓面、卓脚よりなる、大形物は卓面の直徑4—5尺、四脚を有し、高さ3尺内外なるも、普通の2尺8寸徑の卓面を有するものは、中央部にて1本の大脚にて支持し、基部は三叉、又は四叉に分岐する小脚にて安定す、高さ2尺7—8寸内外なり、面緣は高さ3寸、薄板又は胡蘇殼面を附したる板を貼附して裝飾す、卓面の周緣には帶象嵌又は線象嵌等を嵌入して裝飾し、漆塗を施す。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナ ギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マ キ
大頭茶	Toā-thâu-tê	タイワンツバキ
烏皮茶	O'-phê-tê	シンコウツバキ
茄苳	Ka-tang	アカギ
石柳	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ

白仁	Peh-jîn	クチナシ
狗骨仔	Káu-kut-á	シロミヽズ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品の全部に使用し、**山杉**(ナギ)は卓脚の裝飾脚卽ち大脚に利用す、之材質緻密にして鑱工し易く、又肖楠の如くに容易に缺損せざるに由る。

中南部地方にては竹杉、**百日青**(マキ)を上等品に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)、**大頭茶**(タイワンツバキ)は材質、緻密にして鑱工に適し且つ强度大なるを以て、中央部の大脚に使用す、殊に烏心石は木纖維錯綜し、抗割性大なるを以て、尤も小脚卽ち叉脚に賞用せらる。

烏皮茶(シンコウツバキ)は大頭茶に代用す。

茄苳(アカギ)は南北何れの地方も赤褐色の材色を利用し、象嵌用材として卓面の裝飾部分に賞用せらる。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は各地共に黃白色の材色と、質の精緻とを利用し、卓面の裝飾象嵌に賞用し、中北部に於ては**狗骨仔**(シロミヽズ)を、南部に於ては**白仁**(クチナシ)、を代用材となす。

ヘ 圓椅頭仔 I^{n}-í-thaû-á

用途及構造

腰掛(Stool)の一種にして圓卓の附屬品なり、其構造は圓椅頭仔面及圓椅頭仔脚よりなる、椅仔面は圓形にして、直徑8寸、厚さ1寸2分、周緣は丸面を附す、全高1尺8寸、多くは漆塗を施す。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ

山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
薯荳	Chû-tāu	コバンモチ
柯仔	Ko-á	タイワンジヒ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品に、中南部にては**山杉**(ナギ)、**百日青**(マキ)を使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は各地共に中等品に、**楠仔**(オホバタブ)は普通品用材として最も多量に利用せらる。

北部低地帶の山地にては松柏(タイワンアカマツ＝造林樹種)を椅仔面に、山杉、烏心石を脚部に選用す、松柏は塗料を加へざるも、使用するに從ひ、滑澤を生じ衣衫を損耗せめしざるの特質ありと稱せらる。

柯仔(タイワンジヒ)は近年の利用に係る、餘りに一般に歡迎せられず、是本材の導管は**カシ**屬の特徵として輻射狀に配列し、縱斷面には線狀に現はれて材の粗なるを思はしめ且つ衣衫の損耗比較的大なりと云ふにあり。

材料の處理

圓椅頭仔面は從來資材を彎鋸と稱する一種の廻はし挽きにて引き加工したるも工賃高率に上るにより、近來は車枳司阜(鑢鑪師)の專業として取扱はるゝに至れり。

ト 月眉卓 Geh-bâi-toh

用途及構造

月眉卓は其名稱の如く半月形の卓子にして、客室裝飾品の一として尤も貴重せらる(本品は又寺廟にも使用す)、其構造は卓面、卓脚よりなる、脚は3本にして杆を以て連結固定し、時に脚逵を附することあり、卓面の周圍に

は卓面より稍低く幅3寸内外の裝飾**面緣**を附す、此面緣の中央には特色ある木材を以て雲形卽ち**屈巳**(Khut-kí)と稱する、精巧を極めたる彫刻を施す、又脚端には馬蹄形の彫刻を施すを以て一名之を**馬蹄脚**(Bé-thê-kha)とも稱す、卓脚及び杆の嵌入部は**劍留**となす。

用 材

樹 種

地方名		和 名
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナ ギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マ キ
茄苳	Ka-tang	アカギ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
白仁	Peh-jîn	クチナシ

特質及使用部分並利用地方

月眉卓は贅澤品にして一般的のものにあらず、且つ3脚立ての構造上用材の美觀は勿論、强靭にして强度の大なるものを要件とす、**烏心石**(ヲガタマノキ)は適材として北部にて使用せらる。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は**肖楠**(セウナンボク)に比すれば、靭性あるにより、中部地方にては全部に使用す。

茄苳(アカギ)は外觀美にして、其靭性、强度は寧ろ**烏心石**に優る、南部地方は本材を全部に使用す、又本材は其材色を利用し、各地共に**屈巳**の彫刻材に賞用す。

南部にては**茄苳**の赤褐色の素地に適合する樣に灰白色の**白仁**(クチナシ)を**屈巳**に使用す。

チ 書櫥 Chu-tû

用途及構造

書籍箱にして、其構造は種々あるも、**高低櫥**に類し、上下二段よりなる、上段には幅3尺、高さ4尺の**榱枳門**(Soe-chí-mâng)と稱する觀音開ありて上下兩側に彫刻を點附す、扉は木骨に裏面より絹布其他の布類を貼り付け、下段には2個の脫(抽出)を附す、基脚に近く**脚踏枳**(Khá-tah-chí)を嵌入す、全高6尺5寸(內脚部2尺)、長さ3尺、幅1尺5寸あり。

用 材

樹 種

地方名		和 名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナ ギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マ キ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Áng-koè	ベニヒ
茄苳	Ka-tang	アカギ
石柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁	Peh-jîn	クチナシ

特質及使用部分並利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にて上等品に、**烏心石**(ヲガタマノキ)は中等品に、**山杉**(ナギ)、**百日青**(マキ)は中南部にて上等品に**松梧**(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は各地共に中等品に使用せらる。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は各地共に彫刻の主材に、**狗骨仔**(シロミヽズ)は中北部にて其代用材に、南部地方に於ては**白仁**(クチナシ)を代用材となす、**茄苳**(アカギ)の材色は南北を問はず彫刻部に

賞用す。

リ 書卓仔 Chu-toh-á

用途及構造

書卓子は讀書用卓子なり、其構造は長方形にして、高さ3尺、幅1尺5寸乃至1尺7—8寸、長さ3尺乃至3尺3寸、其主なる各部は卓面、卓脚よりなる、脱は2個又は3個を附し、卓脚の左右兩側の中間には杆(横棧)を嵌入す、卓脚及杆の嵌入部は劍留となす。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ

特質及利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部に於ては特等品に、烏心石(ヲガタマノキ)は上等品に、楠仔(オホバタブ)は全島的に普通品に使用せらる。

百日青(マキ)、山杉(ナギ)は中南部地方にて上等品に、松梧(ヒノキ)紅檜(ベニヒ)は中等品に使用せらる。

三 房間(Pâng-keng)用具用材

總 說

房間は廳堂の左右又は後方に適當に配置する部屋にして、入口には門簾仔頭と稱して刺繍を施せるものを飾り、室の一方には眠床(寢臺)を

据ゑ蚊帳にて之を覆ふ、眠床の正面上部に蚊帳(一に帳幃と云ふ、八仙彩狀の裝飾物にて花鳥の類を繡す)を垂れ、簾の下方には蚊帳鬚(上部を編みて下部を總さす)を下げ、其兩側には長く劍帶(刺繍を施せり)を垂る、眠床の上には蓆を敷き、綿被(布團)及枕頭(枕)を備へ(使用せざるときには綿被は縱に四つ折りとし、眠床の後方に長く置き、枕頭を其中央に載す)、眠床の前には脚踏椅(踏臺)あり、室の一方には帖案卓(中案卓の小なるもの)、六仙卓又は四仙卓(二者何れも八仙卓と同形にして稍小なり)を据ゑ、帖案卓上には時鐘(時計)、案頭燈(置洋燈)の類を置き、六仙卓の兩側には古椅頭を備ふ、尙ほ胸壁には丹條聯を懸け更に室の一方には高低櫥(重戸棚)及卓櫃を据ゑ、他側には梳粧卓及面桶架を備へ架上には面桶(洗面器)を置き、皓仔架、鏡仔等を附屬す、室の一隅即ち眠床に向つて右方幕中には尿桶(便器)を置くを定則とす、然れども這は中產階級の標準にして貧富により裝置に差あることは勿論なり、富豪段戸の豪者は論外とし、其下層社會に於ては廳堂、房間、灶脚(厨房)等を兼ね壁間には煤けたる畫狀を懸け、形ばかりの古卓上には神佛像と飲食器具とを雜陳し、眠床は竹製にして心ばかりの蚊帳を覆ひたるを見るもあり。

房間平面圖

イ 眠床 Bin-chhûg

用途及種類並構造

眠床は寢臺兼座敷用にして家具類中今も尙ほ最も多數に製作せらるゝものゝ一なり、其上等品の如き大部分は彫刻を施し之に金泥、色漆塗を施し甚だ美觀を極め其驕奢驚くに堪へ價格の如き數千圓に値す

るもの尠からず、其構造は種類によりて多々ありと雖も大別すれば次の數種となす。

種類 西頭(Se-phiⁿ)、十七腹(Chap-chhit-tó·)、透線的(Thaù-soàⁿ-e)、半線屈回(Poàⁿ-soàⁿ-khut-hoê)、腹仔(Tó·-á)、粗眠床(Chho·-bîn-chhûg)

(一) 西頭は最上品にして富豪用なり、殆んど全部に亙り彫刻を以て裝飾し、金泊を以て之を塗る。

(二) 十七腹は中流以上又は花柳方面用にして、大部は彫刻よりなり、漆塗を施す。

(三) 透線的は十七腹に類するも只裝飾彫刻の少きを異なりとす。

(四) 腹仔は下等品なり、漆塗を施す。

(五) 粗眠床は素木造りのまゝにして最下等品なり。

構造 腹仔、粗眠床を除くの外は略〻一定せる樣式あり、就中最も代表的の形態を有するは半線屈回にして、其構造に就て說ぐを以て、最も捷徑なりとなす。

構造は普通寢臺の如く長方形にして、基臺は前張(Chêng-tiùⁿ)、後張(Aū-tiùⁿ)の二部よりなる、組立式にして高さは1尺7寸5分を普通とす。

前張は正面にある床道(Chhûng-tō)と稱するものにして、全長6尺8寸、巾4寸5分、厚さ3寸5分乃至4寸あり、兩端下面には高1尺2寸、巾7寸、厚さ3寸、眠床脚(Bîn-chhûng-kha)を嵌著し、之に鳳凰帶又は牡丹模樣を深刻す、塗料は朱漆にして甚だ美觀を極め、兩側壁及後張を聯結す、其中央には眠床杆(Bîn-chhûng-koaiⁿ)と稱する4本の横棧を嵌入す。

後張は眠床の基礎にして前後の床道及眠床杆を聯結して眠床を形成する要部にして角材よりなる、四脚を有す。

床面は前、後張を配列して其上に眠床板(Bîn-chhûng-pang)卽ち床板を据ゑ付く、其兩側には高さ5尺6寸、長さ5尺、幅1尺4寸の邊遮風板(Piⁿ-jia-hong-pang)を嵌着し、又背面部にも高さ1尺4寸の後遮風板(Aū-jia-hong-pang)を嵌入す。

邊遮風板は遮風柱(Jia-hong-thiaū)、遮風腹(Jia-hong-tó·)、屈回(Khut-hôe)、遮風杆(Jia-hong-koaiⁿ)、懇杆(Lún-koaiⁿ)、衫掛(Saⁿ-khè)等の各部分よりなる、懇杆及衫掛は中間より上に位す。

後遮風は遮風腹と屈回より成る、天井には網天(Bān-thian)と稱し小角材を以て組立てたる碁盤目狀の網天枳(Bān-thian-chí)と稱する格子を嵌め、尙ほ兩側の邊遮風の上端には網天に接して、脫(Thoah＝抽出) 3—4箇を有し自由に取り離し得る架仔板(Kè-á-pang)と稱するものを架せり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O·-sim-chioh	ヲガタマノキ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
薯荳	Chû-taū	コバンモチ
石柳	Chioh-liú	タイワンアサマツゲ チキナハツゲ
狗骨仔	Káu-kut-á	シロミヽズ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
茄苳	Ka-tang	アカギ
烏甜	O·-tiⁿ	オホバニンジンボク
楓仔	Png-á	フウ
厚殼桂	Kaū-khak-kùi	マルバダモ
大頭茶	Toā-thaû-tê	タイワンツバキ
烏皮茶	O·-phê-tê	シンコウツバキ

松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅繪	Aňg-koò	ベニヒ
亞杉	A-sam	タイワンスギ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ

特質及使用部分竝利用地方

床道は直前に位し、最も眠に著き必要なる部分なるを以て、特に優良材を選擇するを要す、故に肖楠(セウナンボク)は各種眠床の床道として最も賞用せられ、上等眠床は全部に之を使用せざるはなし。

山杉(ナギ)は肖楠の代用材として、北部に於て中等以下の眠床と床道とを作る、又狂ひを生せざるを利用し遮風腹(腰板)を作り、中南部に於ては**百日青**(マキ)と共に上等品に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は抗折、抗壓强等大なるにより中等眠床の各柱材及眠床脚竝同杆を作る、又本材は質頗る精緻にして靭性に富み、刄物の切味良く、容易に缺損を生せざるにより、床道下部の彫刻脚に賞用せらる、又夏季に於ては臥床するも熱を傳導せず、寢心地良き特質を有するにより中等以上の眠床板となすは、中南部共に同じ、**烏甜**(オホバニンジンボク)は新竹州下の呼稱にして、他の地方にては**山埔姜**(Soa^{n}-po·-kiu^{n})と稱す、材は强靭なる上に、花柳病を傳染せざるの特質ありとして同州下には上等品の眠床板に使用することありと云ふ。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類、**狗骨仔**(シロミヽズ)は上等眠床の彫刻部に賞用せられ、南部に於ては、**白仁**(クチナシ)を代用材となす、**茄苳**(アカギ)も前數者と同じく各地方にて、特種の材色を利用し屈回其他の裝飾部の彫刻に使用す。

楠仔(オホバタブ)は各地共に普通眠床に、代用するも又中等品の網天に使用することあり、**楓仔**(フウ)は代用材として普通以下のものに使用す。

薯荳(コバンモチ)は菩提樹科 (Tiliaceae) に屬するものなるも、材色材質、烏心石に酷似し、殊に黄味を帶びたる部分に於て然りとす、本材は著者が烏心石の代用材として利用方を屢々當業者に推奬せしものにして、今は代用材として盛に利用せらるゝに至れり。

厚殼桂(マルバダモ)は材質頗る緻密にして光澤あり內地產のイタヤカヘデ(Acer pictum *Thunb.*)に髣髴たるものあり、狂ひ極めて尠なく加工容易なるを以て中等以下の各柱材及各遮風、網天等に使用す。

大頭茶(タイワンツバキ)は材の稍〻堅緻にして負擔力の大なるを利用し、前後張の眠床杆に用ひ、又鑿工し易きにより裝飾的挽物部分に利用せらる。

烏皮茶(シンコウツバキ)は通直にして抗折强大なるにより山脚地方にて下等品の柱材となす。

亞杉(タイワンスギ)は材色を利用して之に模擬蝕刻を施し、架板脫面(抽出の前板)に使用し又鑿工して裝飾部に利用することあり。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は普通品の網天に使用す。

福州杉(コウエフザン)及**日本杉**(スギ)は下等眠床の全部に使用す。

ロ 脚踏椅 Kha-tàh-í

一に踏板椅(Tàh-pang-í)とも云ふ、眠床の附屬具にして、其正面前に据ゑ置き昇降の便に備ふる踏臺なり、其抽出には靴鞋及び踏下等一切の履物類及其附屬品を藏む、其構造は長方形の短脚卓子にして、高さ1尺4寸、長さ3尺2寸、2—3箇の脚踏脫(Kha-tah-thoah)と稱する抽出を附す。

用材

樹種

楠仔(Lâm-á=和名オホバタブ)は質比較的に堅硬にして摩擦に堪ふ、工作容易なるが上に價格低廉なるを以て一般に之を使用す。

八 帖案卓(テヤブアヌトオ) Thiap-àn-toh

用途及構造

本島中流以上の客室又房間内に備へ前述の時計,洋燈,鏡其他種々の裝飾品を陳列する卓子なり,其構造は大案卓と異なることなしと雖も稍〻小形なるのみ,普通長さ5尺2寸乃至6尺2寸,幅1尺4寸乃至1尺6寸,高さ3尺,面縁及持送に多少の彫刻を施す。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
山杉(ソアサム)	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青(パアジツチイ)	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
茄苳(カアタシ)	Ka-tang	アカギ
楠仔(ラムア)	Lâm-á	オホバタブ
石柳(チヨリウ)	Chioh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
狗骨仔(カウクツア)	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁(ペエジヌ)	Peh-jîn	クチナシ
松梧(シヨシゴオ)	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜(アンクオエ)	Aṅg-koè	ベニヒ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等級の卓面,卓脚に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は抗折强を利用し,北部に於ては肖楠を卓面とする卓脚に使用し,中部地方にては中等品に使用す。

山杉(ナギ),百日青(マキ)は中部地方に於ては上等品に,南部に於ては中

等品の全部に使用す。

茄苳(アカギ)は南部地方にては上等品の全部に賞用し,北部にては材色の澁味と粘靭にして缺損の少き特質を利用し,卓面の面縁及卓脚を裝飾する象嵌及彫刻部に賞用す。

松梧(ヒノキ)は抗折强と重さとを利用し,中等品に使用することあり,又質の緻密にして及物の切味良好なるを利用し,著色して茄苳の模擬材となす,多くは絲柾を使用す。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は鮮黃色の材色と精緻とを利用し,茄苳と同樣に使用す。

狗骨仔(シロミヽズ)は石柳の代用材として中北部にて使用す,南部にては白仁(クチナシ)を賞用し,狗骨仔を代用材となす,安價なる象嵌には狗骨仔の代はりに山杉を使用す。

二 卓櫃(トオクイ) Toh-kūi

用途及構造

衣類,裝身具,化粧品等を藏置する外,閱書,筆述等に使用するものにして,房間には必ず一棹を備ふ,其構造は脫(抽出)と觀音開きの戸棚とを有する長卓の一種にして,長さ3尺2寸,幅1尺5寸,高さ4尺5寸,其各部は卓櫃面,卓脚よりなる,扉面及面縁には人物花鳥等の象嵌を施し卓櫃脫5箇を附するも,普通は畫きたる擬象嵌を施し卓櫃脫3箇を附す,本品は近年民度の向上に連れ,都市方面に於ては西洋櫥(洋單笥の一種)の爲めに其の需用を激減せり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ

山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
茄苳	Ka-tang	アカギ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
烏皮茶	O'-phê-tê	シンコウツバキ
大頭茶	Toā-thâu-tê	タイワンツバキ
楓仔	Png-á	フウ
苦苓舅	Khó'-lêng-kūⁿ	タイワンモクゲンジ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ
江某	Kang-bó'	フカノキ
白匏仔	Peh-pû-á	アンナンアカメガシハ
有枱	Phàⁿ-thai	ハンノハエゴノキ
山黄麻	Soaⁿ-iûⁿ-moâⁿ	ウラジロエノキ

特質及使用部分竝利用地方

北部に於ては上等物の卓櫃面又は同脱面、同扉面其他見付けの柱等には肖楠(セウナンボク)を使用し、**烏心石**(ヲガタマノキ)は中等品の夫れに、**楠仔**(オホバタブ)は各地を問はず普通品の全部に使用す。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中部地方にて上等品に利用し、南部にて中等品に使用す。

茄苳(アカギ)は南部地方の嗜好用材にして、見付けの柱材、卓櫃面、同扉面、同脱面等に賞用し、**白仁**(シロミヽズ)は前面の裝飾部の木象嵌に賞用し、代用材には**狗骨仔**(シロミヽズ)、**山杉**を使用することあり。

烏皮茶(シンコウツバキ)、**大頭茶**(タイワンツバキ)等は材頗る緻密にして通直なるを以て彰化地方の如き平地の街庄にて普通品に利用す。

苦苓舅(タイワンモクゲンジ)は屏東地方にて普通品として見付けの柱材に、卓櫃面及同脱面、同扉面には**楠仔**(オホバタブ)を使用し、**白匏仔**(ウラジロアカメガシハ)、**有刮**(ハンノハエゴノキ)、**山黄麻**(ウラジロエノキ)の如き軟材を裏板又は其他の内部用材に使用することあり。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)等は普通の全部に又上等品の裏板其他の内部用材に南北の都市にて使用せられ**江某**(フカノキ)は北部地方に於ては普通品の夫れに利用す。

木 西洋櫥 Se-iûⁿ-tû

用途及構造

洋服箪笥(Wardrobe-chiffoniers)の型より案出せる本島趣味の洋風箪笥にして一般に西洋櫥と稱せらる、重ねの物は尠し、形狀は種々あるも普通のものは、全高5尺8寸5分、幅3尺5寸、奥行1尺5寸、臺輪の四隅には轆轤又は彫刻(鑿花と稱す)を施せる、高さ6寸の櫥脚を附す、兩側の面框は丸味を附し、上端の縁周りには蛇腹を附す、前面の高さの約3分の2以下には高さ6寸の櫥脱(長抽出)を3箇を劃す、其上部は縦に右側を1尺5寸幅に、左側を2尺幅に2分す、右側には長さ3尺、幅1尺の鏡を嵌入したる片開を附し、内部を數段に分つ、右側の下部よりは上方に順次に幅2尺、高さ8寸の抽出1箇、幅1尺、高8寸の抽出2箇を劃し、其上部の總ては、高さ1尺9寸、幅2尺の觀音開戸を附し、内部の兩側板には棚受棧を附し、棚板を設く、蛇腹の下腹及臺輪には帶又線象嵌を嵌入す、多くはラック仕上となす、文化を高調する若き新人に歡迎せられ、近來大に其需要を增加し、卓櫃の域を侵しつゝあるは、所謂流行の勢力を語るものにして又利用變遷の一斑を裏書するの確證なり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koê	ベニヒ
樟	Chiuⁿ	クスノキ
茄荅	Ka-tang	アカギ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
薯荳	Chû-taû	コバンモチ
江某	Kang-bó·	フカノキ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
白松梧	Pèh-siông-gô·	エゾマツ
〃 〃 〃	〃	トヾマツ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にて上等物に使用せられ、**松梧**(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は普通品として多量に各地にて使用せらる、**樟**(クスノキ)は杢板を抽出の鏡板卽ち樹脂面に使用するものにして、內地人の趣向を模倣したるものなり。

茄荅(アカギ)、**狗骨仔**(シロミヽズ)、**山杉**(ナギ)、**白仁**(クチナシ)、**薯荳**(コバンモチ)は各材色と材質とを利用し、象嵌部に使用す。

江某(フカノキ)、**福州杉**(コウエウザン)、**日本杉**(スギ)、**白松梧**(トヾマツ及エゾマツ)類等は抽出箱板其他の內廻りに使用す。

ヘ 高低櫥 Koâiⁿ-kē-tû

用途及構造

一に竪櫥(Khia-tû)とも云ふ、重戸棚の一種にして、上下2箇よりなる、正面には觀音開を附す、用途は內地の簞笥に類するものにして、普通上段には男子用の衣類を、下段には婦女子用の衣裳を藏置するを慣習とす、全部の高さ6尺、長さ3尺、幅1尺5寸あり、本品も卓櫃と同じく新人には嫌忌せられ、漸次に西洋櫥に其位置を奪はるゝに至る運命にあるものゝ一なり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koê	ベニヒ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品の前面板及柱材として賞用す、**烏心石**(ヲガタマノキ)は中等品として柱材のみに使用するも少し、是本材は木取良好ならざれば狂ひを生じ易きが爲めなるべし。

楠仔(オホバタブ)は普通として內面板及び裏面の羽目板となす。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中南部地方にて上等品に使用す、**松梧**(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は中等品に利用す。

ト 六仙卓 Lak-sian-toh 及 四仙卓 Sì-sian-toh

用途及構造

六仙卓及四仙卓は廳堂、房間、客室等の備品にして八仙卓(廳堂用具用材の

(ロ)參照)と大同小異なるも稍〻小形なるのみ、四仙卓は卓面の長さ2尺8寸、幅2尺6を普通大となす。

用材

八仙卓と同樣なるも比較的良材を選用す。

北部七星郡下は林木に乏しき地方なるが同地方にては次の樹種を使用するを見る。

樹種

地方名		和名
松柏	Chhêng-peh	タイワンアカマツ
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
水金鷺	Chúi-kim-kia^{n}	アカミヅキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ

特質

松柏(タイワンアカマツ)は樹脂多きものなるを以て、同地方にては數箇月浸水の上、之を充分に乾燥せしめて使用すと云ふ、松柏材は塗料を施さゞるも、布にて拭き込めば滑澤を生ず。

烏心石(ヲガタマノキ)は各所に點在せる小徑木を利用するものにして多くは心材部を使用す、材の强度は勿論、保存期他に比し永きが爲めなりと云ふ、山間の農家にありては、屋内の地盤は粘土を固めたる儘なるを以て比較的濕氣多く、脚部の腐朽する惧れあるによる、山杉(ナギ)も同地方には烏心石と同樣に卓脚に賞用せらる。

水金鷺(アカミヅキ)は質緻密にして强靭性に富み、强度大なり、且つ加工容易なるを以て、同地方にては卓脚杆に利用す。

チ 古椅頭 Kó'-í-thaû

用途及構造

古椅頭は腰掛(Stool)の一種にして組をなす、本島婦人の嫁入道具の一

にして、入嫁當時必ず一對を持參するの慣習なり、其構造は矩形にして椅仔面、椅仔脚、椅仔杆等の各部よりなる、長さ1尺8寸、幅1尺5寸、高さ1尺8寸漆塗となす、四脚及杆の仕口は何れも劍留となす。

用材

椅仔面は使用するに從ひ滑澤を生じ、衣摩の少きこと、熱を傳導せざること等を要件とす。

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ

特質及使用部分並利用地方

北部に於ては肖楠(セウナンボク)を上等品の全部に又中等品の椅仔面に、烏心石(ヲガタマノキ)を中等品の椅仔脚に使用す、薯荳(コバンモチ)を烏心石の代用材となす。

百日青(マキ)、山杉(ナギ)は中南部に於て上等品として全部に、烏心石を中等品に使用す。

楠仔(オホバタブ)は普通品として全島的に使用せらる。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)は上中品の慣用材の代用として各地にて使用せらる。

リ 面桶架 Bîn-tháng-kè

用途及構造

面桶架は化粧用卓子(Dressing table)と手水臺(Washstands)とを兼備せるものにして、其の形狀は種々あるも、大別すれば次の三樣となす。

(一) 其主なる各部は面桶架、面桶架脚、面桶架鏡屏とよりなる、架面(甲板)は幅3尺、奥行2尺、上部には矩折りに高さ3尺、幅2尺4寸の面桶架鏡屏(Bîn-tháng-kè-kiàⁿ-pîn)と稱し、復雜に裝飾せる向板を裝置し、其中央部に鏡を嵌め込み、架面の兩側には架面腹と稱する高さ2寸の側板を廻はす、面桶架鏡屏の上端には蛇腹を附し、鏡の周圍には鑿花(彫刻)、懇杆(裝飾横棧)にて巧に裝飾す、架面の高さは2尺8寸、全高5尺8寸、四本の架脚は脚杆(横棧)にて隅脚を連結し、中央部にて交叉せしめ、圓形板又は角板にて之を固め、脚部の構造强を增大せしむ、架面の兩側には高さ5寸、幅8寸の脱を1個宛裝置す。

(二) 其形狀恰かも椅仔に類し、前者と大同小異なるも只だ向板の各柱、棧、架脚を總て鏟工したるを異なりとす、架面は高さ3尺、全高4尺向板は兩端の柱に横に嵌入したる横杆と稱する3本の小棧縱に嵌入せる杆架2本あり、其中央部に鏡を嵌入す、其上部兩側には帽仔掛と手巾掛を附す、架面の上面には中央部に徑7—8寸の面桶置孔を穿つ、又架面の向、兩側に架面腹と稱する高さ3寸の側板を廻はす、架面の前部兩側には1個宛の脱を裝置す。

(三) 最も簡單なる折疊式の面桶(洗面器)乘せにして、高さ2尺8寸、四脚よりなり、2本の脚杆にて對角の二脚宛を連結し、上下四本の脚杆を交叉せしめ中央部に廻轉軸の嵌入孔を穿ち、軸を嵌め、折疊に便せり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
亞杉	A-sam	タイワンスギ
大頭茶	Toā-thâu-tê	タイワンツバキ
烏皮茶	O'-phê-tê	シンコウツバキ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
白松柏	Peh-chhêng-peh	トドマツ
〃 〃	〃 〃	エゾマツ

特質及使用部分竝利用地方

北部に於ては上等品に肖楠(セウナンボク)を、中等品に烏心石(ヲガタマノキ)を全部及普通品の柱材に使用す。

中南部に於ては山杉(ナギ)、百日青(マキ)を上等品の全部に利用す。

楠仔(オホバタブ)は普通品として各地方にて全部に使用す。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)は中等品の全部及上等品の內板となす。

大頭茶(タイワンツバキ)、烏皮茶(シンコウツバキ)は共に通直にして質緻密なるを以て挽物に適するにより挽物裝飾部の架脚、架背柱及同杆脚に使用す、亞杉(タイワンスギ)は材色を利用し小挽物とし、又擬蝕刻として裝飾部に使用す。

白松梧(トドマツ及エゾマツ)類は價格低廉、加工容易なるを以て兩三年來之を抽出其他の內板に使用す、福州杉(コウエフザン)、日本杉(スギ)も亦前者と同樣に使用せらる。

又 梳粧卓 Soe-chng-toh

用途及構造

房間備品の一にして化粧卓子(Dressing table)に類す、卓面上には鏡臺、鏡

箱及錦粧其他化粧道具一切を竝置す、其構造は長方形にして、高さ3尺、幅1尺6寸、長さ3尺1寸あり、卓面には三方に彫刻を施したる金泥又漆塗の劍牆を以て圍繞す、高さ7寸内外なり、正面には抽出5個を附し其下部には脚踏枳(踏板)を附し、背面及其兩側に榱枳(裝飾棧)を嵌入す、極めて伎巧を要する構造なり。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
茄苳	Ka-tang	アカギ
樟	Chiu^{n}	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
石柳	Chioh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部に於ては卓面及櫥面(抽出面板)又は各柱材として上等品の見付の部分に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は堅硬にして抗力大なるを以て脚踏枳又は柱材として最も賞用せられ各地方にて利用せらる。

山杉(ナギ)、百日青(マキ)は中南部に於ては上等物の卓面、脱面又は各柱材に使用す。

樟(クスノキ)は使用禁制の以前にありては劍牆の彫刻に使用したりしが今は楠仔(オホバタブ)を代用材となす外、脱(抽出)の内板其他の部分の裏板材として使用するは南北共に相同し。

北部に於ては石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類の黄白色の材色と質の精緻とを利用し、劍牆の彫刻又小柱仔等に用ひ、狗骨仔(シロミヽズ)を代用す、白仁(クチナシ)は南部にて石柳類と同樣に使用せらる。

茄苳(アカギ)は赤褐色の材色と質の粘靭とを利用し、中南部地方にては劍牆の彫刻部に賞用せらる。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)は普通品の全部に使用す、亞杉(タイワンスギ)は其紅紫暗色の材色と材の緻密性とを利用し脱面(擬蝕刻を施したるもの)及び小柱仔(鏇工したるもの)に使用す。

ル 鏡箱 Kià^{n}-siu^{n}

用途及構造

婦人の整容器具にして鏡臺に類す、其構造は長方形の箱にして長さ1尺内外、幅約7寸、上面に疊込式の鏡を取り付け、正面に4又5個の鏡箱脱(抽出)あり、對岸よりの輸入品は價格低廉なるも、本島製のものは漆塗の良好なる用材を選擇するにより頗る高價なり、故を以て中流以下のものは支那製を使用す、年々南支方面よりの輸入額は4,000—5,000圓内外を降らず、大正13年の貿易統計によれば5,641個、4,792圓に及びたり、本島に於ても近來は酒類其他の空包裝箱を利用して廉價なるものを製作す、本品も亦卓櫃、高低櫥等の如く、又は次項の錦粧と共に時代想裡の新人に歡迎せられずして内地式(西洋型)の鏡臺の爲め漸次に需要を蠶蝕せられつゝあり。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
江某	Kang-bó'	フカノキ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ
白松柏	Peh-chhêng-peh	トドマツ
〃 〃 〃	〃	エゾマツ
〃 〃 〃	〃	モミ
〃 〃 〃	〃	トガ

特質及利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部の上等品に、**烏心石**(ヲガタマノキ)は中等に使用す。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中南部の上等に用ひ、**楠仔**(オホバタブ)は各地共に普通品に使用す。

江某(フカノキ)は北部にて近來安物の全部に、又上中等品の内部及脱板となす。

嘉義街附近にては營林所製材所の**松梧**(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)の屑板を利用して中等品を製作す。

白松柏とは白色の松材の意義にしてトドマツ、エゾマツ、モミ、トガ等を總括する呼稱なり、嘉義街にては酒類、マッチ其他の包裝箱の空物を

利用し廉價なる下等品を製作して海岸地方に販出す。

ヲ 錦粧 Gím-chng

用途及構造

錦粧は鏡箱の附屬物にして化粧品を藏む、其構造は長方形にして長さ1尺、幅6寸、高さ7寸、正面に3個の錦粧脱を附す。

用材

各地共に**楠仔**(オホバタブ)を普通品に**松梧**(ヒノキ)及**紅檜**(ベニヒ)を中等品に使用す。

ワ 衣箱 Sa^{n}-siu^{n}

用途及構造

内地人の呼稱する支那鞄の一種にして、柴箱(Chhâ-siu^{n})と皮箱(Phê-siu^{n})の二種に分る、柴箱は木材製にして、外面を漆塗となす、皮箱は内部は薄板にて組立て、外部は薄き獸皮にて包貼し、之に朱又褐色の漆塗を施す、本品は本島婦人の嫁入道具の一にして、前記二者の内より必ず1對宛を携帶す、其構造は頗る簡單にして箱蓋、箱殼の二部よりなる、大小一定せざるも、其寸度は普通長さ2尺5寸、幅1尺3寸、高さ1尺とす。

用材

樹種

地方名		和名
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
苦苓	Khó'-lêng	センダン
紅松柏	Aňg-chhêng-peh	タカネゴエフ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ

白松柏(ペエチエンペエ)	Péh-chhêng-peh	ニヒタカトウヒ
鷹古公(バアコオコオン)	Phah-kó'-kong	オホバアカテツ
樣仔(ソアイア)	Sōai^{n}-á	ソヤ

特質及利用地方

福州杉(コウエフザン)は樹脂少きのみならず、狂ひ少く、輕軟にし工作の容易なるを利用し、皮箱の內殼を作り又各等品の底板に使用す、本材は衣服の色合を吸收せずと云ふ俗說あり。

肖楠(セウナンボク)は肌理華美にして漆塗の乘り良好なるにより柴箱に賞用せらる。

樟(クスノキ)は蟲害に罹らざる特質あるを以て、樟材使用禁止前にありては尤も多く使用せられたりと云ふ、今は**楠仔**(オホバタブ)を代用す、本材は材價低廉、大材多く、加工又容易なるを以て普通品の柴箱に盛に使用せらる、本品は使用輕便なるを以て內地人間にも能く使用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は一般に中等級の柴箱を作り、蘭陽地方及東臺灣にては特に賞用せらる、本材製のものは材質强靭なるが故に極めて堅牢なりと云ふも木取の不良なるものは狂ひを生じ、差口に故障を起す場合少からず。

苦苓(センダン)は古くより蟲害の患ひなしとの傳說あり、質は輕軟にして、杢理美しく通直なるを利用す、中部地方又は東部臺灣にて使用せらる。

紅松柏(タカネゴエフ)は五葉松の一種にして材色紅味を呈す、材は頗る輕軟緻密にして、狂ひ極めて少なし、花蓮港廳下の玉里地方にては馬太鞍溪の上流清水溪より流出する流散材を利用す、本地方に於ては此外**白松柏**(ニヒタカトウヒ)も之を使用するを見る。

元來本島人の用材は旣に第二章第一節にも述べたるが如く、嗜好慣習よりして濶葉樹を主として使用するも、地方的には各種の針葉樹を

利用するものも尠からず、是等の主なる樹種は前記二種の外に**油松**(タイワントガ)、**亞杉**(タイワンスギ)、**松梧**(一名厚殼＝ヒノキ)、**紅檜**(一名薄皮＝ベニヒ)、**松柏**(ニヒタカアカマツ及タイワントガサハラ)等にして、何れも中央山脈4,000—5,000尺以上の高地に分布するが故に、容易に伐採して搬出し得べきものにあらず、然れども夏期の暴風雨毎に山地崩壞して諸溪川に流出する所謂流散材を利用するものにして、其數量の如き勿論一定的のものにあらざるも、時によりては大量の流出を見ること尠からず、其流木を散流する主なる溪川は東臺灣にありて新高山彙に源を發する清水溪を主とし樂々溪之に亞ぐ、其他マリバシ溪、馬太鞍溪、チヤカン溪、北絲闖溪等にして、西部臺灣にありては竹山郡下の清水溪を主として、東勢郡下の大甲溪、大溪郡下の大嵙崁溪等之に亞ぐ、是等諸溪川の所謂平野に放流する吐出口に近き街邑に於ては、極めて複雜なる樹種の利用系統を出現し、宛然熱帶より溫帶に亙る各種の林木利用の展覽場たるが如き景觀を呈す。

中央山脈に源を發する大溪川と利用樹種の發達 這の一節は本島の如き高山國にありては特筆せざるを得ざる地方的の一色彩たるを失はざるべし。

紅檜(ベニヒ)は大巾板多きを以て近來各地方にて使用せらる。

鷹古公(オホバアカテツ又はタコヽン)の材は淡紅褐色を呈し、質は頗る輕軟なるも狂ひ少く且つ大材多きを以て恒春地方にては之を使用す。

樣仔(ソヤ)は元來熱帶地特有の果樹にして材は導管は大なるも、質は稍〻緻密性なり、漆樹科(Anacardiaceae)の特徵を有し暗灰白色にチョコレート色を混じ、老大なるものは導管內には黑色の物質充塡し、爲に外觀頗る美なり、塗料の利きも頗る良好なり、臺南地方にて利用せらる。

カ 尿桶(ジヨタン) Jiō-tháng

第九 桶類用材二の(一) 液體用五に併記す。

四 灶脚(Chaû-kha)用具用材

總 說

灶脚とは炊事場の總稱なるも、多くは灶脚と食飯間とに兼用す、灶脚(第一建築用材の一建築法の概要參照)は厝屋の一隅に別に一棟を張り出すか若くは厝屋の一隅、適當の箇所に設けて日常の炊爨に使用す、間内は空氣の流通は勿論、火煙の吐出、其他用水の使用上最も便利なる場所を選びて鼎灶(竈)を据ゑ之には必ず煙筒を設けて吐煙を謀り、專ら室内に煙の燻充し煤染せざるを防止す、鼎灶の附近に水缸(水甕)を据ゑ其他便宜の個所に匏瓠、竈殼仔、竹竈仔、刀砧、水桶、攜桶、碗斗仔、脚桶、鼎蓋等を配置す。

イ 匏瓠 Pû-hia

第一三 粗彫(荒彫白木物)用材に併記す。

ロ 竹竈仔 Tek-haū-á

用途及構造

竹製杓子の一種なり、本名稱は其形狀に因む、竹山、嘉義地方にて使用す。

用材樹種 刺竹(シチク)の節部を底とし柄とは連續す。

ハ 刀砧 To-tiam

用途及構造

一に灶砧とも云ふ、組板にして丸太の輪切を其儘、鉋削して木口を使用す、大さは不同なるも普通1尺2—3寸乃至1尺5寸、厚さ3—4寸とす。

用 材

樹 種

地方名		和名
正榕	Chiàⁿ-chhêng	ガジユマル
烏榕	Chiaú-chhêng	アコウ
九重吹	Kaú-têng-chhe	ムクイヌビハ
欖仁	Lám-jîn	ランジン

鷹古公	Phah-kó'-kong	オホバアカテツ
刺桐	Chhì-tông	シトウ

特質及利用地方

刀砧は材質、粘靭緻密性にして軟かなること、材部の刀痕は可成原形を保持して缺損の少きこと、割裂を生せざること等を要件とす、之刀刃の缺損、磨滅を減少すると共に刀痕部の直に接著するが故なり。

正榕(ガジユマル)、**烏榕**(アコウ)、**九重吹**(ムクイヌビハ)等は何れもFicus屬の特質として柔組織は帶狀に同心圓狀をなして年輪に沿ふて排列し爲めに木口に刃物を切り込むも容易に刀刃の損傷を生ずること尠なく、木質部も亦比較的に緻密性にして且木纖維は交錯し抗割性に富むを以て、多く是等の材を使用するも、就中烏榕最も賞用せらる、これ本樹は正榕の多枝性にして圓滿幹少きに反し、徑大の圓幹多きによる、各地方にて使用せらる。

欖仁(ランジン)は幹株の根張り部分を利用するものにして南部恒春地方にて使用せらる、本材は堅硬中庸なるも、木纖維、錯綜し容易に割目を生せず、又刀刃を損傷すること少く、保存期も亦永しと云ふ。

鷹古公(オホバアカテツ)は材頗る軟靭にして、質は緻密性なるも割目を生せず又刀刃を損傷すること少きにより恒春地方に利用せらる。

ニ 水桶 Chúi-tháng、攜桶 Koāⁿ-tháng、碗斗仔 (Oáⁿ-taú-á —に碗桶 Oánⁿ-tháng と云ふ)、脚桶 Kha-tháng

第九 桶類用材に併記す。

ホ 鼎蓋 Tiáⁿ-koà

總 說

本島に於ける飲食物の煮沸は、鼎と稱し恰かも内地の平鍋に類せるものを使用す、鼎は殆ど竈に据付にして、竈を鏞灶と稱するは之に由るものなるべし、鼎蓋とは其蓋にして本島人の使用するものゝ多くは南

支より製品として輸入せるものなり、是價格の低廉なるが爲にして、假令本島にて製作するとも其生産費の割高は到底經濟的に彼と競爭すること能はざるものあるによる、其輸入高は年により多少の差異は免れざるも大正14年に於ける總輸入高は88,647箇11,343圓を計上せり。

構 造

直徑は鼎の大小に依りて異なるも、其構造は頗る簡單にして3—4枚の小幅板を刳ぎ合はせ、圓形に挽き廻はし中央には蓋棧1本又は2本を嵌入せるまゝなり。

用 材

福州杉(コウエフザン)一種のみなり、本材の心材には揮發性成分(第四章、第四節、一、福州杉=化學的性質、參照)を含有し、新らしき截斷面には白色針狀の結晶を折出し、俊烈なる香氣あるも暫時にして消失す、對岸製の價格の低廉なるは、殘材又は屑材を利用して製作するものなるが如し。

五 食飯間(Chiáh-pūg-keng)用具用材

總 說

食飯間は食堂にして灶脚の一部を區劃して隣室に設くるか、又は別棟として厝屋の後部に張り出す、本室は食事以外に使用することなく常に清掃し、通風採光等に留意す、室の一方に食飯卓を据ゑ其周圍には椅條(腰掛)を添置し、食飯卓の左邊には菜櫥を据ゑ、右邊には飯斗架(飯櫃臺)及飯斗(飯櫃)飯匙を置き、其側壁には箸籠(箸箱)を懸け其他炊斗、粿印、腰桶、籠甑等を適宜の個所に配置し、食事に際して不便なきを期す。

イ 食飯卓 Chiáh-pūg-toh

用途及構造

食飯卓は一に脱脚卓(Thŭg-kha-toh)とも云ふ、其構造は卓面、卓脚とよりなると雖も卓面と卓脚とは容易に取り外すことを得、脚部は疊込の裝置あり、全高2尺8寸、卓面は方3尺2寸にして全部、紅漆を以て塗るも

農村に於けるものは素地のまゝのもの多し。

用 材

樹 種

地方名		和名
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aŭg-koè	ベニヒ
蠱古公	Phah-kó·-kong	オホバアカテツ

特質及利用地方

烏心石(ヲガタマノキ)は肌理堅硬にして著色良好且つ保存期大なるを利用し上等品を作る、本材は本具の專用材として全島的に使用す。

楠仔(オホバタブ)は大材多く、普通品として各地之を使用せざるはなし。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は幅物の入手容易にして加工し易く漆塗の著色良好なるが上に殊に近來材價の低下は著しく需要を喚起せり、中等品に使用せらる。

蠱古公(オホバアカテツ)は大材多く、堅軟中庸にして粘靭、肌理も粗ならず、狂ひも比較的小なるを以て恒春地方に使用せらる。

ロ 椅條 Í-liaû

用途及構造

椅條は最も多く普通に用ひらるゝ長腰掛の一種にして食飯卓の周圍に配置す、所謂食事用椅子(Dining chair)に相當す、其構造は細長方形にして、椅條面、椅條脚とよりなる、長さ4尺2寸、厚さ2寸、幅6寸、高さ1尺8寸、紅漆を塗るも其は都市人用にして、農村にては素木のまゝ使用す。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chiôh	ヲガマタノキ
山杉(ソアサム)	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青(パヂツチイ)	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
楠仔(ラムア)	Lâm-á	オホバタブ
烏甜(オテイ)	O'-ti^{n}	オホバニンジンボク
苦苓(コオリエン)	Khó'-lêng	センダン
毛柿(モオキイ)	Mô'-khī	ケガキ
烏皮石苓(オベエチヨリエン)	O'-phê-chiôh-lêng	クロキ
拔仔雞油(パツアクエイウ)	Pat-á-koe-iû	タイワンモクゲンジ
枯里珍(コオリイテヌ)	Ko'-lí-tin	~~コウトウ~~ヤマハヅ~~ノキ~~
福州杉(ホクチユサム)	Hok-chiu-sam	コウエフザン
松梧(ショオゴオ)	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜(アンクオエ)	Aňg-koè	ベニヒ

特質及使用部分並利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部に於ては特等品に、**烏心石**(ヲガタマノキ)は全島的に上等品として使用す、殊に山脚地方に於て然りとす。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中南部地方にては上等品に使用す。

楠仔(オホバタブ)は普通品として全島之を使用せざるはなし。

烏甜(オホバニンジンボク)は稍〻堅靭にして肌理粗なるも研磨に適し肌觸(ハダザハ)り柔かく、殊に花柳病等の如き傳染的の惡疾を傳播せざるの特質ありと稱するも、大材少なきを以て製品は少なし、新竹州下にて利用せらる。

苦苓(センダン)も前者と同樣、惡疾を傳染せざると稱し、中部地方にては好んで普通品に使用す。

恒春地方にては**毛柿**(ケガキ＝支那人の呼稱する間道烏木又は烏木(スヂコクタン カマゴン))を椅條面に賞用するも極めて少し、本島人は材を毛柿搭(モオキイケエ) (Mô'-khī-keh) と稱す、保存期大にして使用するに從ひ滑澤を生じ、衣衫を損耗せず、又夏季は冷氣を感ずると云ふ、**烏皮石苓**(クロキ)も同地方にては同樣に珍重せらる、本材は比律賓の所謂エボニー (Ebony) にして是亦黑檀類の一なり。

拔仔雞油(タイワンモクゲンジ)は材質一見白雞油に髣髴たるものあるも彼れに比すれば稍〻靭性に乏し、然れども使用すること久しきに及べば滑澤を生ず、椅條面に利用せらる。

枯里珍(~~コウトウ~~ヤマハヅ~~ノキ~~)は邊材は黃白色、心材は赤褐色を呈す、强靭にして保存期永きを以て恒春地方にては椅條脚に使用す。

福州杉(コウエフザン)は加工し易く、保存期又大なるを以て普通品、例へば楠仔製面の椅條脚に使用す。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は各地共に近來中等品に使用し、又椅條脚にも利用せらる。

八 菜櫥(ツアイツウ) Chhài-tû

用途及構造

水屋又は鼠不入に類する戸棚の一種にして其構造は上下二段よりなる、正面の上段には觀音開の格子戸を附し、內面より金網を貼る、下段の中央には片開の小扉一枚を附す、上段は所謂「山珍、海味」を藏め、下段は碗、皿等の食器を置く、全高 6 尺(內、脚部2尺、上段3尺、下段1尺)、幅 3 尺、深 1 尺 4 寸を普通大となす。

用 材

樹 種

地方名		和名
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ

山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ

特質及利用地方

烏心石(ヲガタマノキ)は北部にては上等品に使用し、又全島的に利用せらる。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキ)は中南部の上等品に、**楠仔**(オホバタブ)は各地の普通品に使用す。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は俊烈なる香氣の爲め食物、食器、入れには移り香ありて不適なりと稱せらるゝも、日を經るに從ひ消失するが上、加工し易く、着色も亦良好なるを以て近來各地にて中等品に利用せらる。

ニ 飯斗架 Pūg-táu-kè

用途及構造

飯斗架は上下二段よりなる、下段の正面には中央に片開の小扉を附す、上段は無蓋にして棚上には飯桶(飯斗とも稱す)を置き、下段には食器を藏す、其構造は矩形の高さ2尺5寸、幅1尺5寸、長さ2尺5寸にして四隅柱の上端は4—5寸上方に抽出し、其先端には猿頭を彫刻す。

用 材

樹 種

地方名		和名
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ

其他雜木

特質及利用地方

楠仔(オホバタブ)は各地共之を普通品に使用す。

松梧(ヒノキ)、**紅檜**(ベニヒ)は近來中等品に使用するに至る。

其他は各種の雜木を使用するも區々にして一定せず。

ホ 箸籠 Tū-lāng

用途及構造

箸籠は木製と竹製との二樣あり、木製は一種の掛箱にして高さ6寸、長さ8寸、幅3寸あり、背面は正面より稍高く、擬寶珠形の彫刻を施す、小孔を穿ち吊懸に便にす、竹製は割竹の編み籠にして口徑3寸、底徑2寸、高さ6寸、籠底には徑3寸の小圓板を附す。

用 材

樹 種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
江某	Kang-bó·	フカノキ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ
柯仔	Ko-á	タイワンジヒ
水柯仔	Chúi-ko-á	タイワンハンノキ
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ

特質及使用部分並利用地方

箸箱用材は箸を水洗して充分に水を切らずして藏むる場合多きを

以て耐濕性卽ち保存期の永きこと、淨香を有することを要件とし古くより樟(クスノキ)を使用したるも該材の使用禁止後は楠仔(オホバタブ)を代用するに至れり。

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品に使用す。

中南部地方にては山杉(ナギ)、百日青(マキ)を上等品に使用す。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)は中等品として各地方にて利用せらる。

江某(フカノキ)も最近著しく各地方にて使用せらる、多くは黃色塗料を施す、勿論、普通品たるは言を俟たず。

柯仔(タイワンジヒ)、水柯仔(タイワンハンノキ)は竹籠製の底部に使用せらる、是等の材は入手容易にして且つ割裂し易きを以て、小丸太を柴刀にて適厚に分割して其まゝ使用す、柯仔の保存期は比較的永きも、後者は腐朽を生じ易し、宜蘭地方の平地にて使用す。

桂竹仔(タイワンマダケ)は皮目堅靭にして水濕に堪へ、保存期永く、且つ細割及彎曲性に富むを利用す。

ヘ 飯匙 Pūg-sî

第七 彫製用材、一三、粗彫用材に併記す。

ト 炊斗 Chhe-táu **腰桶** Io-tháng **飯桶** Pūg-tháng

第九 桶類用材に併記す。

チ 籠甑 Láng-sûg

用途及構造

籠甑に二種あり一は本品にして他は曲輪製の圓籠甑を云ふ。

(一) 籠甑

內地の蒸籠と全く同一なり、餅菓其他の炊蒸に使用せらる、一組二重又は三重にして其各部は籠甑胴、籠甑蓋、籠甑賛、架盤よりなる、籠甑賛は二個あり、其寸法は一定せざるも普通は內側1尺8寸乃至2尺4寸內外にして蓋の高さは2寸、賛の高さは4寸とす。

二 圓籠甑 Îⁿ-làng-sûg

第二二 杯用材、杯製品に併記す。

用 材

樹 種

地方名		和名
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ

特質及使用部分並利用地方

福州杉(コウエフザン)は民族的の慣用材なるが、本材の心材部には約0.5%の揮發成分を含有し、其主成分はセドロール(Cedrol $C_{15}H_{26}O$)なるセスキテルペンアルコホールにして、其約40%を含有すると稱せらる、故を以て新らしき截斷面には數日にして無色針狀の結晶を折出す、俊烈なる香氣を放つも揮發性なるが故に漸次に消失す、本材は吸水性比較的小にして、狂ひも亦少なき特徵あり。

日本杉(スギ)は材臭少なしとして、臺北及高雄地方にて賞用せらる。

松梧(ヒノキ)、紅檜(ベニヒ)は材臭、容易に消失せざるを以て、餘りに賞用せられず。

桂竹仔(タイワンマダケ)は皮目堅靭にして細割性に富み、保存期永きを以て籠甑賛の底棧に使用す。

二 樂器(Gak-khì)用材

總 說

臺灣の樂器は南管曲(Lâm-koán-khek)及北管曲(Pak-koán-khek)に使用する明清樂器と稱する純正樂器と、太平歌曲(Thài-pêng-koa-khek)と稱する鄉土的の民謠樂器及び十音北唱と稱する歌曲に使用する樂器と、大鼓類と

の四に區別することを得、明清樂器は其種類多しと雖も、多くは支那製にして、本島にて製作せらるゝものは僅かに數種に過ぎざるも其他の通俗樂器は職業として製作するものあり。

次に各説に遷らんとするに先立ち、樂曲に就て、少しく他の文献より之を引用せんとす。

南管（管は管絃の略なり）は後蜀の孟昶の時より出づ、後福建泉州に傳ふ、其歌曲、支那南方の音調なるに因り之を南管又は御前清客(Gū-chiân-chheng-khek)と稱す。

北管は唐代の音樂に屬し、唐明皇が梨園子弟（宮中雅樂部に相當す）をして霓裳羽衣と謂ふ曲を習はしむ、役人之に倣ひ盛となる、其曲支那北部の音調なるにより之を北管と稱す。

十音は孔子祭に於て使用する諸樂器中より簡單にして且つ清音あるもの十種を選出し一組の音樂となし文人之を奏す、因りて十音と稱す。

(一) 明清樂器 Bêng-chheng-gak-khì

種類 琴仔(Khîm-á)、弔鬼仔絃(Tiàu-kúi-á-hiân)、洞簫(Tōng-siau-tat)、笛竹(Tat-tek)、癟鼓(Piak-kó')、拍(Phek)等なり。

イ 琴仔 Khîm-á

用途及構造

琴仔とは月琴に對する本島人の呼稱にして其主なる部分は琴身胴(Khîm-sin-tâng＝胴)、琴柄(Khîm-pi^{n}＝棹)よりなる。

琴柄は長さ1尺8寸、其先端に琴枳(Khîm-chí＝絲卷)2本又は4本を附す、音階(Im-kai＝律)は上部に大なる母階(Bú-kai)と稱する大なるもの1箇と大階(Toā-kai)6箇、小階(Sió-kai＝角質製)5箇を附するを普通とす、琴身胴は圓徑1尺5寸、厚さ2寸を普通とす、胴の腹背は厚さ1分5厘の薄板を貼り、腹面には線馬(Sòa^{n}-bé＝絲附)を付け、左右には乾坤(Khiân-khun＝ニヲミ)と稱する蝙蝠模樣の飾りを付す、琴身背(Khîm-sin-poè)には小さき半月形の空

氣孔を穿ち音穴とす、琴身の內部には2箇所に棧を入れ、之に各穴を穿ち空氣の流通をなさしむ、棧と棧との間には螺旋形に卷きたる針金2條を入れ琴身胴內の空氣を振動せしむ。

用 材

樹 種

地方名		和名
梧桐	Gô'-tông	タイワンギリ
〃 〃	〃 〃	コヽノヘノキリ
支那梧桐	Chi-ná^{n}-gô'-tông	シナギリ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
樟	Chiu^{n}	クスノキ
石柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
〃 〃	〃 〃	シナツゲ(二種)
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
茄苳	Ka-tang	アカギ

特質及使用部分並利用地方

キリ材は乾濕の影響する膨縮の二現象極めて少なく、音響傳導良好なるを利用し琴身に賞用せらる、臺灣產のキリに二種あり、其一なる梧桐(タイワンギリ＝Paulownia Kawakamii *Hay*)は材色稍〻赤味を帶び、年輪概して細かく、導管は環狀に配列する所謂環孔材なるが故に木目の條あるのみならず光澤あり、內地產のキリ(Paulownia Tomentosa *Bail*)に酷似し、優良なるものは殆んど彼此識別し難し、木理通直にして年輪の幅狹きもの賞用せらる、音締良好なるが故なり、他の一なるコヽノヘノキリ(Paul-

ownia Mikado *Ito*)は之又た同じく本島人は梧桐と呼ぶ、前者に比すれば質稍〻脆く年輪の幅廣く、導管は散孔性なるが爲め木目判明せず、桐材として最も慊忌する逆目を生ずるの缺點あり、音色(ネイロ)は前者に劣り胴鳴(ドウナリ)を生じ易しと稱せられ前者の代用となす、支那梧桐と稱せらるゝものは本種と材質酷似す、學名を Paulownia Fortunei *Hemsl* と云ふ。

福州杉(コウエフザン)は木理通直にして音響傳導良好なるの外吸濕性の小と柔撓性の大とを利用し、琴身輪(キムシヌルヌ)(Khim-sin-lûn)を作る。

樟(クスノキ)は音響傳導良好なるを以て琴柄に利用し、木理の通直なるもの愛用せらる。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は材精緻堅重にして鑢工又は彫刻を施し易きと、其白色の色澤美とは琴枳及乾坤等に賞用す、臺灣に使用せらるゝツゲ類は尙ほ此他に二種あり、何れも南支產にして其一つは Buxus inicrophylla. var Sinica *Rehder and Wilson* 及 Buxus Harlandii *Hance* なり、後者は多くは岩上に生育するものにして、徑大のもの少なく質堅く材色は鮮黃色を呈す。

石柳の代用材としては**烏心石**(ヲガタマノキ)、**狗骨仔**(シロミヽズ)、**白仁**(クチナシ)等を使用す、烏心石は石柳に比すれば材の精緻の度合は劣るも光澤に富み、木纖維の結合力强く、容易に割裂せず又た刀痕良好なるを以て之を使用するもの少からず、狗骨仔は石柳に比すれば白色にして密度も光澤も劣る、白仁は臺南地方にては白隣とも稱す、材は灰白色を呈し狗骨仔に比すれば稍硬きも光澤に乏し、**茄苳**(アカギ)は材の堅靭と赭黑色の材色とを利用し音階及線馬を作る。

ロ 後絃(ホオヒヤヌ) Hō-hiân

用途及構造

後絃は提琴の一種にして其各部は絃柱(ヒヤヌテヤウ)(Hiân-thiāu)、枷枳(カアチイ)(Ká-chí=絲卷)、絃胴(ヒヤヌタアン)(Hiân-tâng)よりなる、絃柱は木製にして長さ2尺4寸、絃胴は竹稈製に

して、直徑2寸2分乃至2寸3分を普通とす、長さは3寸5分、胴腹は蛇皮を張り、背面は節付きのまゝ又はキリの薄板を貼り、花又は唐草模樣等の音孔を穿つ、馬仔(ベエア)(Bé-á)、絃弓(ヒアヌキエン)(Hiân-keng)は其附屬品なり。

用 材

樹 種

地方名		和名
荔枝(ナイチイ)	Nāiⁿ-chi	レイシ
樟(チウ)	Chiuⁿ	クスノキ
茅茹竹(バーリーテク)	Bâ-lî-tek	モウソウチク
石柳(チヨリユウ)	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
〃 〃 〃 〃		シナツゲ(二種)
箭竹(チイテク)	Chiⁿ-tek	タイワンヤダケ

特質及使用部分

荔枝(レイシ=學名 Nephelium Lit-chi *Cumb.*)は質堅重、緻密にして絃柱を製す、音色極めて良好なりとして賞用せらるゝも臺灣には野生せず、南支那よりの輸入に係る、高價なる爲め樟(クスノキ)を以て代用となす。

茅茹竹(モウソウチク)は琴胴に賞用し3年生以上のものにして石礫地に生育したるものを良品となす、又馬仔は殆んど本竹に限り慣用せらる程肉厚く、堅靭なるを以てなり。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ、シナツゲ(二種))類は木理の堅緻と材色とを利用し、枷枳(絲卷)に賞用し、絃弓には**箭竹**(タイワンヤダケ)を使用す、是彈性の大と節低く竹稈の適大なるによる。

材料の處理

絃胴材の茅茹竹は稈の內部の維管束の分布少なき肉質部を彎鑿(ワヌツアク)にて荒刳りをなし皮目部一分餘を殘し極めて薄目となす。

八 吊鬼仔絃 Tiàu-kúi-á-hiân

用途及構造

吊鬼仔絃は胡琴にして北管曲の樂器なり、後絃に似たるも稍〻小形にして絃柱は1尺8寸、絃身は直徑1寸8分乃至1寸9分、長さ3寸7—8分、絃身腹には蛇皮を貼る、背面は其まゝ開き節を附せず。

用材

樹種

地方名		和名
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
石柳	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
〃 〃 〃 〃		シナツゲ(二種)
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク
箭竹	Chîⁿ-tek	タイワンヤダケ

特質及使用部分

絃身には**桂竹仔**(タイワンマダケ)を賞用し、殊に本竹製の古き簽椅(竹椅子の一種=第六の一、家具用材の二、參照)の脚(丸竹)は最も音色、幽雅なりと稱せらる。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ、其他シナツゲ二種)類は材色美にして、其木理の通直なるものは音色良好なるを利用して絃柱に、**茅茹竹**(モウソウチク)は馬仔に、絃弓には**箭竹**(タイワンヤダケ)を利用すること前者と同樣なり。

二 洞簫 Tōng-siau

用途及構造

洞簫は尺八に類する南管曲の樂器にして、所謂御前清客(支那人のこと)の常用樂器なり、大小數種あるも普通は、長さ2尺5寸、太さは中央部に於

て3寸2—3分廻りを有し、內部は漆塗を施す、是氣流の滑りを善くし且つ竹材の乾濕の影響よりする割裂を防ぐが爲めなり、指孔の數は表面に6箇、裏面に1箇を穿つ、歌口には水牛角又は象牙又硬質材製の舌を嵌入す。

用材

樹種

地方名		和名
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク
毛柿	Mô'-khî	ケガキ
烏皮石苓	O'-phê-chiòh-lêng	リユウキウコクタン(クロキ)
赤皮	Chhiah-phê	イチキガシ

特質及使用部分

茅茹竹(モウソウチク)は稈圍小形のものにして3年生以上の陽光の透射充分にして石礫多き瘠地に生育したるものを可とす、殊に海風の吹き通す場所に生じたるもの賞用せらる、是音色の良好なるが爲めなり、**毛柿**(ケガキ)、**烏皮石苓**(リユウキウコクタン)、**赤皮**(イチキガシ)等は材質堅硬にして、吸水性小なるを以て心材部を舌に利用す。

材料の處理

茅茹竹は根付のまゝ油拔をなし20—30日間陽光に乾晒しつゝ竹の癖を正したる後に內部の節を拔ぐ。

未 笛竹 Tat-tek

用途及構造

笛竹は長短二種あり、長きは南管曲用にして、短きは北管曲用なり、長さは前者は2尺乃至2尺5—6寸、後者は1尺5寸にして、大さは何れも徑6分乃至6分5厘を法とす、笛仔口(Tat-á-khaú=歌口)を除き表面には指口を6個、裏面には飾口2個を穿つ、各口の形狀は短橢圓形にして短徑

3分及長徑4分あり、内部に擴大す、笛仔口と指口との間には露仔膜(Lō'-á-mòh =竹膜=竹稈の内部にある紙狀のもの)を貼りて良音を發せしむ、支那製の笛竹は黑漆を施し、兩端の天地には水牛角又は象牙、紫檀、黑檀等を以て裝飾す。

用材

樹種

地方名		和名
有咸仔竹	Phàⁿ-hâm-á-tek	バアハムチク
米篩竹	Bí-thai-tek	ベイシチク
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク

特質及使用部分

有咸仔竹(バアハムチク)は節間頗る長く、節低く、稈肉薄く吹風の心地宜しきにより、最も賞用せらる、代用として**米篩竹**(ベイシチク)を使用す、これ本竹は前者と同樣に節間長く、節低きによるも前者に比すれば音色劣ると云ふ、**桂竹仔**(タイワンマダケ)も亦た代用として節間の長きものを利用することあり。

露仔膜(Lō'-á-mòh)は**茅茹竹**(モウソウチク)のもの最も良好なりとせられ、代用として桂竹仔のものを使用することあり、然れども多くは支那產(茅茹竹のもの)のものを使用す。

ヘ 煏皷 Piak-kó'

用途及構造

煏皷は北管曲又は芝居に使用す、其形狀は普通の大皷と異なり、貼皮は片面のみにして直徑1尺を普通とす、胴の周緣甚だ厚く約3寸にして高さは2寸5分あり、胴は丸太を胴刳となす。

用材

樹種及特質

梧桐(Gô'-tông = 和名タイワンギリ、コヽノヘノキリ)類は材質輕軟、加工し易く且つ乾濕の影響する膨縮の二現象少なく、木理通直にして音響傳導良好なるにより胴に賞用し、**苦苓**(Khó'-lêng = 和名センダン)は之が代用材となす。

材料の處理

胴刳りは丸太を定長に玉切り、樹心を胴の中心として圓形を畫き、内部を彎鑿にて荒刳りをなし、充分に乾燥せしむ、又幹形によりては樹心の一方に偏在せるものは樹心を中心とせず、幹形の中心を圓の中心として製作するも、其音響正圓のものには及ばずと稱せらる。

ト 拍 Phek

用途及構造

拍は囃用拆木にして、南北兩管曲の樂器の一なり、其構造は扇骨に類似し、厚薄5枚の小板を要の部分に小孔を穿ち、絲にて綴りたるものにして、長さ約1尺内外、幅2寸5分、但し内方の3枚は厚さ2分の長方形にして、之を子(Chú)と稱し、外側の2枚は斷面蒲鋒形を呈し弦高6—7分あり、之を親(Chhin)と云ふ。

用材

材は堅硬にして打てば良好なる音響を發し、材は容易に割裂を生せざるものを要件とす。

樹種及特質

石柳(Chiòh-liú = 和名タイワンアサマツゲ及チキナハツゲ其他シナツゲ二種を總稱す)類の各種は何れも材質堅硬にして打擊音響良好なるにより賞用せられ、代用材として材質の略〻相類似せる石苓(Chiòh-lêng = 和名ゲツキツ)を使用することあるも、割目を生じ易きの缺點あり。

(二) 太平歌曲樂器 Thài-pêng-koa-khek-gak-khì

種類　有絃(Phàⁿ-hiân)、殼仔絃(Khak-á-hiân)、碻仔(Khiaúh-á)、竹皺(Tek-kó·)等なり。

イ　有絃　Phàⁿ-hiân

用途及構造

有絃は純正の樂器にあらずして、本島中流以下の地方的民謠とも稱すべき太平歌曲の樂器の一なり、其形狀は提琴に類し、各部は絃柱(Hiân-thiāu)、絃胴(Hiân-tâng)、拮枳(Ká-chí)及附屬品の馬仔(Bé-á)、絃弓(Hiân-keng)とよりなる、絃柱は竹製にして長さ2尺、絃胴は圓筒形の竹稈又は樹幹にて製す、絃胴の大さは一定せざるも普通長さ6寸、徑4—5寸、周壁の厚さ1分乃至1分2—3厘、大なるものは1分5厘、胴の表面卽ち胴腹は貼るに厚さ約2分の薄板を以てするも、背面は否らずして開きたるまゝなり。

用　材

樹　種

地方名		和名
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
人面竹	Jîn-bîn-tek	ジンメンチク
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク
檳榔	Pîn-nûg	ビンラウジ
林投	Nâ-tâu	リントウ
刺竹	Chhî-tek	シチク
樟	Chiuⁿ	クスノキ
箭竹	Chiⁿ-tek	タイワンヤダケ
石柳	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃　〃	〃　〃	ヲキナハツゲ
梧桐	Gô·-tông	タイワンギリ
〃　〃	〃　〃	コヽノヘノキリ

特質及使用部分

桂竹仔(タイワンマダケ)は皮目堅硬、外觀良好なるのみならず、根際に近き部分は節間短かく雅致あるを利用し、絃柱を作る、**人面竹**(ジンメンチク)は材質前者に酷似するも、節間極めて短かく、其節は本稈の中軸に交互に斜角をなすため、人面に髣髴たる奇觀を呈するが故に此名あり、數奇者に愛用せらる、**茅茹竹**(モウソウチク)は親竹を伐盡したる後生竹の小形のものを絃柱に賞用す、馬仔(駒)は殆ど本竹に限らる。

檳榔(ビンラウジ)は椰子科(Palmae)に屬するアレカ(Areca)屬の一種なり、莖幹の皮目部は堅硬にして褐色を帶びたる通直なる維管束は、研磨すれば美麗なる鐵刀木杢を現はし、音響の傳導又良好なるを以て特に根株の堅實なる部分を絃胴に賞用す。

林投(リントウ)は露兜樹科(Pandaneae)に屬し、根際の皮目部は堅硬にして黑褐色に着色せられたる維管束は研磨すれば鐵刀木杢を現はす、音響傳導又良好なるにより前者の代用として賞用せらるゝも徑4—5寸のものは極めて稀れなり。

莉竹(シチク)は根際の部分を檳榔の代用として絃胴に使用す。

樟(クスノキ)は音響傳導良好にして且つ加工容易なるにより絃胴に賞用す。

箭竹(タイワンヤダケ)は節低く、皮目の堅硬にして彈性の强きと、稈圍の適大とを利用し絃弓となす。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は堅緻にして材色の美なるを利用し拮枳に賞用せらる。

梧桐(タイワンギリ及コヽノヘノキリ)類は前揭の各絃と同樣に絃胴面に使用すと雖も、就中タイワンギリは環孔性にして木目通り、音響傳導良好なるにより尤も賞用せらる。

材料の處理

絃胴用材たる檳榔、莉竹、林投等は何れも內部の基本組織を彎鑿にて

荒刳りをなし、充分に乾燥せしめたる上、皮目部の外皮を削り去り、磨を掛けて仕上をなす。

樟は大木の通直なる心材部を賞用す、資材は圓筒形に木取りたる上、周圍の厚さ2—3分を殘して内部を刳り拔く。

ロ 殼仔絃 Khak-á-hiân

用途及構造竝製作の沿革

殼仔絃は提琴に類す、純正樂器の一に數ふるものあるも、多くは有絃と同じく太平歌曲に使用す、其構造は絃柱(Hiân-thiāu)、抑枳(Ká-chí)、絃殼(Hiân-khak)及附屬品として絃弓(Hiân-keng)、馬仔(Bé-á)あり、絃柱は長さ約1尺8寸、先端に彫刻を施す、抑枳は長さ6寸にして六稜角又は棍棒狀を普通とす、絃殼の形狀と大さは椰子實の核殼を利用するものなるを以て、一定せる形狀なしと雖も標準型は心臟型にして縱3寸2—3分、横(最長徑の部分)3寸なるを最良品とし、背面には圓徑1寸5—6分の音孔を穿つ、絃殼の腹面には薄板を貼る。

本樂器の製作は從來宜蘭地方にて專業となすものありて各地に販出せり、是同地方の海岸には黑潮によりて漂着する椰子實ありて之を利用したるものなりしが、臺北に於ては大正の初年頃より所謂土產品として椰子實の核殼の各種の小器具に利用せらるゝに至りしより椰子實の需要增加し、爲に經濟的なる戎克貿易によりて南洋方面より直接に、又は間接に南支地方より輸入せらるゝに至りしを以て、大稻埕方面にも之が製作を副業となすものあるに至れり。

用 材

樹 種

地方名		和名
石柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ

烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
椰子實	Iâ-chí-sit	ヤシノ實
刺竹	Chhì-tek	シチク
箭竹	Chiⁿ-tek	タイワンヤダケ
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク
梧桐	Gô'-tông	タイワンキリ
〃 〃	〃 〃	コヽノヘノキリ

特質及使用部分

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は何れも材色鮮黃白色を呈し、外觀美にして木肌緻密、音色又良好なるを利用し、絃柱に賞用し又堅靭にして摩擦に堪ふるにより抑枳に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)、**肖楠**(セウナンボク)は石柳の代用として同樣に使用せらる、**赤皮**(イチヰガシ)は堅硬にして摩擦に堪へ材色美なるを利用し抑枳となす。

椰子實の**核殼**は角質堅硬にして、其縱斷面は心臟型を呈し特種の音色を具有するを以て絃胴に賞用せらる。

刺竹(シチク)は皮目堅硬にして音響傳導良好なるにより、其膨大せる根際部を前者の代用となす。

茅茹竹(モウソウチク)は馬仔に、**箭竹**(タイワンヤダケ)は稈徑と彈性とを利用し絃弓に使用せらる。

梧桐(タイワンキリ及コヽノヘノキリ)類は何れも材質輕軟、吸濕性、小にして音響傳導、良好なるを利用し、薄板となして絃殼面に使用す、環孔材のタイワンギリ最も賞用せらる。

材料の處理

絃胴用材中、椰子實の核殼は縦斷して外部は木鑪(キヤスリ)にて磨り、內部は彎鑿又は適當なる他の刄物にて刳り、厚さ1分內外となす、莉竹も前者と略、同樣に處理す。

絃胴面は總て柾目取りとなす。

ハ 碻仔(キヤウア) Khiaúh-á

用途及構造

碻仔は拆木に類する囃立道具にして、太平歌曲に使用する樂器の一なり、長さ6寸、徑約2寸の竹稈の二つ割にして、一端に穴を穿ち、絲にて繫ぎ、皮目と皮目とを腹合にして叩くものなり。

用 材

樹種及特質

桂竹仔(Kùi-tek-á = 和名 タイワンマダケ)は皮目、堅硬、音響良好なるを利用し、3年生以上の根際に近き、稈肉の厚き部分を賞用す。

茅茹竹(Bâ-lì-tek = 和名 モウソウチク)は小形のものを、前者の代用材となす。

ニ 竹皷(テクコオ) Tek-kó·

用途及構造

竹皷は碁石狀をなせる兩面、中高の竹製の小太皷にして、竹稈の根際に近き節間の極めて短矮なる部分にて製作し、兩節の橫隔面を皮張り大皷と同樣に叩く、太平歌曲の一樂器なり。

用 材

樹種及特質

莉竹(Chhì-tek = 和名 シチク)は稈肉厚く皮目、堅硬にして音響の幽雅なるを利用す。

(三) 大皷(トアコオ) Toā-kó· 類

附 皷箸(Kó·-tu)及皷杵(Kó·-thûi)用材

種類 大皷(トアコオ)、鐘皷(チエンコオ)(以上大型)、通皷(トンコオ)、三通皷(サムトンコオ)、手皷(チユウコオ)、煏皷(ピヤクコオ)(以上小型)

大皷類の用途及構造

(イ) **大皷**(トアコオ)(Toā-kó·)は祭典に際し大皷吹曲と稱する音曲に使用せらる、胴の大さは普通、兩端直徑2尺5寸、中徑(最大徑)2尺8寸、高さ2尺2寸あり。

(ロ) **鐘皷**(チエンコオ)(Cheng-kó·)は大皷類中の最大なるものにして寺、廟、宮のみに備へらる、胴の大さは普通、兩端直徑3尺5寸、高さ3尺2寸、是を打鳴らすには皷箸(コオツウ)(撲)を用ひず、皷杵(コオツイ)と稱する鐘搗棒の如き裝置による。

(ハ) **通皷**(トンコオ)(Thong-kó·)は樂隊及芝居の囃立用にして、胴の大さは兩端の徑1尺1寸、中徑1尺3寸、高さ9寸あり。

(ニ) **三通皷**(サムトンコオ)(Sam-thong-kó·)は前者と同樣に使用するも只だ形狀の小なるを異なりとす、兩端直徑8寸、中徑9寸、高さ6寸あり。

(ホ) **手皷**(チユウコオ)(Chhiú-kó·)は僧侶及道士の誦經に使用す、其形狀は團扇大皷に類し、高さ低く、把柄を附す、胴の大さは兩端直徑8寸、中徑8寸、高さ4寸を普通とす。

(ヘ) **煏皷**(ピヤクコオ)(Piak-kó· = 樂器用材の(一) 明清樂器用材 參照)

用 材

樹 種

地方名		和名
梧桐(ゴオトオン)	Gô·-tông	タイワンギリ
〃 〃	〃 〃	コヽノヘノキリ
福州杉(ホクチウサム)	Hok-chiu-sam	コウエフザン
破布子(プアポオチイ)	Phòa-pò·-chí	カキバチシヤノキ
苦苓(コオリエン)	Khó·-lêng	センダン
桂竹仔(クイテクア)	Kuì-tek-á	タイワンマダケ

樹種及特質並利用地方

梧桐(タイワンギリ及コヽノヘノキリ)類は何れも材輕軟乾濕の影響する脹縮の二現象極めて少なく、音響の傳導良好なるにより大皷、鐘皷、三通皷等の如き小形物の胴に用ひ、木理の通直なるものを賞用す。

福州杉(コウエフザン)は材質、稍輕軟、木理通直にして小皷音の傳導、幽雅なるものあるを利用し、通皷、三通皷等に賞用す。

破布子(カキバチシヤノキ)は材質稍〻堅硬なるも、材の收縮極めて少なく、音響の傳導良好なるにより、北部に於ては手皷胴に賞用す。

苦苓(センダン)は材質輕軟、木理美にして加工し易く、干割れを生せず、且つ音響傳導の良好なるを利用し、中部及嘉義地方にては手皷、三通皷等の小形物を作る。

桂竹仔(タイワンマダケ)は質、堅硬なるを利用し、胴榑の矧ぎ釘及皮張の留針に使用す。

材料の處理

大型物の胴はすべて胴榑を用ひ、小型物の胴は丸太を其まヽ、胴刳となす。

胴榑の木取り、丸太の割材より胴榑を木取るには、先づ割り型の鉈を以て外皮より割削し、充分乾燥したる後、鉋刀(鉋)にて接合面(矧面)を正し桂竹仔(タイワンマダケ)製の竹釘にて矧き合はせ、之を假箍にて寄せ合はせて組み、內側を彎鑿、外側を彎鉋にて削る、大型物は32枚、小型物は20枚內外なり、胴刳りは所要の丸太を定長に玉切り、樹心を胴の中心として圓形を畫き內部を彎鑿にて荒刳りをなす、又樹形により樹心の一方に偏在せるものは、樹心を中心とせず、材の中心を圓の中心として製作するも音響は法正のものに及ばずと云ふ。

附 皷箸 (Kó'-tū) 及 皷杵 (Kó'-thûi) 用材

用途及構造

皷箸は揆にして大皷箸及小皷箸の別あり、皷杵は搗棒の一種なり。

用 材

用材は何れも質堅靭にして彈性に富むを要件とす。

樹種及特質

赤皮 (Chhiah-phê = 和名 イチヰガシ)は大皷箸及皷杵として最も賞用せらるヽも地方によりは**烏心石** (O'-sim-chiôh = 和名 ヲガタマノキ)を代用す。

觀音竹 (Koan-im-tek = 和名 クワンオンチク、學名 Rhapis flabelliformis *Ait.*)は一に**琉球竹** (Liû-khiû-tek) 又は**筋頭竹** (Kun-thaû-tek) と稱し、棕梠科 (Palmae) に屬す、幹は單幹指頭大にして高さ6—7尺に達す、節を有し宛も竹の鞭根に似たり、幹の皮目に近き部分は黑褐色の維管束の分布、密にして堅硬なり、外皮を薄く削去すれば美觀を呈す、內部は基本組織及粗に分布せる維管束にて充塡せらる、通皷又は三通皷の如き小型の皷箸に使用せらる。

箭竹 (Chiⁿ-tek = 和名 タイワンヤダケ)は節低く、稈圍の適大なると、質の强靭なるとを利用し煽皷の皷箸に賞用せらる。

(四) 三不鑼 Sam-put-lô

三不鑼とは十音北唱より轉化せる兒童樂にして樂器は一種のみなり。

榧仔 Khok-á

用途及構造

榧仔は木魚の一種にして、其形狀は果梗の曲れる長茄子狀を呈し、大小あり、竹の根株又は木製にして內部を刳り拔く、多くは素地のまヽなるも、漆塗を施せるものなきにあらず。

用 材

樹種及特質

薊竹 (Chhî-tek = 和名 シチク)は音響の幽雅なるを利用し多年生の根株

を賞用す。

樟(Chiaⁿ=和名クスノキ)は加工し易く、音響の幽雅なるを利用す。

三 祭典(Chè-tián)用具用材

總說

臺灣の祭典と稱せらるゝものは頗る多く、宗教の雜多なるに從ひ、各其儀式を異にす、寺廟宮の祭典例へば釋典(孔子公)、關帝祭(關帝爺)の如きは極めて崇嚴の横溢せるものあるを見る、寺院に於ては普度(Phó'-tō')と稱し無縁の亡者に供養をなす、蓋し普く濟度するの意より來れる祭禮なりと云ふ、普度は各街庄の人民共同して一箇所又は數箇所の寺廟宮に於て之を行ふ、然れども數箇所聯合の行事は極めて稀れなり、期日は陰歷の七月中にして僧道(道教)の支障なき日を選ぶ、其日は寺廟宮の前方に結彩を掛け、燈籠を吊懸し、羊豚鷄家鴨を以て各種の山水風景、人物等に象り、五色の色紙を以て冥具、冥器を作り、前方は勿論、側方、後方にも列べ爲めに本尊は全く埋めらるゝの觀を呈す、已に夜陰となれば衆僧、讀經をなし一般無縁、無依の孤鬼を濟度す、又街上に於ては劇を催し、各戸又た饗應をなすと雖も是皆普度の意にして、自家の祖先を祭つることなし、又此夜、燈籠會と稱し幾多の燈籠行列を催し、或は樂隊を加へ或は詩意閣(山車に同じ)に藝妓を載せ元宵の燈節も一歩を讓るが如き盛觀を呈す、又廟に於ては遊境を行ふ、遊境は一に鬧熱又は迎神明とも云ふ、內地に於ける神幸(御境廻り)の如く、神佛を乘轎に奉じて神域の街庄を巡遊す、遊境には一定の行列、順序あり、其中には幾多の隨神あり、奏樂隊あり、旗幟の壯觀、儀仗の盛大、詩意閣の華麗、幾千百の善男、善女、隨香(神佛轎に點香して隨行すること)して其盛大なるものは拾數町に及ぶ、本行事は年一回之を行ふを普通とするも中には年二回のものもあり、又は惡疫流行其他臨時に擧行せらるゝことも稀れならず、又は單に香燭を點し酒饌を設け爆竹を放ち、金銀紙を燒くに止るものもあり、從て是等の行事に使用

する用具は頗る多く一々枚擧に遑なき程なるも、其主なる用具は(一)神佛轎、(二)連轎、(三)長脚牌、(四)鐘鼓停、(五)詩意閣、(六)茶擔、(七)彩牌、(八)大旗斗、(九)鑼槓、(一〇)托燈骨、(一一)香擔、(一二)順盒、(一三)斗燈、(一四)儀仗、(一五)猪公架等にして各用具と慣用材とに就ては順次に之を記述すべし。

(一) 神佛轎 Sîn-put-kiō

用途及構造

神佛轎は神佛像の乘轎にして4人又は8人にて擔ぐ、廟寺の祭典、遊境、奉迎の際は必ず本乘轎を使用す、凡そ臺灣の彫刻器具中、本轎に施したる彫刻程、精巧を極めたるはなく又用材を選擇したるものはなかるべし、其構造は魯班公(尺度の創定者にして大工の鼻祖)の秘遺したる尺規寸法に則り財、失、興、死、官、義、苦、旺、害、丁等の十文字によりて定めらる、此文字中、吉字6、凶字4ありて、1字に就き1寸3分の割合を以て定められたるものなりと云ふ。

轎の全高は5尺4寸、幅3尺、長さ3尺3寸あり、其各部の大別は轎蓋、轎柱、轎門、笠塔、頂塔、轎窓塔、轎槓塔、下裙塔、下塔、下座、轎槓等よりなり、轎蓋(Kiō-kòa)とは上部に蓋せる四方屋根の謂にして一見四角形を呈するも中央部は隆起し、其頂點には轎尖(Kiō-chiam)を附す、轎柱(Kiō-thiāu)は4本各隅に立て、各塔(數居、鴨居に類す)を連絡する基柱をなす、轎門(Kiō-mûg)は轎の正面に位する神佛像の出入門なり、其左右には笠塔(Lóeh-tó')を附著し、中間には3寸四方の孔ありて轎槓(Kiō-kòg=擔棒)の挿入口をなす、頂塔(Téng-tó')は轎蓋の下、各塔の上部の周縁に位し、約3寸の幅を有する裝飾羽目板にして花鳥の彫刻を施して嵌著す、轎窓塔(Kiō-thang-tó')は頂塔の下に位するものなるも、正面を除き兩側面及後方の3箇所に3枚に分ちて附せらる、其周縁は有色材を以て草仔(Chháu-á)と稱する唐草模樣を刻む、轎槓塔(Kiō-kng-tó')は前者と同じく兩側及後面の3箇所に附せらるゝ横木にして中央部に於ける幅は約5寸あり、前者同樣に彫刻を施す、下裙

堵(Ē-kûn-tó·)は轎の正面を除ける兩側及後方の下半部に附せられたる裝飾、板張にして高さ1尺6—7寸あり、何れも一定の花鳥、人物等の彫刻を施す、下堵(Ē-tó·)は側方の最下部に位し、高さ約3寸あり、2枚組に製作せられ、彫刻を施す、下座(Ē-chō)とは轎の臺輪にして轎底に附せられ、高さ約2寸あり、全部漆塗及金泥塗りにして價格頗る貴く、安きも五六百圓より高きは數千圓に達するもの少からず。

用　材

樹　種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
石柳	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃　〃	〃　〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白隣	Peh-lîn	クチナシ
茄苳	Ka-tang	アカギ
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ

特質及使用部分竝利用地方

樟(クスノキ)は香氣ありて清淨の感を起さしめ、又保存期大なるを以て轎蓋及下座の外、各堵の彫刻部に慣用す。

石柳(タイワンアサマツゲ及オキナハツゲ)類は材精緻にして、容易に缺損せず、加工又容易なるにより各堵又は轎の周緣を飾る彫刻部に賞用せらる、狗骨仔(シロミヽズ)は材、白色にして精緻の度合は前者に及ばざるも、代用として使用せらる、南部地方に於ては、狗骨仔の代りに白隣(クチナシ)を使用す、白隣は一名白仁(Peh-jîn)とも稱す。

茄苳(アカギ)は堅重にして負擔强及抗壓强大なる外、紅褐色の古雅なる材色を貴び、轎槓又は各轎柱に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は强靭にして、負擔强大なるのみならず、又保存期永きを以て下座、轎槓に賞用せらる。

(二)　璉轎　Lián-kiō

用途及構造

璉轎は神佛像の乘輿なり、本轎は寺廟の祭典の使用のみに止らず、平時に於ても行醫(Hêng-i)に多く使用せらる、行醫とは羅病者が靈驗あらたかなる神佛を奉迎し、其宣託によりて病名、醫藥を伺ふ行事にして今尙ほ盛んに行はる、之を行ふには其神佛の鎭座せる寺廟より璉轎にて迎ふ卽ち金身(神佛像のこと)を璉轎の奥にある倚靠(Í-khò)に布切れにて結はひて安定し、交互に長短ある2本の轎槓(一方は短く一方は長く突出し其長槓の方を片々に擔ぐを法とす)を前後の二人にて擔ぐ、羅病者の廳堂には卓子の祭壇を設け、卓面には糠を一面に布き、擔者之に對す、別に卓頭先生なるものあり、必ず神佛に隨從す、一種の修業者にして卓子の側に腰掛け、金紙を燒化しつゝ念咒をなす、念咒暫時にして、卓子に對せる前方の擔者は、擔ぎたるまゝ腰を低くし、擔ぎたる長き方の轎槓の先頭にて、卓面の糠に跡を印せしむ、之神佛の託宣し、玉ふなりと稱し、之によりて卓頭先生は家人に「病氣は何々」、「何々藥を服せよ」と敎示す、迷信深き民衆は敢て之を怪まず、之に信賴するもの尠らず。

璉轎は其構造恰か椅椅(一種の臂掛椅子)に類するものにして、其主なる各部は璉轎脚、璉轎手、璉轎焞、璉轎堵、璉轎槓よりなる、璉轎脚(Lián-kiō-kha)は4本の小柱にして各堵を結合する基脚をなす、璉轎手(Lián-kiō-chhiú)は轎の兩側にあり、各堵より約7—8寸高し、臂掛に相當す、其先端には龍頭を彫刻す、璉轎焞(Lián-kiō-thui)は高さ約1尺2寸あり、倚靠及笠木に相當するものにして座の後方中央に附せらる、上部笠木の兩端にも龍頭を彫刻す、璉轎堵(Lián-kiō-tó·)は腰羽目に類するものに一枚羽目として嵌著せしむ、璉轎槓(Lián-kiō-kìng)は擔棒にして、轎の兩側中央部の槓耳(Kìng-hī = 籐又

は金屬製)に嵌入し、内1本は他側の槓より長く前方に突出せしめ、後面も前面と同じく片方は、より長く突出せしむ、擔ぐ時は長く突出せる轎槓のみに肩を入るゝが故に、結局は片々擔ぎに異ならず。

用　材

樹　種

地方名		和名
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
樟	Chiuⁿ	クスノキ
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
石竹仔	Chiôh-tek-á	セキチク
薊竹	Chhì-tek	シチク
長枝仔竹	Tûg-ki-á-tek	チヨウシチク

特質及使用部分

楠仔(オホバタブ)は大幅板を得易く、且つ廉價なるを以て各堵の羽目板に使用す、**樟**(クスノキ)は香氣と氣韻とを利用し、蓮轎焞(神佛像の倚錄)に慣用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は堅靭にして彫刻し易く、又負擔强大なるのみならず、塗料の利き良好にして仕上ぐれば美觀を呈するにより、兩側の蓮轎手及倚靠の上部の笠木を作り又抗壓强を利用して各脚に賞用せらる。

石竹仔(セキチク)、**薊竹**(シチク)、**長枝仔竹**(チヤウシチク)は何れも稈肉厚く、負擔强大なるにより蓮轎槓に使用す、就中、石竹仔は最も賞用せらる、是他の二者に比し、强度大なるのみならず又保存期の大なるが故なり。

(三) **長脚牌** Tûg-kha-pâi

附 長脚牌臺 (Tûg-kha-pâi-tâi) 用材

用途及構造

長脚牌は一種の高立札にして、改隸以前にありては清國官吏の出巡に際し其行列の裝飾具なりしものゝ改隸以後は僅かに寺廟の格式記表又は前清時代の舉人(我が高文合格者に相當す)の葬儀に使用せられたるものなり、1組4對8本よりなる、乘轎の先驅に押し立て、第1位の1對より順次に廻避(通路の際一般の人民は道路の側に避よとの意)、第2位の1對は肅靜(通路の際一般の人民は靜かにして敬禮を表せよとの意)、第3位の1對には官の等級、勳位等を、第4位の1對は衙門の名稱及官名又は廟寺の格式等の文字を彫刻、嵌入す、其構造の各部は牌面(Pâi-bīn)と牌脚(Pâi-kha)よりなる、牌面は長方形の板にして長さ2尺2寸、厚さ1寸、幅1尺8寸、其短邊の下部には幅2寸、厚さ1寸角の、長さ3尺の牌脚卽ち把柄を附す、總て牌面の周緣及文字は黑色に、其他の部分は紅色に著色せらる。

用　材

樹　種

地方名		和名
樟	Chiuⁿ	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフサン

特質及使用部分

牌面の文字は象嵌なるにより材の緻密にして彫刻の容易に且つ缺損せざる樟(クスノキ)を使用す、楠仔(オホバタブ)は香氣なきも材質の類似せるものあるが故に之が代用材となす。

福州杉(コウエフザン)は質輕軟、加工し易く又反張割裂少なきを利用し牌面、牌脚の全部に使用す。

附 長脚牌臺 (Tûg-kha-pâi-tâi) 用材

長脚牌は平素は長脚牌臺と稱する臺枠に挿立す、恰かも端午の節句の飾り幟の夫れに異ならず、臺は總て楠仔(Lâm-á＝和名 オホバタブ)を以

て製作す、上下二段の横棧あり、其中央には牌脚の挿入孔を列に穿ち其兩端の臺柱には上端に猿頭を刻み、其兩側は持送りにて之を固定す。

(四) 鐘皷亭 Cheng-kó'-têng

用途及構造

鐘皷亭は輿轎の一種にして二つの謂ひなり、即ち前部の有蓋厝亭内に鐘を掛けたる場合を鐘亭、皷を吊したる場合を皷亭と云ふ、後部の無蓋閣亭には腰掛けありて硯童(打鳴者)の座となす、4人擔ぎにして廟の巡遊には缺くべからざる必須具なり。

其構造は亭臺上に造設せる上下の二部を有する高低の厝亭2箇よりなる、前方の高くして家根を有するは厝にして、低き無蓋のものは亭なり、此二者は連續して一見樓門の小模形の如し其各部は吊鐘亭(Tiàu-cheng-têng 又は、吊皷亭 Tiàu-kó'-têng)、座亭(Chō-têng 一名、涼亭 Liâng-têng とも云ふ)、雞間(Koe-kan)、閣欄(Koh-lân)、閣蓋(Koh-koà)、下座(E-chō)、下座手(E-chō-chhiú)とよりなる、各部とも美術的技巧を凝らしたる製作にして各色の油料、顔料を塗布す、厝の高さは3尺2寸、間口2尺3寸、奥行2尺、亭の高さは4尺2寸、方2尺2寸にして下座は高さ1尺6寸、長さ6尺、幅3尺2寸を定寸となす、而して其周縁は高さ6寸の欄間を附し、裏より布張りをなし、書畫を繪きて裝飾となす、下座の各柱、各堵は勿論、全部に極彩色の油料及顔料を施すことは下座上の厝亭と異なることなし、下座の兩側には下座手を嵌入す。

用 材

樹 種

地方名		和 名
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン

特質及使用部分

烏心石(ヲガタマノキ)は堅靭、著色良好にして、保存期永く兼て負擔强及抗壓强の大なるを利用し各柱、及下座手に使用す。

楠仔(オホバタブ)は安價にして工作の容易なると著色の良好なるとにより烏心石の代用となし、又幅物多きを以て下座板及閣蓋に使用す。

福州杉(コウエフザン)は塗料の著色良好なると工作の容易なるとにより各堵及欄間並下座板に用ふ、又木理通直にして負擔强大なるのみならず輕軟にして肩の當り柔かなるにより下座手に賞用せらる。

(五) 詩意閣 Si-ì-koh

附 蜈蚣閣(Giâ-kang-kok)用材

用途及構造

詩意閣は一名藝妲閣(Gè-tôa"-koh)とも云ふ、「詩意閣とは閣を造り詩の意を活人に假ひ來りて目前に躍如たらしめ、配するに背景を以てし、更に懷古の情に切ならしむ、臺俗慶祝、佳辰に逢ふ毎に之を作つて樂しむ」と記錄せられたるが如く、廟寺の祭典、其他慶祝、佳辰には必ず之を使用す、其構造は閣臺の上に山水其他諸種の背景を造り之に時代風に盛裝せる藝妓を載せ4人に擔ぐ恰も内地の山車に髣髴たるものあり、下座(E-chō = 閣臺)は長方形にして長さ6尺5寸、幅3尺、高さ1尺8寸あり、外側は全部を擧げて五彩の塗料を施し、閣の周縁には高さ6—7寸の嬪仔(Pîn-á = 欄干)を附し、内側よりは紙又は布張りを施し、書畫を繪き下座面(E-chō-bîn)には中央部に徑6—7分の長短2本の鐵棒を建て、其先端には馬椅(Bé-í)と稱する幅3寸、長さ6寸、厚さ2寸位の板を緊著し、藝妓の腰掛けとなす該鐵棒は著衣の裳の爲めに隱れて現はれざるを喜ぶ、下座の兩側には竹製の閣槓(Koh-kìng = 擔棒)2本を嵌入す。

用 材

樹 種

地方名		和名
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
莉竹	Chhî-tek	シチク
石竹仔	Chiòh-tek-á	セキチク

特質及使用部分

楠仔(オホバタブ)は幅物多く、著色良好なるが上に材價の低廉は下座に使用せらる。

福州杉(コウエフザン)は薄板となすも反張割裂の惧れ少なく、且つ加工の容易と、著色の良好なるとは羽目板及嬪仔に又材の輕軟にして負擔强の大は丸太のまゝ鉋削を施して閣槓に使用す。

莉竹(シチク)は稈肉厚く堅靭にして、負擔强の大なるを利用し閣槓に用ゆ。

石竹仔(セキチク)は通直適大にして皮目堅靭、負擔强最も大なるを以て閣槓に賞用せらる。

附 蜈蚣閣(Giâ-kang-koh)**用材**

本閣は詩意閣の一種にして、其構造は極めて簡單にして幅1尺6寸、厚さ1寸5分、長さ7尺の板の兩端に徑約1寸2—3分の聯結孔を穿ち、心(Sim)と稱する長さ5—6寸の木製の回轉軸を挿入して10枚乃至12枚を聯結す、各板には1脚宛の古椅頭(椅子の一種=第六の三の(ナ)參照)を固定し、時代風に粉裝せる藝妓1人宛を載せ、延長50—60尺內外に及び16人乃至20人に擔ぐ、其狀恰かも蜈蚣(ムカデ)の匍匐するに髣髴す、故に此名あり。

用材樹種及特質 用材は摩擦衝動等に堪ふる外、1枚板なるを以て大幅物を必要とし、楠仔(Lâm-á = 和名オホバタブ)を使用す、心卽ち聯結、回轉軸は强靭にして摩擦衝動に堪へ且つ缺損を生せざるものを要件とし、校檳(Kaú-chàn = 和名アラカシ)、赤皮(Chhiah-phê = 和名イチヰガシ)等を使

用す。

(六) 茶擔 Tê-tàⁿ

用途及構造

茶擔は樂隊の郎君(樂隊長)及子弟の各員に必須の器具にして內部に茶を藏置し樂人の飲用に備ふ、本品は樂隊の附屬道具中最も貴重なるものにして安きも數百圓より高きは千餘圓の高價を保ち、樂隊の聲價は一に該品によりて評價し得ると稱せらる、故を以て其製作には數奇を凝らし互に其技工の巧妙を誇るものゝ如し、其構造は四角壔をなせる一種の戶棚にして全部に互り精巧なる美術的彫刻を施す、其主なる部分を上部より下部に順次に列擧すれば竪柱蒂椅(Khiā-thiaū-thê-í = 四本柱の上端の彫刻部)、香櫛(Hiuⁿ-lân)、櫛干的(Lân-kan-tek)、正面頂腹(Chiàⁿ-bīn-téng-tó·)、正面中腹(Chiàⁿ-bīn-tiong-tó·)、草仔帶(Chhaú-á-tòa)、斜(Chhiâ)、正面透腹(Chiàⁿ-bīn-thaù-tó·)、外角柱(Goā-kak-thiaū)、內柱(Lāi-thiaū)、下櫛干(Ē-lân-kan)、印櫛(Iⁿ-lân)、地盤(Tē-poâⁿ)、竪花(Kiā-hoe)、鱉頭(Pih-thaû)、湯匙脚(Thng-sî-kha)、水像(Chúi-siōng)、脚沙(Kha-soa)等よりなり、茶檐秤(Tê-tàⁿ-pīⁿ)を附屬具とす。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
石柳	Chiòh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
茄苳	Ka-tang	アカギ

特質及使用部分

肖楠(セウナンボク)は質緻密にして加工し易きも缺損の惧れあるに

より、平彫の部分に用ゆ、又塗料を施せば鮮かなる光澤を放つにより各柱及横杆(横棧)に用ふ。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類及**狗骨仔**(シロミヽズ)は何れも材精緻なるにより全部の彫刻に使用せざるはなきも周縁其他細密を要する透彫(スカシボリ)の部分には特に本材を用ゆ、之れ石柳の强度は狗骨仔の夫れに比し稍〻劣るものあるも精緻の度合は優るものゝ如く從て硬度も亦大なり、著者の實驗せる兩者の硬度試驗の成績を表にて比較すれば

樹種名	比重(實數)	硬度(瓩)	石柳の硬度を100とせる改算率	備考
石柳(タイワンアサマツゲ)	0.90	970	100.0	硬度はヤンカ博士の表示
狗骨仔(シロミヽズ)	0.79	805	67.2	法による

の如くにして狗骨仔の硬度は石柳の夫れに比し約3割3分小なる計算となる。

烏心石(ヲガタマノキ)は質、强靭にして負擔力の强きを利用し、地盤及湯匙脚等の如き部分及茶擔秤を作る。

茄苳(アカギ)は紅褐色を呈し雅致あるを以て色澤の配合を要する所に寄木又は木象嵌として使用せらる。

(七) 彩牌(チアイパイ) Chhái-pâi

用途及構造

彩牌は樂隊の稱號を銘記し、先驅に押立つる隊旗に相當するものなり、其構造は屏風の如く三枚の板よりなる、各板は緩かなる曲面を有し、中央板は凹面を、左右の兩翼板は凸面を正面となす、稱して彩牌面(Chhái-pâi-bîn)と云ふ、兩翼板の背面には上端に中歐中世紀の武器ハルバード(Halberd)に類似せる斧戟形の彫刻を嵌著せる長さ5—6尺の把柄卽彩牌脚(Chhái-pâi-kha)を嵌入し2人にて把持す、彩牌面の中央板には隊名を

其左右の兩翼板には花卉及文字を畫くか若くは木象嵌として素地に嵌入す、各板の周縁は特に花鳥の美術的彫刻を施して裝飾す、其彫刻部の主なる名稱を上部より擧ぐれば、頂外腹(Téng-goā-tó·)、草仔(Chhaú-á)、中腹(Tiong-tó·)、虎口脚(Hó·-khaú-kha)(以上中央牌)、邊腹(Pi^{n}-tó·)、管士枳(Koán-sū-chí)等となす、價格は200圓内外を普通とす。

用材

樹種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
石柳(チヨリウ)	Chióh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
狗骨仔(カウグツア)	Kaú-kut-á	シロミヽズ
茄苳(カアタン)	Ka-tang	アカギ

特質及使用部分

彩牌面には肖楠(セウナンボク)を使用す、是材の仕上り良好にして美觀を呈するが故なり。

彩牌脚には**狗骨仔**(シロミヽズ)を專用す、是質の精緻にして彫刻の容易なるは勿論、又通直なる長物を得易きと、石柳に比すれば負擔强の强大なるが爲なり、又本材は牌面の周縁を裝飾する彫刻帶に使用して彩牌面に嵌著す。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類及**茄苳**(アカギ)は材質と材色とを利用し彩牌面の彫刻嵌入材に使用す。

(八) 大旗斗(トアキイタウ) Toā-ki-taú

用途及構造

大旗斗は旗竿の頂端に嵌著するものにして旗の裝飾に過ぎず、其構造は角臺を顚倒し中央部を棒にて貫通したるが如きものにして一見

戰艦の檣樓の如き觀を呈す、其各部は斗(Taú)斗心(Taú-sim)よりなる、斗の上邊は方1尺、下邊は7寸4分、斗心は長さ3尺を定法とす、斗の四隅には三角形の小旗を附せる小旗竿を斜挿す、斗の側面は顏料にて花鳥を畫きて粉飾をなす。

用　材

樹　種

地方名		和名
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
亞杉	A-sam	タイワンスギ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aňg-koô	ベニヒ

特質及使用部分

福州杉(コウエフザン)は木理通直にして加工容易なるによる、**亞杉**(タイワンスギ)又は**松梧**(ヒノキ)**紅檜**(ベニヒ)を使用することあり。

(九) **鑼槓** Lô-kàng

用途及構造

鑼槓は銅鑼を吊懸して擔ぐ棒にして、長さ約5尺、徑1寸6—7分、中央の2尺乃至2尺5寸の部分には精巧を極めたる兩龍奪珠を圓筒狀に彫刻して嵌著するを定規とするも、時には中央部の瘤狀突起を有する天然材を利用するものもなきにあらず。

用　材

樹　種

地方名		和名
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
石苓	Chiòh-leng	ゲツキツ

九芎	Kiú-kiong	シマサルスベリ

特質及使用部分

烏心石(ヲガタマノキ)は材の强靭にして、負擔强大なるを利用し丸棒に使用す。

狗骨仔(シロミヽズ)は質精緻、刄物の切れ味良く彫刻し易きを利用し、兩龍奪珠の彫刻部に使用す。

石苓(ゲツキツ)及**九芎**(シマサルスベリ)は强靭にして負擔力强く、樹幹には往々奇形の瘤狀突起を有するものあるにより天然形のまゝ之を利用すること尠からず。

(一) **托燈骨** Thuh-teng-kut.

用途及構造

托燈骨は高張提燈掛に類し、紙燈を吊す竿なり、廟寺の祭典に使用せらる、2本を1對とす、其裝飾彫刻は頗る精巧を極む、其主なる部分は頂部より順次に帶騎(Toà-khiâ)、頂盤枳篋(Téng-poâⁿ-chí-kheng)、頂盤(Téng-poâⁿ)、燈座(Teng-chō)、下盤(Ē-poâⁿ)、相向角草(Saⁿ-hiòng-kak-chháu)、骨槓(Kut-kìng)等よりなる。

用　材

樹種及特質竝使用部分

烏心石(O'-sim-chiòh＝和名ヲガタマノキ)は骨槓に、**狗骨仔**(Kaú-kut-á＝和名シロミヽズ)は前掲せる各部の彫刻部に使用す。

(二) **香擔** Hiuⁿ-tàⁿ

用途及構造

香擔は香爐の一種にして焚香しつゝ擔槓に吊懸す、廟寺の巡遊には缺くべからざる備品の一なり、其構造は大皷形にして高さ1尺2寸、徑1尺、中央には深さ4寸、內徑5寸の穴を穿ち正面の外側には花模樣の彫刻を施す、上端に近き側面には4十字形の位置に4個の金屬製の環

を附し、下げ紐を結ぶに便にす。

用　材

樹種及特質竝使用部分

樟(Chiuⁿ＝和名クスノキ)は材に香氣ありて清淨の感を起さしむるのみならず、材は堅軟中庸にして刳り、彫み共に容易なると、保存期永きとにより賞用せらる、代用として楠仔(Lâm-á＝和名オホバタブ)を使用することあり。

材料の處理

丸太を輪切りのまゝ彎鑿(ワンツアク)にて刳る。

(三) 斗燈(タウテエン)　Taú-teng

用途及構造

斗燈は大小2個を1組とす、其構造は大皷形にして、大は高さ9寸、徑1尺1寸、小は高さ5寸、徑4寸、何れも周縁の厚さ1寸を殘して內部を刳り、外部は赤色の桐油顏料を塗り、外側の正面には花鳥を彫刻して金泊を塗る、七月(中元)及十二月(上巳)の謝恩祭に使用する點燈用具にして、內部に火を點す所謂元辰火是なり。

用　材

(二)香擔用材と同一なるを以て省略す。

(三) 儀仗(キイテヨン)　Gî-tiōng

用途及構造

儀仗は神佛を護衛する儀仗兵の武器卽ち槍戟なり、其形狀は極めて多種多樣にして恰かも中世、中歐の武器ハルバード(Halbard)に類す、其定數は72對あり、往時は鐵製を使用したるも、今は悉く木材にて模型を彫刻し、金泊又は桐油、ペンキにて著色す。

用　材

樹　種

地方名		和名
樟(チウ)	Chiuⁿ	クスノキ
楠(ラム)仔(ア)	Lâm-á	オホバタブ
狗(カウ)骨(クツ)仔(ア)	Ka-úkut-á	シロミヽズ
赤(チヤ)皮(ペエ)	Chhiah-phê	イチヰガシ

特質及使用部分

樟(クスノキ)は堅軟中庸彫刻し易く、蟲害の惧れなく保存期永きを以て彫刻部卽ち斧戟の鐵刃部に相當する部分に賞用す、楠仔(オホバタブ)は樟の代用となす、特に精密なる彫刻を要するものにありては狗骨仔(シロミヽズ)を使用す。

把柄部には通直にして强靭なる赤皮(イチヰガシ)を使用し代用として楠仔を使用す。

(四) 順盒(スンアプ)　Sūn-ap

用途及構造

順盒は祭典に使用する菓子盛り器具なり、其形狀は脛部と臺脚とを有する八角壔にして、高さ8寸5分、徑5寸5分、外側面は全部に互り方形又は長方形を劃し、彫刻又は象嵌を施し、金箔又は赤漆を塗る慣習ありしも今はラック又は漆の素地塗りを擇ぶの風起り、素地塗り專ら賞用せらる、價格は一定せざるも2—3圓より70—80圓(金箔塗)に及ぶ。

用　材

樹　種

地方名		和名
樟(チウ)	Chiuⁿ	クスノキ
肖(シヤウ)楠(ラム)	Siau-lâm	セウナンボク
石(チヨ)柳(リウ)	Chiòh-líu	タイワンアサマツゲ
〃　〃　〃　〃		ヲキナハツゲ

茄茅	Ka-tang	アカギ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁	Peh-jîn	クチナシ
山杉	Soa^{n}-sam	ナギ

特質及使用部分竝利用地方

樟(クスノキ)は彫刻の容易なると、保存期の永きと、著色の良好なるとにより胴材に賞用せられ、**楠仔**(オホバタブ)を代用となす。

肖楠(セウナンボク)、**石柳**(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類、**茄茅**(アカギ)はラツクを塗れば各獨特の鮮かなる光澤を放つにより象嵌部の用材に賞用せらる。

狗骨仔(シロミヽズ)は一般に互り、**白仁**(クチナン)及**山杉**(ナギ)は臺南地方にて石柳の代用として使用す。

(五) 猪公架 Tu-kong-kè

用途及構造

猪公架は神恩を叩答するに際し、供物の一たる豚を屠殺し被毛を剃去し、臟腑を摘出し原形のまゝ乘せ掛くる臺なり、其構造は長方形の棧枠にして四脚を有し、上部には屋根形の傾斜せる梁及龍骨を附し、高き方の先端の束棧の頂端には短き頭板(Thaû-pang)を嵌著す、架脚の頂端及小竪の頭部には猿頭を彫刻す、木製と竹製とあり。大さは略ゝ豚の等身に準ず。

用 材

樹 種

地方名		和名
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
剃竹	Chhì-tek	シチク
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ

特質及使用部分

楠仔(オホバタブ)は尤も普通の慣用材にして工作の容易なると、負擔强及抗壓强を利用し、全部に使用す。

剃竹(シチク)は稈肉厚く强靭にして强度の大なると、入手の容易なるとを利用し、全部に使用す、又木製の梁部の彎曲せる龍骨には必ず本竹を使用す。

桂竹仔(タイワンマダケ)も地方によりては、材の强靭と强度の大とを利用し、全部に使用することあり。

四 葬儀(Chòng-gî)用具用材

種類 棺柴(Koan-chhâ)、板椅(Pán-í)、大龍(Toā-lêng)、五性盤(Gó'-seng-poâ^{n})、四角桶盤(Sì-kak-tháng-poâ^{n})、香亭(Hiu^{n}-têng)、鼓亭(Kó'-têng)、靈厝(Lêng-chhù)

(一) 棺柴 Koan-chhâ

總 說

支那民族は冠婚葬祭を以て人生の大禮となし、其行事は今尙依然として舊慣のまゝなるは、流石に禮儀三百、威儀三千の民族性を忍ばしむるに足るものあり、就中死者に對する禮は葬儀を厚くするを以て第一義とし、其靈魂を慰藉するは子孫の職分にして、其禮の厚薄は係て子孫の榮枯盛衰に至大の關係を有するものとせられ、主葬具たる棺柴の如き最も留意する所なり、其選擇は貧富の度に應じて著しき軒輊あるは勿論なるも、富豪の葬儀には一棺能く數百圓を拋つもの尠からず。

喪儀の慣習 棺材に就て述べんとせば先づ葬儀の風習を說かざるを得ず。

由來支那民族は死者の歛棺後、直に埋葬を施行せず、是を廳堂(玄關の間に當る大廣間)に安置してより出葬期日甚だ永く、通禮の記載に據れば「公侯伯又は品官、庶士は三月、庶人は踰月にして葬る」とあれども俗習には更に停棺の風行はれ、短きも數月、永きは數年に及びし例に乏しからず、是

等の内には出葬の吉時、又は埋葬の吉地を得ざる外、或は子孫の不在等の理由によりしものあるべしと雖も、其多くは分限を誇りしものにして、改隷後は官廳が此惡風を矯正せんとして速葬を勸誘したる結果、今は速きは兩三日、遲きも旬餘を出づるは稀れなるに到れり。

此停棺の風習は自ら棺柴外部は大抵、黑漆又は朱漆にて塗飾し、各板の合目には油灰を充塡し、永く空中に放置するも材の割裂を生じ、若くは臭氣を放出せざらしむるに努めたるが如し、是棺材選擇の一因なるべしと雖も、他の一因は埋葬後、幼老の別により長短の差あるも4—5年乃至6—7年後に至り一定期卽ち清明節（舊暦三月十日の前後）の前後に於て再び之を發掘して枯骨を收拾し、水にて洗滌若くは拂拭し、是を黃金鑵(Hông-kim-koàn)と稱する納骨甕に歛め、玆に初めて本墳墓に埋むるの儀禮あり、之を拾骨(Khioh-kut)と云ふ、此拾骨に當り枯骨の呈する、色合例へば紅白、白、黑等の各色合により遺族の興亡盛衰を卜占し得ると謂ふ迷信あり、其紅白色なるは大吉、白色なるは半吉、黑色なるは凶相とせらる、而して是等色澤の如何は埋葬地の土壤又は乾濕の影響あるは勿論なるも主因は棺材樹種に關係を有するものと信せらる、是用材選擇に顧慮する所以なりと云ふ。

棺柴の構造及種類竝大さ　形狀極めて珍奇にして恰かも丸太を刳り拔きたるが如き長方形の寢棺にして、6枚の厚き板子を蟻枘にて組立て蓋は印籠落しとなし密に嵌接す、其各部の板は兩側板を除く外は形狀を異にし、棺蓋の如きは最も厚き丸太の胴割を其まゝ鉋削して用ひ、其一端、頭部と稱する部分は特に高く、他端は低く削り落し、側見すれば長き馬鞍形を呈す、之を天(Thian)と云ひ、北部に於ては頭部の木口を斜に長く切り、出すも、南部に於ては短かし、此天の用材は丸太の材形を利用し樹幹の根張り部分を頭部に使用するを得策とす、兩側板は之を日(Jit)、月(Goat)と呼び天と同樣に丸太の胴割を其まゝ使用す、其斷面は左

右、相似にして半月形を呈す、頭部の弦高は末端に比し高く、幅も亦た大にして、其內側は兩妻板より內法5寸の所より匙形に長く、人身大位に刳り、其深さは2寸5分を法とす、底板は之を地(Tē)と稱し、南北其形狀を稍〻異にす、北部に於ては普通の平板子、2—3寸內外のものを使用するも、南部に於ては著しく厚し、其寸度は日、月の弦高と殆ど同大にして、胴割又は板子を使用し、胴割は背部の丸味を一部平削するに過ぎず、尙ほ頭部の木口を斜に長く切り出すの慣習あり、該部分は南北の樣式を問はず、擔送の時に結繩を掛くる所にして、日、月よりも稍〻長く突出せしむ、兩妻板は外面を四方鎬に削り下ろす、頭部の方の高く大なるを頭(Thaû)と云ひ、低くして小なる方を尾(Bé)と云ふ、共に日、月、地に蟻枘にて嵌入す、天は死者の納棺後、皷蟻にて日、月とに嵌接す。

棺材の種類　棺には(イ)大壽棺(Toā-siū-koan)、(ロ)壽棺(Siū-koan)、(ハ)棺(Koan)、(ニ)板仔(Pán-á)、(ホ)合仔(Hap-á)等の別あり。

(イ)大壽棺、(ロ)壽棺は何れも生存中に製作し置くものにして、內地人の壽像若くは壽墓に比すべく、概ね中流以上の有產階級により豫備せらる、壽棺とは普通品より中等品までのものを云ひ、其價格は40—50圓より80—90圓內外のもの多し、大壽棺は上等品より極上品を指す、價格は一定せざるも100圓以上を普通とす、是等は何れも用材、樹種を選擇するは勿論、朱黑漆にて塗飾し、無節の大材を使用す、頭及尾板には彫刻を施し金泥を塗り込む、(ハ)棺とは死後に製作若くは出來合品を購入するものを謂ひ、其需要者の資力により用材樹種、品質等を異にするも普通20圓以上35—36圓內外のものを云ふ。

(ニ)板仔は一に嘈仔(Chô-á)とも云ふ、概ね出來合物なり、粗雜なる用材を以て製作せられたるものにして日傭、其他の下等勞働者に需用せられ價格も15—16圓內外のもの多し。

(ホ)合仔は一に合桐(Hap-tâng)とも云ふ、粗製の下等品にして直徑5

寸内外の胴割材若くは背板を6枚若くは8枚刳き合はせて製作す、合仔の呼稱ある所以なり、其6枚よりなるを六合仔(Lak-hap-á)、8枚よりなるを八合仔(Poeh-hap-á)と呼稱す。

棺の大さ　種類により大小一定せず、普通、幅と稱するは棺廓内部の両側板卽ち日、月の匙堀りを施せる部分の横丈けにして妻板、卽ち頭板外面の中央部の横幅よりは5割の延びあるを規定とす、例へば頭板、外面の中央横幅1尺なれば實際の内幅は1尺5寸なるが如く、左右、日月の内側は何れも深さ2寸乃至2寸5分宛を匙堀りに刳り去る、今定法と稱せらるゝ棺の大さは内法、幅2尺、長さ7尺2寸を最大とし、内法1尺2寸、長さ6尺6寸を最小とす、其間の寸法を表示すれば

内幅	1尺2—3寸	1尺4—5寸	1尺6寸	1尺7—8寸	1尺9寸	2尺
長さ	6尺6寸	6尺7寸	6尺8寸	7尺	7尺1寸	7尺2寸

の如くにして其内、最も需要の多きは、内法1尺2寸より1尺4寸までのものにして、1尺8—9寸乃至2尺のものに至りては極めて稀れなり。

用材

(一) 輸入材(南支より)

樹種

地方名		和名
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
温州杉	Un-chiu-sam	ヲンシユウスギ(新稱)

(二) 移入材(内地より)

白松柏	Pèh-chhêng-peh	エゾマツ
〃 〃 〃	〃	トドマツ

(三) 臺灣産材

油杉	Iû-sam	アブラスギ

香杉	Hiuⁿ-sam	ランダイスギ
大點雨杉	Toa-tiám-ú-sam	ダイテンウスギ(新稱)
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aṅg-koè	ベニヒ
亞杉	A-sam	タイワンスギ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
山黄麻	Soaⁿ-iûⁿ-moâⁿ	ウラジロエノキ
白松柏	Pèh-chhêng-peh	ニヒタカトウヒ
黄目子	Ñg-bak-chí	ムクロジ
荷樹	Ô-chhiū	ヒメツバキ
苦苓	Khó·-lêng	センダン
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ

特質及利用地方

(一) 輸入材

福州杉(コウエフザン)一名杉仔(Sam-á)とも云ふ、南支那の原産にして民族的慣用材なり、年々對岸地方よりする輸入は莫大なる額に達す、材種は丸太又は胴割材にして、從來直徑は1尺乃至1尺5—6寸に及びしと雖も、原産地に於ける木材の缺乏に伴ひ、材徑は漸次に減少し現今輸入せられつゝあるものは7—8寸乃至1尺のもの多く、尺餘のものは極めて稀れなり、多くは木口刳ぎをなし、以て所要の材徑に充てつゝあり、長さは8尺乃至10尺にして、後者は是を7尺に切り、殘部の3尺を以て棺の頭、尾板に使用す、又長さ13尺のものあり、是又7尺に切り、其殘部を以て小兒の棺を作るに用ふ、本材の心材には特種の化學成分を含有し、耐白蟻は勿論、耐濕性に富み、地中に埋置するも能く數十年を保持するのみならず、枯骨の色澤は大吉相の紅白色を呈するにより棺材の覇王と稱せらる、保存期大なるが故に、拾骨後の古棺材は再度利用の價値あ

りて、農家の灌水用又は肥料桶板(桙)として賣買せられ、又小溝渠の踏板、灌漑水路の水筧(第四 水工用材の五 參照)、水蠻蝸(揚水器=第二三 農具用材の四の(三) 參照)の附屬水筧、養豚小屋、洗衣板等に利用せらる。

温州杉(ヲンシユウスギ=新稱)は一に廣東杉(Kúng-tang-sam)と云ふ、南支產にして、温州又は廣東地方より輸入せらる、材質、色澤、內地產スギに酷似す、枝葉、樹形、エンコウスギに髣髴たるものありと云へば、本樹の植物名は早田文藏博士の所謂 Cryptomeria Kawai *Hay.* なるべし。

最近到著せる米國アーノルド樹木園の紀要中「雲南に於ける一位及松柏類」と題せるウイルソン氏の記事の一節によれば、スギ 雲南にてはヘンリー氏が蒙自の寺院、一九五〇米突の地にて採集せり、日本に產し屢、支那の暖地に於ては特に社寺の境內に多く植栽せらる、支那に於ては純野生種より採集せしと云ふも信賴し得る標本なく、且又支那に於て野生のスギを見たりと云ふ信すべき記錄もなし、余は Plantae Wilsonianae に於て、スギが日本及び東部支那より成都平原の北西にある人口稀薄なる遠隔地に移植されたりとは信じ難き處なりとの意見を述べたり、1914年余は日本內地の旅行に際し、スギに就て精細なる研究を遂げ更に 1917 年及 1918 年に亙る再度の東亞旅行に當りても尙ほスギの研究を繼續せしが、その結果余の現在の意見としてはスギは純然たる日本產の樹種にして、その支那に生育せるものは最初佛教徒が支那に携へたるものなるべしと思考す。

1917 年、余の日本に滯在中、早田博士は同氏の所謂 Cryptomeria Kawai *Hay.* の模範標本を余に示されたるが、余の見る所にては同種は東京其他日本到る處に見る法正なる杉林より採集し得るものと相違なきが如く思はれたり、日本に於て栽培せらるゝ杉には種々の變種あり、何れも習性、葉の形狀等に顯著なる相違を有し、從つて樹姿にも相違を現はす、スギは造林の目的を以て臺灣の山地にも廣く植栽せられ又印度、亞弗利加、濠洲等の諸地方にも試驗的に植栽せらる、是等の內にて余の見たる範圍にて良好なる結果を示せるはヒマラヤ山脈の多雨林ダーヂリン附近のものなり」云々。

然れども編者が材質の實驗上よりすれば、南支產のスギは鄕土的のものなるが如く、例へば改隸以來臺灣に移植せられたるのは臺中州下、竹山郡の東大農學部演習林の溪頭產の如きは勿論其他臺南州嘉義郡下阿里山沿道、哆羅焉5,000尺に生育したる17年生より得たる材によれば皆悉く、秋材部の肥厚せる細胞列は多列にして又各年輪間に凝年輪

の多數に存在するに反し、南支產の所謂、温州杉の材は秋材部の肥厚せる細胞列は單列にして材質は「ササクシク」一見秋田杉に髣髴たるものあり、此類似點は木材奸商の乘ずる所にして時々官廳納品又は其他の需要者に該材を以て秋田杉として瞞著することあるに徵すれば如何に本材が內地杉に酷似せるかを立證するものにして、此材の解剖學的性質は最も簡單に鄕土產なるを明示するものゝ如し、若しウイルソン氏の說の如く日本佛敎徒の手によりて移植せられたるものなれば臺灣產のもの又は南九州產の夫れの如く氣候の影響を受け、年輪に其特徵を認め、材の重量自ら過大を示すべきものあるを法則とするを妥當なりとすべきも、事實は之に反す、加之支那の古文獻又た「杉(Cryptomeria)」と「沙木(Cunninghamia)」とを區別するを見れば南支產のスギは日本よりの移植品にあらずして鄕土的のものなるを明に裏書するものと云ひ得べし、本問題の詳細に就而は他日更に稿を更めて記載を試むる機會あるべし。

本材は概して年輪粗大にして生長速かなるものゝ如く、棺材としての特質は福州杉に及ばずと雖も、尺餘の大材多く、價格又た福州杉より5分若くは1割方、割安なるを以て、福州杉の代用材として海港近き街庄地にて相當の需要あり。

(二) 移入材

エゾマツ、トドマツ共に最近の移入に係かる北海道若くは樺太產材にして、本島人は一般に其材色よりして白松柏(Péh-chhêng-peh)と稱す、卽ちシロマツの義なり、材質輕く、殊に耐白蟻性は極めて小にして保存期短く棺材としての適材にあらざるも、價格低廉なるが爲め、北部の臺北又は南部の高雄、臺南等にて下等品に僅かに使用せらる。

(三) 臺灣產材

油杉(アブラスギ)は針葉樹に屬する硬輪材の一にして樹脂多し、油杉

の名ある所似なり、「土中に於ける保存期は百餘年に及び、枯骨の呈する色澤は最も良好なり」として古くより極上材として傳唱し、今尙ほ賞讃して措かざるものあるも、價貴く富豪の柩棺に用ひらるゝに止まると稱せらる、著者は本島の棺材、樹種に就て調査する年あり、未だ嘗て油杉製のものを見ざるに疑問を懷き、數年來、是が保存期の比較試驗（供試材の大さは6糎立方體）を試みたる結果は全然傳說を裏切り、埋設後、10箇月目に發堀したるに福州杉の些の被害なきに反し、供試材の約3分1は白蟻に侵蝕せられ、春材部は悉く白色を呈し、且菌類に侵されたるに徵すれば、本島人の所謂油杉なるものは植物學者の唱ふるアブラスギにあらざるは明かにして、天然林より得たる福州杉の老大にして、心材部に樹脂多きものを指稱せるものゝ如し、由來、本島人は樹脂に富める針葉樹材は樹種の如何を論せず、一括して油杉と呼稱するを觀れば本疑問は自ら氷解すべし。

香杉（營林所材名＝和名ランダイスギ）の材色は黑味を帶ぶるにより、竹山地方の本島人は烏杉（O'-sam）と云ふ、前記福州杉と同屬にして竹山地方にては僅かに巒太山より清水溪に流出せし流木を收拾して珍重せりと云ふ、相傳ふ改隸前、時の總鎭、吳光亮、本材を得て大壽棺2箇を製作せしめ歸國に際し是を携帶せるにより烏杉の名稱、世上に著聞せりと、又た宜蘭の一地方にては烏杉の良材あれば「貴下の大壽棺は本材にて製作されては如何に」と云ふも敢て禮を失はずと、謂ふによりても其良材たるを窺知するに難らず、蓋し同地方は濁水溪の支流クータン溪の流域よりする流木によりて早くより知られしものなるべし。

大點雨杉（ダイテンウスギ）とは臺南州、嘉義郡下、小梅庄、生毛樹地方の方言なるが、前記ランダイスギに起源を有する栽培種にして、福州杉に比し生長迅速なるも自家用的、小規模の造林地より生產するものにして其需要は僅かに嘉義地方の一局部に限られ、其生產額は、彼の輸入福

州杉の年額に比すれば固より論ずるに足らず、然りと雖も、本種の特質は旣に林業界に認められつゝあるが故に本島の造林主木として重要視さるゝの期は蓋し遠きに非ざるべし、大點雨杉の樹性及び材質に就ては中央研究所林業部報告第三號に詳說す（嘉義小梅庄產大點雨杉と福州杉との强弱比較試驗＝永山規矩雄）。

扁柏（漢名及營林所材名＝和名ヒノキ）は本島人は一般に松梧（Siông-gô'）と呼稱するも臺中州、竹山郡鹿谷地方にてはベニヒの樹皮に比して厚きにより之を厚殼（Kaû-khak）と云ひ、宜蘭地方にては松蘿（Siông-lô）と云ふ、本材は水濕に堪へ保存期永きに拘はらず、從來之を使用するものなし、元來本材は古より檣櫛として知られ、淡水廳誌、臺灣府誌等の木類の註解によれば「質堅而膩大者數圍、性重入土不朽、僞鄭取爲棺、屍悉化、故名消郎」とあり、是松梧の名稱の起源にして、又之が使用を慊忌せし因なりと云ふ、近來南支那の原產地に於ける福州杉の大材缺乏し、其材價の昂騰と材質に關する智識の普及とは漸次に扁柏の需要を增加しつゝ最近殆ど福州杉を驅馳せんとするの情勢に到達せり。

紅檜（營林所、材名＝和名ベニヒ）は扁柏と共に松梧又は其まゝ紅檜と稱せらる、竹山郡下の鹿谷地方にては扁柏の樹皮の厚きに比し薄きを以て之を薄皮（Pôh-phê）と云ふ、保存期は概して扁柏よりも大にして又た割目を生ずることも尠し、古くより棺材として福州杉に代用せられ鹿谷の山奥なる東大農學部の演習林內よりは一時盛んに生產し、林內驛より各地に販出せるも資源の減小と共に今は衰へ、最近は殖產局營林所阿里山作業地域との境界近くより盛んに搬出す、其販路は北は田中、二水、南投、埔里、南は斗六、西螺等とす、近來、營林所材の潤澤なる供給は材徑の大、材價の低廉と相俟ちて其需要を高め、下等品は固より大壽棺、壽棺の如き大型物に歡迎せられ、今は殆んど福州杉に代はらんとするの盛況を見るに到れり、此等用材の變遷は慣用材の缺乏に對する代用材の

特質乃至は經濟的關係が馴致せる自然の勢と見るべきものなり。

亞杉（營林所材名＝和名タイワンスギ）は竹山地方にては松羅(Siông-lô)と云ふ、材は紫黄色を呈す、土中に於ける保存期は比較的に永く、耐白蟻性も亦頗る大にして竹山地方にては古くより優等材として、曾ては高價を保持したることあるも、營林所材の上市するに及び價格低下したるにより、今は中南部の海岸地方にて需要多し。

楠仔(オホバタブ)は棺材としての要件を具有するものにあらざるも、大材多く、材價又た低廉なるが故に、從來福州杉又は營林所材の出廻り薄き山脚地方の街庄にて全島的に使用せられ、特に東部臺灣なる臺東、花蓮港の兩廳下にては、比較的多量に使用せらる、本材製の棺柴には黄色塗料を加ふるを常とす。

山黄麻(ウラジロエノキ)は材質輕軟、腐朽し易き缺點あるも、能く死體の分解液を吸收し、骸骨を乾燥せしむるの特質ありて、他材製の5—6年を經過せざれば拾骨、不可能なるに反し、本材製のものは3—4年にて足れりと稱す、宜蘭及埔里地方にて中等以下のものに使用す、其價格は楠仔より2割下りを標準となす。

白松柏(ニヒタカトウヒ)とは臺中、新竹州及花蓮港廳下の方言にして竹山地方にては松羅杜(Siông-lô-tô)と云ふ、耐朽期は比較的に永きも、耐白蟻性は小なり、然れども枯骨の呈する色澤良好なりと云ふ、臺中州下、東勢にては大甲溪、新竹州下三叉地方にては大安溪に流出せる流散材を利用す、本材の植物名に就いては久しく判明せざりしが大正13年4月著者が本材の材片を得て熟視すれば正しく中央山脈に生育するニヒタカトウヒなることを確め得たり。

黄目子(ムクロジ)は新竹州下の桃園地方、高雄州下等にて使用するものあるも其數多からず、本材は黄色にして美觀を呈するが故に需要者によりては之を嗜好する向ありと云ふ、是楠仔製のものには黄色塗料

を施す慣習あるにより然るものなるが如し、本材は比較的に大材多きも保存期は短し、又た環孔材なるが故に死體分解液を吸收又は滲出し易き故に骸骨の乾燥期は比較的に早しとも稱せらる。

荷樹(ヒメツバキ)は新竹州下の南庄地方の方言なるも、臺中州下の東勢地方には單に荷(Ò)と稱し、同州下の埔里地方にては檬仔(Koâ-á)、恒春地方にては杆仔皮(Kan-á-phê)と呼ぶ、保存期大ならざるも大材多く且つ骸骨を良く乾燥せしむるの特質ありと稱し、山脚地方にて利用せらるも其數多からず。

苦苓(センダン)は大材多く、西部臺灣にては一般に厭忌するの慣習あるも、東部に於ては否らず、花蓮港廳下の公埔地方にては棺材に使用す、之本材は耐白蟻性を有するにより、土中に埋置後、白蟻の侵害なく爲に、棺中に濕氣侵入して枯骨の色澤を損せざるが故なりと稱せらる。

棺製作に消費せらるゝ年額材積

前述の如く大小、種類あり從て之に要する材積も亦た一定せず、然れども內法尺2より尺4のものを造くるには長さ8尺、直徑1尺乃至1尺2寸の丸太2本を要し、其內1本は胴割として日、月に、1本は天、地、及頭、尾板に充つ、其丸太材積は約1.44石乃至2.02石にして彼の大壽棺の如きは內法1尺6—7寸以上のものにして、之に要する丸太は直徑1尺7—8寸、長さ8尺のもの2本を要するに反し、合仔の如きは6枚又は8枚矧ぎにて徑4—5寸、長さ8尺の小丸太又は胴割を矧ぎ合せ、甚しきに到りては刎材の背板を矧ぎ合はせて1棺をなすが如し。

近來貧困者の小兒用には酒類の空箱を以て粗糙なる箱を造り、是を以て代用するものありと云ふも固より數ふるに足らず、尙ほ貧民にして棺材購入の資力なきものは1甲(10戸を以て1甲となす)相謀り出財して之に供給するを慣例とす。

今試に人口動態累年比較に據れば大正元年より(同2年を缺ぐ)同13年に

到る12箇年間の平均死亡數は 97,775 人にして、此内 2 割は非命又は其他の事情により法式の棺材を使用し得ざるものと假定するも尙ほ76,221個の棺材を要す、今 1 棺分の所要丸太材積の平均 1.76石 (1.44 + 2.02 ÷ 2)を標準として、年所要の棺數に消費する各樹種の總材積は 134,149 石 (1.76石 × 76221) の巨額を計上す。

材料の處理

(一) 輸入材

福州杉は前述せるが如く大材に乏しきを以て、大型棺は殆ど小材の矧ぎ合はせものなり、棺材の各部中最も大材を要するは天(テヤヌ) (Thian) 板にして之に亞ぐは日(ジツ) (Jit)、月(ゲアツ) (Goat) とす、材の矧ぎ方に二法あり。

(一) は小型棺に採る方法にして、先づ天板を矧ぎ合はすには、3 本の胴割を俵積(タワラヅミ)にして竹針又は洋針にて矧ぎ合はせ、木口の間隙部には年輪を巧に按配して埋木(ウメキ)をなし、其他の凹所又は鳶口の痕跡には之又た夫々埋木或は鋸屑を糊にて練りたるものを詰め、瑕瑾少き 1 本の胴割材の如き觀を備へしむ、日 (Jit)、月 (Goat) の矧ぎ方も大同小異にして稍〻小なるのみなるも内側を稍〻深く刳るを以て、胴割材の兩側にのみ矧ぎ附けて徑大材の如く見せしむ、矧ぎ了れば馬椅に載せて斧頭にて削り内側は彎斧にて掘り、鉋削をなし所定の形狀と寸法とに應じて組み立て、支那漆にて黑色又はベニガラ色の仕上塗を施し外觀を刷へしむ。

(二) は大型物に採る方法にして天(テヤヌ) (Thian) 板を矧ぐには背面に丸味を有する角材の中軸の兩端の兩側に夫々木口の年輪を按排して厚さ 3 寸計りの附け矧ぎをなして所要の大さを構成し、腹部及背部竝中軸の兩側にも夫々埋木、貼木を施し、一見一個の胴割の如き觀を呈せしむ、日 (Jit)、月 (Goat) は天(テヤヌ) (Thian) の如く大材を要せざると内側を刳るを以て胴割の竝べ矧ぎとし、木口及び凹所には前者と同樣に埋木をなし荒削り鉋削を加へ仕上塗を施す。

溫州杉は大材多きを以て胴割材を其のまゝ使用し、前法同樣に荒削り、仕上鉋削を施す。

(二) 臺灣產材

資材は胴割、又は丸太として山元より搬出するものあるも元來材形、重量共に大なるを以て、胴割又は丸太のまゝにて搬出するに於ては運搬諸掛に費用を要すること多きが故に、7 分留位の半製仕組材として搬出するを經濟的なりとし、此木取となすを常とす、既に前述せるが如く棺材の各部例へば天(テヤヌ) (Thian)、日(ジツ) (Jit)、月(ゲアツ) (Goat) の如きは材の内側は匙形に刳り取るを以て、紅檜(ベニヒ)の蓮根又は空洞材の如き、他の用材としては利用價大ならざるも棺材としては最も適好す、低廉なる營林所刳材の賣れ行き旺盛なる所以なり。

(二) 板椅(パヌイ) Pán-í

用途及構造

板椅は斂棺より發葬まで棺柴を載置する臺脚にして、其構造は椅條(イリヤウ)(第六 指物用材五 食飯間用具の(ロ) 參照)に酷似するも、唯だ板椅面(パヌイビヌ) (Pán-í-bīn) の長さの短きを異なりとなす、板椅面は長さ 3 尺、幅 5—6 寸、全高 1 尺 7—8 寸を普通とす。

用 材

樹種及特質

本具は一時的のものなるを以て、材質の選擇は嚴重ならず、多くは楠仔(ラムア) (Lâm-á = 和名オホバタブ)杉仔(サムア) (Sam-á = 和名コウエフザン)を全部に使用するは各地方とも同一にして異なることなし。

(三) 大龍(トアリエン) Toā-lêng

用途及構造

棺柴の擔棒にして、長さ 12尺、徑 3 寸 5 分、正圓に削り紅漆を施し黃褐色の漆にて龍を畫く、大龍の名ある所以なり、棒の兩端に近く徑 7—8 分

の聯結回轉軸を挿入する孔ありて附屬擔棒を次々に聯結するに便ならしむ、第一の附屬棒は2本にして長さは5尺、4寸3寸角、中央部に同大の聯結孔を有す、第二の附屬擔棒は計4本にして第二の附屬棒の兩端に前者と同樣に聯結す、棒の大さは第一のものと略ゝ同大にして中央部に聯結孔を有す、之を使用するには大龍の兩端下部に第一附屬棒を十字形に置きて心(Sim)と稱する聯結軸を挿入し、更に其兩端の下部に第二の附屬棒を前と同樣に十字形に置きて聯結孔を合はせて心軸を挿入し、八人一組(四人宛交代となす)にて棺柴を擔ぐものとす、本具は葬儀屋道具の一にして賃借をなす。

用　材

福州杉 (Hok-chiu-sam = 和名コウエフザン)は輕軟にして且つ負擔强大なるにより本材のみを使用し、特に大龍には心材部のみを使用す。

(四) 五牲盤　Gó'-seng-poâⁿ

用途及構造

五牲盤は木皿の一種にして、腰高の絲敷を有す、祭典又は葬儀に際し供物を盛る器具なり、挽物にして、上等品は之に漆塗を施す、3枚1組を三牲盤(牲とは家畜を殺して神に供ゆる意義なり、其三種＝雞、家鴨、豚＝を供ゆるを三牲と云ひ、五種なるを五牲と云ふ)と稱し、5枚1組を五牲盤と稱す、後者を普通とす、5枚組の内、4枚は略ぼ同形にして他の1枚は稍大形なり、同形物の上端口徑は8寸、脚臺1寸5分、後者は口徑1尺2寸、脚臺2寸2分、絲敷直徑1寸5分を定寸となす。

用　材

樹　種

地方名		和名
樟	Chiuⁿ	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ

江某	Kang-bó'	フカノキ

特　質

樟(クスノキ)は淨香ありて挽き易く、保存期永きにより製腦規定の發布以前にありては殆んど本材のみを使用したりしと云ふも今は楠仔(オホバタブ)を代用材として、本材のみを使用するに至れり。

江某(フカノキ)は楠仔の代用材として利用することあるも、材色白く汚染し易きを以て賞用せられず。

材料の處理

五牲盤は板目の山元挽きにして、適材の伐採後、丸太は生のまゝ直に1尺乃至1尺4—5寸位に輪切り、斧頭にて胴割をなし、柴刀にて荒木取をなす、1玉2個取りを標準となす、荒取りの方形は直に鑿工を施す。

(五) 四角桶盤　Sì-kak-tháng-poâⁿ

用途及構造

用途は前者と全く同一なるも、長さ1尺5—6寸、幅1尺5—6分の長方形の指物盆にして、上等物には木象嵌を施し漆を塗るも、下等品はニス塗となし、墨にて山水花鳥の擬象嵌を畫くを常とす。

用　材

樹　種

地方名		和名
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
山杉	Soaⁿ-sam	ナギ
百日青	Pah-jit-chhiⁿ	マキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
松梧	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ

九重吹	Kaú-têng-chhe	ムクイヌビハ
茄苳	Ka-tang	アカギ
白仁	Pèh-jîn	クチナシ

特質及使用部分竝利用地方

肖楠(セウナンボク)は北部にては上等品に**烏心石**(ヲガタマノキ)を中等品に使用す。

山杉(ナギ)、**百日青**(マキは)中部地方にて上等品に使用す。

臺南地方にては**茄苳**(アカギ)を上等品に使用し、**白仁**(クチナシ)又は**山杉**等の材色、材質を利用して象嵌材に使用す。

楠仔(オホバタブ)は各地方にて竝物に使用せらる。

松梧(ヒノキ)**紅檜**(ベニヒ)は近來の使用に係り、各地之を利用するも特に嘉義街にては營林所の屑材を利用し、割安品を製作し、各地に廣く搬出す。

九重吹(ムクイヌビハ)は用材に乏しき南部の沿海地方向に使用す。

(六) 皷亭 Kó·-têng 及 香亭 Hiu^{n}-têng

用途及構造

葬儀に限り裝飾として使用せらる、葬儀屋用具の主なるものにして、使用者は之を賃借す、兩者共に祭典用具の鐘皷亭(第六 小木用材三の(四) 參照)に類するものにして2人擔ぎなり。

皷亭は大皷を吊す閣亭輿にして閣と亭との2部よりなる、閣部は高さ1尺5寸、幅2尺2寸、亭部は高さ2尺2寸、間口1尺7寸を定法とす。

香亭は香爐を載する亭輿にして其主なる部分は閣(Koh)、厝亭(Chhù-têng)、上厝亭(Siōng-chhù-têng)の3部3段よりなる、閣部は高さ1尺5寸、2尺8寸方にして、厝亭は高さ2尺2寸、1尺7寸方、上厝亭は高さ1尺、方1尺、2人擔ぎなり。

兩者共に雞間(Koe-keng)、閣欄(Koh-lân)等を附し、何れも美術的に油料顏料を塗布し兩側には亭槓(Têng-kòng)と稱する擔棒を附す。

用材

樹種及特質

樟(Chiu^{n}=和名クスノキ)は使用禁止令の發布せられざる以前にありては兩亭の全部に使用したるも今は**楠仔**(Lâm-á=和名オホバタブ)を代用材となす。

杉仔(Sam-á=和名コウエフザン)は材の輕きと、負擔强とを亭槓に利用す。

(七) 靈厝骨 Lêng-chhù-kut

用途及構造

靈厝とは中流以上の葬儀用具にして竹骨、紙張りの閣亭なり、冥世に於ける靈魂の居住なりとせらる、割竹にて骨骼を組立て紙を貼付して各種の裝飾を施し、技工頗る巧妙なるものあり、其價格は一定せざるも普通下等品は5圓—10圓、並物30—40圓、上等物100圓內外を相場とするも富豪に至りては能く、1,000餘圓を拋つもの尠らず、竹骨紙張の模型閣亭の價格としては驚嘆に堪へざるものあり。

用材

樹種及特質

竹骨は殆んど**桂竹仔**(Kùi-tek-á=和名タイワンマダケ)に限らる、是本材は堅靭にして抗折力强く、又細割に富み稈肉薄きを以て、細割に際し中身を削き去る必要なきが爲なり。

五 鑄模(Chù-bô·=鑄物木型)用材

總說

本島人經營の鐵工場の多くは其規模小、設備不完にして從つて簡單なる小機械其他の鑄工をなすに過ぎず、故を以て設計圖によりて縮少、模型を作らず直に木型を造り、之により砂型を作るもの多し、故を以て

各工場に於ても木型專門の職人なく隨時に專門職人に依託するを常とす。

用材

用材は材色に關せず、工作容易にして反張、割裂の少なきこと等を要件となす。

樹種

地方名		和名
松梧(シヨン ゴオ)	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜(アン クオエ)	Aňg-koè	ベニヒ
亞杉(ア サム)	A-sam	タイワンスギ
烏心石(オ シム チヨ)	O'-sim-chióh	ヲガタマノキ

特質及使用別

松梧(ヒノキ)は最も賞用せらる、紅檜(ベニヒ)は狂ひ最も少きを以て平面物に賞用せらる。

亞杉(タイワンスギ)は大物の細工なきものに使用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は內地のホヽノキ(Magnolia ovobata *Thunb*)と同科(木蘭科 Magnoliaceae)に屬し、且つ最も近似せるものなり、ホヽノキに比すれば稍〻堅靭なり、故を以て小物又は齒車の部分には必ず本材を使用す。

六 裁縫板及其他の板物類用材

種類 裁縫板(ツアイホン パン)(Chhâi-hông-pang)、裾裝仔板(ペエ ツア ア パン)(Pè-chhat-á-pang)、刀砧(トオテヤム)(To-tiam)、大麵板(トア ミイ パン)(Tōa-mi^{n}-pang)、麵刀砧(ミイ トオテヤム)(Mi^{n}-to-tiam)、洗衣板(ソエ サア パン)(Soé-sa^{n}-pang)、附 洗衣槓槌(ソエ サア コン ツイ)(Soé-sa^{n}-kòng-thûi)、粟倉板(チエグ ツヌ パン)(Chhek-chhng-pang)。

イ 裁縫板及其他

(一) 裁縫板(ツアイホン パン) 本島服及洋服の裁方に使用す、長さ7尺、幅3尺乃至4尺、厚さ1寸5分乃至2寸を普通とす、別に板を載する馬椅(Bé-í = 高さ3尺、馬椅面は幅4寸、厚さ1寸5分、長さは板幅と同大)と稱する長腰掛(四

脚附)に類する、臺脚2箇を附屬具とす、蓋し本島人の厝屋は床板の設けなく、土間なるが故に此馬椅の必要ある所以なり。

(二) 裾裝仔板(ペエ ツア ア パン) 表具板の本島人呼稱なり、長さ12尺、幅4尺、厚さ1寸を普通とす、然れども亦長さ10尺、幅3尺5寸、厚さ1寸のものも少からず、板は3枚矧ぎを普通とす、馬椅を附屬とするは前者と同樣なり。

(三) 刀砧(トオテヤム) 俎板にして第六の一家具用材の四、灶脚用具用材に併記す。

(四) 大麵板(トア ミイ パン) 大麵(麵類)原料の壓展臺板にして、長さ9尺—10尺、幅3尺—3尺5寸、厚さ2寸、多くは2—3枚矧ぎとなす、2箇の臺脚卽ち馬椅を附屬とするは前二者に同じ、圓槌仔(イ ツイ ア)、麵槌仔(ミイ ツイ ア)(第一〇槓類用材一の(一)參照)及麵刀砧(ミイ トオテヤム)を附屬具とす。

(五) 麵刀砧(ミイ トオテヤム) 大麵の刻み臺板にして、長さ1尺2—3寸、幅7—8寸、厚さ7—8分、を普通とす。

用材

(一) 裁縫板 松梧(シヨン ゴオ)(Siông-gô' = 和名ヒノキ)を上等品とし、烏心石(オ シム チヨ)(O'-sim-chióh = 和名ヲガタマノキ)を中等品となし、楠仔(ラム ア)(Lâm-á = 和名オホバタブ)を普通品となす、東臺灣に於ては、梧桐(ゴオ トン)(Gô'-tông = 和名ココノヘノキリ)を上等品として使用す、板面には紙を貼附す、馬椅には烏心石、楠仔を使用するも楠仔最も多し。

(二) 裾裝仔板 乾濕による板の反張を忌む、故を以て福州杉(ホク チユ サム)(Hok-chiu-sam = 和名コウエフザン)を賞用し、松梧(シヨン ゴオ)(ヒノキ)、紅檜(アン クオエ)(ベニヒ)を代用材となす、數枚矧を可とす、馬椅用材は前者と同樣なり。

(三) 刀砧 第六小木(指物)用材の一、家具用材四、灶脚用具用材に併記す。

(四) 大麵板　烏心石(ヲガタマノキ)、楠仔(オホバタブ)を使用し、2—3枚刻ぎとなす、馬椅用材は裁縫板の夫れに同じ。

(五) 大麵砧　楠仔(オホバタブ)。

ロ　洗衣板　Soé-saⁿ-pang

附　洗衣槓槌　Soé-saⁿ-kòng-thûi

總　說

近來主なる市街地の多くは水道の設置を見ざるはなきも、過去の臺灣には市街は勿論村落何れも掘井の設け少なく、多くは溪流を汲みて使用せしものなり、故に臺灣婦人の行ふ衣類の洗濯(洗衣、洗彩とも云ひ又は浣衣、浣彩とも云ふ)は多く溪流埤圳の邊は固より池水の瀕、泥溝汚濘の傍、苟も水の湛ふる所、清濁の論なく或は岸に棧し、或は跪き、老少婦女相交り喋々喃々階語笑話喧燥を極むるの光景は正に臺灣情緒の一たるを失はず。

元來洗衫は臺灣婦人の管掌する所にして、中流以下の勞働者が不潔なるにも似ず、其着衣の比較的に、清潔なるは皆是婦人の賜なり、而して是に要する洗濯板を稱して洗衫板と云ふも、一般には汰板(Thoah-pang)の名稱を使用す。

種類及構造

洗衫板の大さは一定せざるも、水道又は井水にて洗衣するものは長さ1尺5—6寸内外、幅6—8寸、厚さ5—6分、板面には刻みを入れたるものと、否ざるものとあり、溪邊、埤路より流れに棧して使用するものは、棧板そのものを洗衫板に兼用するもの多し、是又其大さは一定のものにあらず、然れども普通は幅7—8寸乃至1尺内外にして、長さ3尺乃至4—5尺、厚さ2—3寸にして、多くは古き棺材(拾骨後のもの)の日、月、天等の各板(第四小木用材の四、棺柴用材の棺柴の構造及種類竝大さ參照)を利用す。

用　材

材は適度の硬度を有し、摩擦により衣類の地質損耗せざること、水濕に強きことゝ等を要件とし、松柏(Chhêng-peh = 和名タイワンアカマツ)、福州杉(Hok-chiu-sam = 和名コウエフザン)を主として使用す、溪流埤圳等に架せる棧板兼用のものに後者の古棺材を利用す、中部地方の山脚近き街庄にては、松梧(Siông-gô' = 和名ヒノキ)、山杉(Soaⁿ-sam = 和名ナギ)、百日青(Pah-jit-chhiⁿ = 和名　マキ)等を賞用す、楠仔(Lâm-á = 和名オホバタブ)は各地にて使用するも餘りに賞用せられず、是濶葉樹に屬する材は導管の存在する爲め使用するに從ひ木机荒れ、衣類の地質弱るによると云ふ。

附　洗衣槓槌　Soé-saⁿ-kòng-thûi

構造　洗衣法は手にて揉み又は打つ、故を以て附屬具に洗衣槓槌あり、洗砧にして、其構造は小角材の角を丸めたるものもあるも、多くは短き小丸棒にして外周に多少の鉋削を加へたるものなり、大さは一定せざるも長さ1尺5—6寸、徑2寸、把手部は手頃に削る。

用材樹種及特質竝利用地方　材は堅硬、緻密にして打洗に際し、材の組織の剝離せざること、衣類の地質の損傷せざること等を要件とし拔仔(Pat-á = 和名バンジロウ)、九芎(Kiú-kiong = 和名シマサルスベリ)、烏心石(O'-sim-chiòh = 和名ヲガタマノキ)を利用し、前の二者は小丸棒に、後者は角棒のものに使用せらる。

ハ　粟倉板　Chhek-chhng-pang

第二三　農具用材の一一貯藏用具用材の一に併記す。

七　木砧　Bak-chí 用材

用途　蓮草紙(Thong-chhó-chhóa = 和名ツウダツボク學名 Fatsia papyrifera *Vent* の髓心を一種の刀にて一定の厚さに保ち螺旋的に剝ぎたる髓紙にして造花材料其他模樣壓搾板等に用途廣し)の製造に使用する草剖刀(Chhaú-phaà-to)の刄附に使用す。

用材樹種及特質　梨仔(Lâi-á＝和名オホタマガサ)を使用す、本材は堅靭にして木纖維錯綜し爲めに縱斷面に於ては導管は斜斷せらるゝ場合多く、加ふるに導管内には蓚酸石灰(Calcium Oxalate)の沈澱ありて材面は粗糙なり、故を以て刄附に適好するのみならず砥石の如く刀刄を減耗せざるの特質ありとして賞用す、石苓(Chiôh-lêng＝和名ゲツキツ)を代用することあり。

八　包裝箱用材

(一)　茶箱　Tê-siuⁿ

總　說

茶箱は臺灣輸出品の大宗にして、北部主要產物の一たる臺灣茶、就中烏龍茶、包種茶等の包裝箱にして、其資材消費額は海外貿易の盛衰に伴ひ年々多少の消長は免れず、然れども最近數年間の平均輸移出額は千數百萬斤、其價格千萬圓に上るの狀況にして、之に使用する茶箱用材は年々莫大なる額に達す、其資材の大部分は對岸福州に仰ぐ、茶箱板又は仕組板の名稱のもとに輸入せらる、次に大正4年より同13年まで10箇年の茶箱用板の輸入額及大正12—13兩年中の平均輸入額を示せば

茶箱用板　107,474圓　仕組板　175,881圓

の如くにして、其資材は北部の獨占市場なりとす。

箱の種類　烏龍茶用、包種茶用の二種あり。

構造　天、地(Thian, Tē＝蓋、底に相當す)、左、右(Chó, Iū＝兩側に相當す)、前、後(Chiân, Hō͘＝兩妻に當る)、の6部6枚よりなる、左、右及前後は3枚、天地は2枚矧ぎとす、箱の内面は紙を貼り錫箔製の内容箱を嵌め落し、其中に茶を密封し、箱の外面は商標にて貼包し、桐油を塗り、更に竹篦(薄割竹片＝第四八參照)にて外周を包編す、箱の大さは茶の種類と容量とによりて異なり何れも大小2種あり、其種類寸法は次の如し。

種別	用途別	寸法 高さ	寸法 長さ	寸法 幅	板の厚さ	容量
		尺	尺	尺	分	斤
二五斗	烏龍茶用	1.38	1.66	1.28	3	30.0
一五斗	〃	1.05	1.26	1.02	2	15.0
三十合	包種茶用	1.58	1.60	1.28	3	25.0
六二五斗	〃	1.15	1.30	1.05	2	12.5

注意　斗及合は慣習により使用するものにして、之れによりて箱を區別す。

資材の荷造　荷造運搬の關係上、大箱の分は25枚、小箱は40枚を一梱となし、大箱は240梱、小箱は150梱を以て1,000箇分と計算す。

茶箱製造狀況　茶箱製造所は稱して箱仔館(Siuⁿ-á-koán)と云ふ、其所在は殆ど臺北市の大稻埕方面に限らる、大正13年末に於ける、3人以上の職工を使用する箱仔館は、太平、日新、下奎府の各町下を通じて12戸、其使用職工は、205人、總生產額は322,665圓にして、資材消費高は1,489,380才に達せり。

用　材

材は釘の保持力大なること、反張、割裂を生せざること、材臭の少なきこと、略〻標準重量を有すること、材色は白又は黃白色なること等を要件とす。

(一)　輸入材

樹種

地方名		和名
松柏	Chhêng-peh	タイワンアカマツ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン

(二)　臺灣產材

松柏	Chhêng-peh	タイワンアカマツ
江某	Kang-bó͘	フカノキ
有栱	Phâⁿ-keng	ナガバナンキンハゼ

冇 枱 Pha^{n}-thai ハンノハエゴノキ

特質及利用地方

(一) 輸入材

松柏(タイワンアカマツ)は一に**福州松柏** (Hok-chiu-chhêng-peh) 又は**馬尾松柏** (Bé-bé-chhêng-peh) とも云ふ、臺灣產のタイワンアカマツとは同屬同種なり、材は洋釘の利き所謂、釘の保持力大にして、薄板に鋸挽するも割裂又は反張を生起せざるの特徵を有する外、重さの適量は本材の尤も特色とする所なり、從來茶箱は茶の販賣者と需要方面(歐米人)との契約により、必ず一定の重量を勵行するの取引慣例あり、例へば輸出茶1箱の標準重量を41斤(內譯、實量茶30斤、箱9斤、錫箔2斤)とするも、仕向地に於ては每箱代11斤分の金額を控除するが故に茶箱製作者は是非とも此標準によりて、仕上げざるべからず、故に本材は最も賞用せられ、主として歐米輸出向に使用す。

福州杉(コウエフザン)は材質前者に比すれば輕軟にして材臭あり、釘の保持力又小なるも吸濕性小にして內容茶の變質を起さゞる特徵あり、古より當業者間に好評あるも本材は品種によりては、其評價を異にす、卽ち**直杉**(Tit-sam)と稱するものは心材部、赤味を帶び香氣少なきを以て賞用せらるゝも、**杉柳木** (Sam-liú-bok) と呼ぶは心材部白味を帶び香氣(第二章第四節の一、福州材の化學的性質參照)强烈なるを以て並物材として取扱はる、福州材は多くは南洋方面向きに使用せらる。

(二) 臺灣產材

松柏(タイワンアカマツ)は本島の北部及東臺灣の低地及山麓の第二期林に散在す、その分布は西海岸方面にては臺北、桃園地方最も多く、南下するに從ひ減少し、臺南、高雄兩州下にては全く其跡を絕つ、東海岸に於ては中部の海岸山脈に自生し、花蓮港廳下にては公埔より、臺東廳下の池上附近にては往々集團的の林相を形成することあり、比較的に大

材少く、直徑1尺1—2寸內外なるを普通とす、然れども未だ充分に利用せられず、西臺灣の北部地方に於ける在來造林樹種の一にして今尙ほ盛に造林せらる、往時に於ては今の臺北州下なる坪頭山、大屯山、深坑山方面にては一時盛んに茶箱用材を生產せしことありしも現今は殆ど大材を見ざるに至る、然れども竹仔湖、草山方面に於ては今尙ほ部分的の生產をなすものあるを見るも其數量は固より大ならず、此樹は現今香港に於て最も盛んに造林せらるゝものにして厦門、福州等の造林は其起源古くして植栽面積は廣大なる地域に及ぶと云ふ。

江某(フカノキ)、**冇栱**(ナガバナンキンハゼ)、**冇枱**(ハンノハエゴノキ)等は材質輕軟なるも、黃白又は灰白色を呈し、吸濕性小なる外、釘の利きも稍〻良好なるを以て松柏の代用材として使用す。

內地產モミ (Abies firma *Sieb. et Zucc*) は材質輕軟、釘の利き良好なるにより、一時はビール箱、煙草包裝箱等を改造し、頗る好評ありしにより嘗て大倉組は同材製の茶箱を當業者に販賣したることあるも、松柏(福州松)に比し、輕く、仕上箱の重量は福州松の9斤に對し7斤乃至7.5斤なりしため、前記の標準重量の外、經濟的關係に於ても到底松柏の競爭材にあらざりしため遂に之を中止したりと云ふ。

材料の處理

輸入材は直に箱仔館の手に入り、仕組板はそのまゝ直に茶箱に組み立てられ、茶箱用板は夫々寸法に木取られ組立てらる、總て茶箱板は鋸挽のまゝ鉋削を施さゞるを常とす、矧板となすには單に側取りのみをなし、竹釘にて繼ぎ合はせをなす、其組合はせは6枚枘となし、該部のみを浸水すること30分間計にして取り上げ、鑿にて石疊枘を作りて組み、时洋釘を打つ。

臺灣產の松柏材は大屯山附近、深坑及坪頭山地方等に於て立木を伐採し、直に適長に玉切り、簡單なる裝置にて3分板に挽き、次に箱の大小

寸法によりて鋸斷し、所要の板幅なき小徑材は之を刳ぎ合はせ、其接合面には桂竹仔(タイワンマダケ)製の竹釘を用ふ、其蓋、底、兩側板の幅は不同なれども大抵3枚組となす。

(二) 芏萊鑵頭箱 Oňg-lâi-koàn-thaû-siuⁿ

近來南部地方に勃興せる芏萊(バイナツブル)鑵詰の包裝箱なり、大さは製鑵の大さによりて一定せざるも、普通の鑵(直徑2寸8分、高さ3寸8分)の四打入り箱にありては、長さ1尺9寸、幅1尺2寸5分、高さ8寸3分、6分板を標準規格とするも實際の板の厚さは4分内外なり。

用材樹種及特質 凡て包裝用材は堅固にして破壞せざること、釘の保持力の大なること、價格の低廉なること、輕量なること、材の白色なること等を要件とす、現今使用しつゝあるは江某(Kang-bó· = 和名フカノキ)なり、本材は白色にして輕軟なるも、緻密性にして容易に割裂を生起せざるの特質あり。

元來包裝箱用材は世界を通じてトウヒ類、モミ類、トガ類に特定せられたるの觀あり、今内地産の是等樹種の比重及抗折强を江某の夫れと比較すれば次の如し。

注意 モミ、ツガ、トゞマツ、エゾマツ等の比重及强度は大正三年大藏省臨時建築部編纂、建築用本邦産木材及石材第一編第861頁木材强弱試驗成績總括表に據る。
江某の數値は著者の試驗成績による。

樹種名	江某(フカノキ)	モミ	ツガ	トゞマツ	エゾマツ	備考
比重	100.0	83.3	110.4	97.9	87.5	表中の數字は江某の數値を100として換算せるものなり。
抗折强	100.0	87.7	103.2	94.6	81.4	
抗壓强(縱壓)	100.0	175.2	214.9	168.1	180.3	

本表によれば江某の比重及抗折强はツガを除けば、比重に於ては2分乃至7分重く、抗折强にありては5分乃至9分大なるも、抗壓强は他に比し著しく小にして6割乃至11割も劣る計算となるにより、内地産の針葉樹類に比すれば、包裝材としては優良なるものにあらざるは勿論なり。

包裝用の江某板は現今下駄齒(朴齒の代用)用材及家具用材に適せざる屈曲材を利用するものにして多くは機械挽となす、中北部の各地より供給するも嘉義郡下産のもの多數を占む、本材は白色にして調材宜しきを得れば絹絲光澤を有するも、伐採後放置して日を經れば蒸れて汚灰色の腐斑を生じ易し。

第七 彫製(Tiâu-chè=彫刻)用材

一 寺宮廟堂鑿花(Si, Keng, Biō, Tňg, Chhák-hoe=彫刻)用材

種類 柱筒(Thiau-tâng)、飛鳳(Hui-hōng)、雛虎(Chhu-hó·)、櫺凭(Lî-tau)其他花鳥獸、人物等を主なるものとす。

柱筒は柱に上り、下りの蛟龍を彫刻せるものを云ふ、飛鳳、雛虎は破風、芦戸等の透彫又は蒸股、懸魚等に類したるものにして、櫺凭は欄間又は神佛前の唐戸羽目板の彫刻なり。

用材

樹種

地方名		和名
樟	Chiuⁿ	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
烏心石	O·-sim-chióh	ヲガタマノキ
石柳	Chióh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ

石苓(チヨリヤン) Chioh-lêng ゲツキツ

特質及利用地方

樟(クスノキ)には各變種あり、其中赤味を帶びたるを本樟と稱し、材質良好にして最も賞用せらる、元來樟は質緻密のものにあなざるも、堅軟中庸殊に材中に腦又は油分を多量に含有し、爲めに加工を容易ならしめ、縱横に刄物の切れ味良好にして、其刀痕は一種の雅致を呈す、飛鳳、雛虎の如き薄手の細密なるものより、清淨なる香氣と保存期の永きとを利用し、唐戸の檎凭及其附屬品等を作る、楠仔(オホバタブ)は製腦規定によりて樟材の使用嚴禁せられし以來其代用材に使用せらるゝと稱するも、各地の廟寺等の修繕、新築を通觀するに殆ど彫刻物に本材を使用するを見ず、何れも本樟のみ使用す、是等の資材は制度發令以前よりの持越材又は製腦の價値なしとせられたる流散材を拂下げたるもの、或は對岸より密かに輸入せるものなるが如し、元來楠仔は堅軟中庸と稱し、其硬度は著者の實驗によれば、本樟の90%に相當し、約1割內外小なるも、油分を缺くを以て刄物の操作は樟の如くに輕快ならず、加之狂ひ易きの缺點あるを以て細密の透彫(スカシボリ)には適せざるも粗荒なる地彫(ヂボリ)には適するが故に柱、筒其他に使用せらる。

肖楠(セウナンボク)は材質緻密にして淨香を有し且つ狂ひ少なき特質あるも、缺損を生じ易きにより柱、板等の大形平彫(ヒラボリ)に利用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は質較、堅緻、其木纖維は相錯綜して割裂し難きが故に、加工に際しても缺損するの虞れなく、透彫にも適す、强度も亦大なるを以て堅固を必要とする柱、筒に利用せられ、特に宜蘭地方に賞用せらる、其他は肖楠と同樣に使用す。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は黃白色を呈す、其材質は精緻にして堅靭なるを利用し、花鳥人物其他の細密なる彫刻に使用す。

狗骨仔(シロミヽズ)は材質、石柳に類するも白味强く、硬度は勿論其密

度も亦小なり、代用材として利用せらる。

石苓(ゲツキツ)は材色、石柳に酷似し代用材として使用することあるも、芸香科(Rutaceae)林木に特有なる同心圓狀に排列せる柔細胞の存在すると、割レ目を生じ易きの缺點あり。

二 小木鑿花(シヨバクツアクホエ)(Sió-bak-chhák-hoe)用材

種類 眠床、貼案卓、四、六、八、仙卓、廣床、簽椅、机卓仔、高低櫥、卓櫃、面桶架、梳粧卓、書櫥、書机卓(第六小木用材の一家具用材一、二、三參照)等其他の各指物の裝飾部に施したる彫刻にして何れも部分的のものなり。

用 材

樹 種

地方名		和名
肖楠(シヤウラム)	Siau-lâm	セウナンボク
山杉(ソアサム)	Soa^{n}-sam	ナギ
百日青(パアジツチイ)	Pah-jit-chhi^{n}	マキ
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chióh	ヲガタマノキ
薯荳(ツウタウ)	Chû-taū	コバンモチ
楠仔(ラムア)	Lâm-á	オホバタブ
茄苳(カアタン)	Ka-tang	アカギ
石柳(チヨリウ)	Chióh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
狗骨仔(カウクツアア)	Kaú-kut-á	シロミヽズ
白仁(ペエジヌ)	Péh-jîn	クチナシ
松梧(シヨンゴオ)	Siông-gô'	ヒノキ
紅檜(アンクエ)	Aŋ̂g-koè	ベニヒ
亞杉(アサム)	A-sam	タイワンスギ

特質及利用地方

肖楠(セウナンボク)は材質緻密にして加工容易なるも稍〻脆弱性を帶び爲めに細密なるものには缺損の惧れありて十全ならざるも、材は黄色を帶び、一種の光澤を有し、塗料を施せば一層鮮明なるを以て、前記各種の指物の主なる彫刻に使用す、然れども同樹の分布(中部以北)の關係上、中部南地方にては高價にして且つ供給不充分なるが故に、上等品の外は多く之を使用せず。

山杉(ナギ)は肖楠に類するも材色白味强く光澤に乏しく又物の切れ味も亦澁ると云ふ、中南部地方にて代用材として使用す、中部地方にては百日青(マキ)も同樣に使用す。

烏心石(ヲガタマノキ)は缺損の患ひ少きも質稍〻堅硬にして細微の透彫には適好せざるも大型彫には適す、又材の抗力大なるを以て各楮又は脚部の彫刻部分に最も多く全島的に使用せらる。

薯豆(コバンモチ)は材色其他の外觀烏心石に髣髴し黄味勝のものゝ如きは一見容易に之を鑑別し難し、故を以て代用材として中北部地方にて利用せられ、特に眠床の脚部彫刻に使用せらる。

楠仔(オホバタブ)は材價比較的低廉且つ加工も頗る容易なるを以て普通品以下の彫刻部に利用せらる。

茄苳(アカギ)は堅靭にして質稍〻粗なるも、赭黑色の材色は古色を帶び澁味あるにより上等品に使用す、北部に於ては多く使用せざるも、南部地方に於ては一般に之を賞用し木象嵌の素地となす。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類、狗骨仔(シロミゝズ)、白仁(クチナシ)の各樹種は何れも材質精緻にして色澤美麗なり、細密なる彫刻に使用す、殊に石柳類は鮮かなる黄色を呈し主要材として一般に好評あるも近來材價騰貴したるにより上等物の外は之を使用せず、北部に於ては狗骨仔を南部に於ては白仁(中北部にては黄枝と稱す)を代用す、狗骨仔は材色帶黄白色にして其濃色を呈するものは一見石柳と判別し難

きものあり、白仁は帶黄灰白色を呈し、其外觀は狗骨仔より劣る、今次に著者の實驗せる材の構造の精粗を判定するに其標準たる硬度を比較すれば

樹種名	比重	硬度(瓩)	石柳の硬度を100とせる改算率	備考
石柳(タイワンアサマツゲ)	0.90	970	100.0	硬度はヤンカ博士の表示法による。
狗骨仔(シロミゝズ)	0.79	652	67.2	
白仁(クチナシ)	0.96	805	80.5	

の如くにして狗骨仔の硬度は、石柳の約6割4分に當り、白仁は石柳の約8割に當る計算となり、狗骨仔は三種中最も柔かなる結論となる、而して此關係は從來匠者の唱ふる所と一致し、狗骨仔の加工最も容易なる所以なり。

敍上の如く本島北部の肖楠の黄色を尙び、南部の茄苳の赭黑色を嗜好するは各地方的の趣味を代表すると共に一面利用樹種の分布を語るものと云ふを得可し。

三 佛像、佛具(Put-siōng、Put-kū)用材

總說

本島に於て佛像、佛具の製作地として著名なるは臺南州下の東石にして此に亞ぐは臺南市なりとす。

(一) 神佛像(Sin-put-siōng)用材

總說

由來臺灣は執拗なる偶像崇拜地にして隨所に見らるゝ寺、宮、廟等には人々の崇拜、歸依する幾多の神佛像を羅列し、戸毎と雖も必ず數體の神佛像を奉安せざるはなく、爲に新規製造は勿論、修繕に消費する用材は鮮少ならざるものあり。

種類と構造

形態は勿論大小の別あるも其最も普通なるは觀音菩薩(Koan-im-phô'-sat)一名佛觀音(Put-koan-im)、天上聖母(Thian-siōng-sèng-bú)一名媽祖婆(Má^{n}-chó'-pô)、廣澤尊王(Kóng-tek-chun-ông)一名聖侯公(Sèng-hô'-kong)、清水祖師(Chheng-chúi-chó'-su)一名祖師公(Chó'-su-kong)、保生大帝(Pó-seng-tāi-tè)一名大帝公(Tāi-tè-kong)、神農大帝(Sîn-lông-tāi-tè)一名五穀先帝(Gó'-kok-sian-tè)、山西夫子(San-se-hu-chú)一名關帝君(Koan-tè-kun)、福德正神(Hok-tek-chèng-sîn)一名土地公(Thó'-ti-kong)、文魁夫子(Bûn-khoe-hu-chú)一名魁生爺(Khoe-seng-iâ)、靈安尊王(Lêng-an-chun-ông)一名青山王公(Chhi^{n}-soa^{n}-ông-kong)、霞海城隍(Hâ-hái-sêng-hông)一名城隍爺(Sêng-hông-iâ)、等の十二天神佛なり、多くは丸彫にして木表を前面とし、素地に白粉又は厁仔土(Ang-á-thô')を塗附し漆又は金銀箔にて仕上ぐ、以上の諸神佛のうち最後の城隍爺の隨身に謝將軍(Siā-chiong-kun)及范將軍(Hoān-chiong-kun)あり、大型物にして廟の祭典用に使用せらる、前者は一名七爺(Chhit-iâ)、後者は一名八爺(Poeh-iâ)とも云ふ、内地人によりて普通、背高人形と呼ばる、頭、手、足部のみは木製にして衣服に蔽はるゝ部分は桂竹仔(タイワンマダケ)の割竹にて骨格を組立て體は空胴をなし、祭典のとき操者は神胎内に入り奉持しつゝ歩行し、手操りによりて眼瞼の開閉、舌の出し入れ、兩手の上下其他種々の動作をなすに便にす、多くは對岸の支那製にして臺灣にては破損部の修繕をなすのみなり、其他の諸體の小型物は臺灣製にして5—6寸より1尺内外の立像若くは脆座像多し。

用 材

樹 種

(一) 臺灣材

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
樟 牛	Chiu^{n}-gû	ギウシヨウ
白 仁	Pèh-jîn	クチナシ

(二) 外國材

檀 香	Toá^{n}-hiu^{n}	ビヤクダン

特質及利用地方

樟(クスノキ)は纖維、錯綜し爲めに逆目多きも横には刄物の切れ味良好なり、特に其芬々たる淨香は神聖の念を起さしむると共に蟲害に抵抗力あり、保存期大なるを以て最も賞用せらる、樟牛(ギウシヨウ)は前者に比すれば材は柔軟、從つて加工容易なり、一見、樟に酷似するも材色青味を帶び、香氣異なるにより容易に之を判別することを得、樟の變種と云ふべきものに油樟、芳樟なるものあるも、職人の歡迎するものは赤味を帶びたる本樟なりとす。

白仁(クチナシ)は中北部に於ては山黄枝と稱するは前述の如くなるが質堅緻にして彫刻に際し、容易に缺損せざるの特質あるも、大材なきを以て小型像のみに使用せらる。

檀香(ビヤクダン)は馬來、印度等の原産にして古より香木の一に數へらる、主に南支方面よりの輸入に係る、質堅重、緻密にして刄物の切れ味良好なるも脆性を帶び缺損し易きの缺點あり、今次に著者の實驗せる石柳との硬度比較の成績を表示すれば

樹種名	比重(實數)	硬度(瓩)	檀香の硬度を100とせる改算率	備考
檀香(ビヤクダン)	0.94	1,413	100.0	硬度はヤンカ博士の表示法による
石柳(タイワンアサマツゲ)	0.90	9.70	68.6	

の如くにして、石柳の硬度は檀香の約6割9分に當り、約3割1分小なる割合となる、此關係は材の構造の精粗を判定する一例證たるを失はず。

(三) 佛具(Put-kū)用材

種類 神主(Sîn-chú)、神主牒(Sîn-chú-tiáp)、佛龕(Put-kham)、公媽龕(Kong-má^{n}-kham)、

糕仔盒(Ko-á-áp)、金鼎架(Kim-tiáⁿ-kè)、燭檯(Chek-châi)、籤筒(Chhiam-tâng)、香筒(Hiuⁿ-tâng)、香爐(Hiuⁿ-lô·)、樼(Khok)、聖杯(Siūⁿ-poe)、聖籤(Sèng-chhiam)、木劍(Bok-kiàm)、仙枝(Sian-ki)等なり。

イ 神主 Sîn-chú

總 說

本島人の信仰によれば人は三つの靈魂を有し、其肉體の死すると共に、一魂は幽界に還り、一魂は墓中に止まり、而して他の一魂は屋內に止る者なりと信ぜらる、幽界に移りし靈魂を慰むるは僧侶の職分にして、墓中と屋內に止まるものを慰むるは子孫の職分なりとせらる、故を以て何れの民家と雖も皆神主を安置して之を祭らざるはなし。

構 造

神主は位牌にして、其構造は神主牌(Sîn-chú-pâi)及神主座(Sîn-chú-chō)とよりなる、神主牌は高さ1尺、幅3寸、厚さ1寸にして2板の合板よりなり、正面の上部並兩側面には壽字又は龍字、雛虎等の模樣を深刻す、神主座は高さ3寸、長さ5寸、幅3寸、左右の兩側及正面には花鳥の彫刻を貼付す。

ロ 神主牒 Sîn-chú-tiáp

一に總牌(Chóng-pâi)と稱す、多くの靈位を一所に合祀したるものにして、其構造は稍〻神主に類す、大小一定せざるも普通高さ1尺、幅7—8寸、厚さ1寸內外なり。

ハ 佛龕 Put-kham

神佛像を內部に安置するに使用す、其形狀は四角筒又は矩形筒にして、上部及背面並左右側面には尤も良材を撰擇して貼付となし、正面の一方には玻璃板を嵌入す、其構造は神佛像の大小により異なると雖も普通の構造は佛龕筒(Put-kham-tâng)の高さ1尺5寸、幅8寸、長さ1尺3寸內外、佛龕座(Put-kham-chō)は高さ3寸、長さ1尺2寸、幅1尺內外なり。

ニ 公媽龕 Kong-máⁿ-kham

佛龕に類似するも佛龕の神佛像を奉置するに反し、神主を安置するを異なりとなす、其形狀は矩形箱にして正面には觀音開の扉を設け、上方は小額にて裝飾し金泥にて孝思堂(Haù-su-tông)の3字を深刻す、其構造は神主の數によりて大小の差異あるも、普通高さ1尺5寸、長さ2尺、幅1尺2寸內外なり。

ホ 糕仔盒 Ko-á-áp

祭祀のとき神佛前に供物を捧ぐるに使用する盒なり、其形狀は稍〻長方形にして、高さ6寸、長さ1尺、幅3—4寸を普通とす、正面及兩側には花鳥人物等を彫刻して嵌入し又は貼附す。

ヘ 金鼎架 Kim-tiáⁿ-kè

金鼎架は祭典のとき、金銀紙を燒奉するに使用する金鼎(Kim-tiáⁿ=小鼎)を載する臺脚なり、其構造は4本の小柱を上下2個所にて十文字に組みたる杆と稱する橫棧を以て組合はす、高さは1尺內外にして小柱の上下兩端には猿頭の彫刻を施す。

ト 燭檯 Chek-châi

蠟燭立にして、神佛前に香爐と並び左右に各1臺づゝ對列す、大小數種ありと雖も、普通高さは1尺2—3寸、種々の模樣を彫刻す。

チ 籤筒 Chhiam-tâng

聖籤(本項の(ヲ)參照)を立つる容器にして、形狀は種々あるも、普通は圓筒形に鏡工を施したるもの又は刳り拔きたるものにして、外部には彫刻を施す、直徑5寸、高さ1尺2—3寸あり。

リ 香筒 Hiuⁿ-tâng

香筒は線香立にして、其形狀は一定せざるも、多くは圓筒形又は四角筒を普通形とし、大さは籤筒に略〻相同し。

ヌ 香爐 Hiuⁿ-lô·

神佛像の前に置かれ、祭祀又は神佛に供物をなすときの燒香用器なり、前後面及兩側面には花鳥人物等を彫刻し、臺脚には雛虎等の精巧なる彫刻を施し、全部を漆塗又は金泥となす、全高1尺、長さ2尺、幅1尺2—3寸あり、又天然木の瘤狀部を利用したるものあるも、這は一部の彫刻に止まる。

ル 樗(コク) Khok

樗は木魚にして其形狀は內地の夫れと同樣なり。

ヲ 聖杯(シヨウポエ) Siūⁿ-poe 及 聖籤(シヨウチヤム) Sìng-chhiam

總說

臺灣人の卜筮を信ずるの厚き婚姻、轉宅、企業、疾病、子供の有無、建築、旅立、紛失物、尋人、墳墓の位置、竈の方向、婚喪の日定、土地家屋の賣買、子供の命名、改名、下婢の雇傭等に至るまで一に卜筮によりて之を決す、故を以て隨所の寺、廟、宮には卜具の備へなきはなく、自由に占ふことを得可く、又路傍に居を張りて依賴に應ずる賣卜者も尠からず、卜法には種々あれども就中、聖杯、聖籤、卜卦の三種最も盛なり。

聖杯は寺宮廟は固より路傍の小宇又は戶每に到るまで之を備へざるはなし、竹根又は木材にて製作せらるゝと稱するも、多くは竹根製なり、其構造は略〻一定形のものにして1箇の資材を眞二つに縱斷し、左右相似形をなさしむ、恰かも鈍き尖端を有する曲玉狀を呈す、2箇を以て1組となす、蓋し人類の心臟に像りたるものなりと云ふ、大さは一定せざるも普通のものは長さ2寸2分—5寸（寺、宮、廟備付のものは大形なり）、幅（中央の最大幅部）は1寸5分—2寸、厚さは1寸5分—2寸內外なり、寺、宮、廟には必ず其數對を備ふ、卜占を要するものは隨意に之を行ふことを得べく、豫め祈願の筋を先づ神佛に奉告し、靜に聖杯を額近くに捧げ、之を地上に落下す、1組上向するは不吉にて、一は上向、一は下向するを大吉（神の喜悅を得たりとなす）、二者下向するを凶となす、占ふものは神の喜悅を得

んが爲に再三再四、甚しきは十數回となく、之を繰り返し、一度大吉を得れば神は喜悅し給へりとなし、携ふる紙錢（第一〇の二 金銀紙製作道具用材の總說參照）を燒化し喜々として去るを常とす。

聖籤は割竹製の御籤にして、頭部に卒都婆形の彫刻を施す、1組60本、之を前項(ヲ)の籤筒(チヤムタアン)に收む、聖杯(シヨウポエ)の如く寺、宮、廟備品の一にして、古者は隨時に之を使用することを得、先づ燭を點じ占はんと欲する事件を神前に奉告し、次に兩手にて籤筒を動搖し、其中の特に拔け出でゝ落ちたるもの又は長く拔け出でたるものを當籤とし、其籤の番號を讀み、傍に備へある籤請札(チヤムチヤツアツ) (Chhiam-chhiáⁿ-chat)につきて合番號のものに照し、以て吉凶を判斷す、籤請札には籤詩を書す。

ワ 木劍(ボクキヤム) Bok-kiàm

所謂降魔劍にして驅邪に使用す、大小あり、劍覇には精巧なる蛟龍を彫む、寺、宮、廟の備品なり、他に小兒用として小型のものあり、小兒の胸間に吊懸すれば魔除けの靈驗ありと信せらる。

カ 仙枝(シヤヌキイ) Sian-ki

寺、宮、廟又戶每の備品の一にして、往年內地に於て一世を蠱惑したる狐狗狸の三脚の如き意義のものなり、其構造は兩脚を擴げたるY字形をなす、樹枝の叉狀をなせる部分にて作り、基部の先端に別種の樹木の小片を橫に嵌入す、前記の聖杯と同じく神託により運勢を卜占し、又病魔退治の咒に使用せらる。

用材

(一) 臺灣材

樹種

地方名		和名
樟(チウ)	Chiuⁿ	クスノキ
烏心石(オシンチヨ)	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ

肖楠	Siau-lâm	セウナンボク
茄苳	Ka-tang	アカギ
石柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃 〃 〃		ヲキナハツゲ
白仁	Pèh-jîn	クチナシ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
茘竹	Chhì-tek	シチク
蘇竹	Môa^{n}-tek	マチク
長枝仔竹	Tîng-ki-á-tek	チヨウシチク
山杉	Soa^{n}-sam	ナ ギ
林投	Nâ^{n}-tâu	リントウ
筆筒樹	Pit-tâng-chhiu	ヒカゲヘゴ
桃仔	Thô-á	モ ヽ
水柳	Chúi-liú	タイワンヤナギ
九芎	Kiú-kiong	シマサルスベリ
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aûg-koè	ベニヒ
桂竹仔	Kuì-tek-á	タイワンマダケ
桑材仔	Sng-châi-á	ク ハ

(二) 輸入材

檀香	Tôa^{n}-hiu^{n}	ビヤクダン
檜	Koè	ビヤクシン
波羅密	Pho-lô-bit	パラミツ

特質及使用別竝利用地方

(一) 臺灣材

樟(クスノキ)は神聖なる淨香を有し、加工し易く、保存期大なるを以て

金鼎架、燭檯、聖杯、籤筒等を作る。

烏心石(ヲガタマノキ)、**肖楠**(セウナンボク)は材質頗る精緻にして、又物の切れ味良く、且つ塗料を施せば鮮美なる色澤を生ずるにより、神主、糕仔盒、神主牒、公媽龕等に使用す。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は質最も精緻、色澤美なるを以て神主、神主牒等の細密なる彫刻部分に使用し、**白仁**(クチナシ=北部地方にては黄枝と稱す)南部地方にては其代用材に供せらる。

楠仔(オホバタブ)は淨香なきも材質樟に酷似するを以て金鼎架、燭檯用材として、樟に代用せらる。

茘竹(シチク)、**蘇竹**(マチク)、**長枝仔竹**(チヤウシチク)等の短く彎曲せる曲玉狀の根株は其形狀と材は白色を呈し、清淨の感を惹起せしむるものあるとを利用し、聖杯は殆んど是等の竹根にて作らる。

山杉(ナギ)は材質、緻密にして木理、通直、瑕瑾少く材は黄白色を呈し、清淨の感を起さしむるものあるを以て、前者と同樣に使用せらる。

林投(リントウ)は露兜樹科(Pandanaceae)の植物にして、其の材は一見椰子科(Palmae)の夫れに髣髴し、莖幹の皮目に近き部分は黑褐色の維管束の分布密にして堅硬なり、表皮を剝ぎ研磨すれば杢理美なるを以て籤筒、香筒を作る、幹の内部の基本組織は頗る柔軟、且つ維管束の分布密度も粗にして剉り拔き易し。

筆筒樹(ヒカゲヘゴ)は幹の外部を纏包する黑褐色の維管束群を除去すれば、葉柄の着生せし部分の根跡は極めて美麗なる一種の皺狀紋理を現はし、雅致あるにより、前者と同樣に利用せらる、髓心は太く柔かにして除去し易し。

九芎(シマサルスベリ)は樹幹に奇雅なる瘤狀突起を有するものあり、樹皮を剝落して研磨すれば質、緻密なるを以て光澤を生ず、香爐其他の佛具として賞用せらる。

桃仔(モヽ)は古來支那人によりて神異的意思を寓せられ、歳時記にも「桃ハ五行ノ精ナリ邪氣ヲ壓伏シ百恠を制ス」とあり、故を以て、木劍、仙枝等は特に本材に限り使用す、材質も亦緻密なり。

水柳(タイワンヤナギ)も前者同樣の寓意を有し、神祕的なる樹木として仙枝の基部の挿入材として特用せらる。

松梧(ヒノキ)は質頗る緻密にして加工し易く、縱横及物の利き良好なるを以て、神主其他の佛具の彫刻部又は柱材部に使用せられ、**紅檜**(ベニヒ)も略〻同樣に利用せらる。

桂竹仔(タイワンマダケ)は皮目堅靭にして細割性に富み、且つ保存期永きを利用し聖籤に使用す。

桑材仔(クハ)堅靭にして割目を生ずること少く、木理は通直にして打擊音響の幽雅なるを利用し樺(木魚)に賞用す。

(二) 輸入材

檀香(ビヤクダン)とは白檀の本島人呼稱にして材は香木として古來著名なり、香氣高く邪氣を拂ふと稱せられ、極上の聖杯に賞用す、質は極めて堅緻なり。(第七の三の(一)、神佛像用材樹種特質參照)

檜は支那の原産なり、其和名はビヤクシンにして對岸地方よりの輸入に係る、質は緻密柔靭にして刄物の切れ味良好なり、保存期の永きと芳香とを利用し神主及神主牒に賞用せらる。

波羅密(パラミツ)は印度、マレー群島及同半島の原産にして學名をA-rtocarpus integrifolia *L.f*と云ふ、果樹としては最も著名なるものゝ一にして彼の Juck fruit なり、支那人の手によて輸入せらる、幽雅なる打擊音響は樺用材として使用者の最も賞翫措く能はざるものなり、殆ど製品として來る、本材は打擊音響良好なるにより爪哇に於ても土人は一種の木琴に使用すと云ふ。

四 印仔(In-á)用材

種類 **雜印**(Chap-iⁿ=小印)、**商號印**(Siong-hō-iⁿ=商業用)、**片紅印**(Phiàn-hông-iⁿ=名刺印)、**人名印**(Lâng-miâⁿ-iⁿ)、**抄印**(Chhau-iⁿ)、**存印**(Chûn-iⁿ)、**實印**(Sit-iⁿ)、**認印**(Nīn-iⁿ)等其他數十種あるも實印、認印を除く外は一定形のものにあらざるが上に現今は餘りに使用せられず、反て漸次に其存在を失はんとしつゝあるの狀況にあり。

實印及認印の構造

實印は普通、徑4分より6分、長さ肉入附1寸8分、肉入無し棒印と稱するもの2寸位なり、認印は徑丸3分より3分8厘、小判形幅2分より2分5厘、縱3分5厘より4分5厘、長さ共に2寸位にして總て木口に彫刻す、他の大印物又はゴム印背板は板目物を使用することあり。

用 材

印判用材は粘靭にして秋、春生材の硬度、略〻同一にして木口强く、刄物の切れ味、良好なることを要件とし、ツゲは其覇王と稱せらる、改隸以後、實印、認印、其他の用材の多くは數年前まで所謂印材として一定形に仕上げられたる內地產本ツゲ製を移入し年額二萬圓內外を使用し來りたるも臺北市京町以文堂主、松田德三氏が鄉土產の自產自給主義を實現して臺灣產タイワンアサマツケ及ヲキナハツゲの合理的利用を見るに到りしより今は殆んど內地製の移入品を驅逐せんとするの狀況に至り、內地人及本島人の印刻屋は皆悉く臺灣產の印材を使用せざるはなし、然れども其他の幾部は尙慣習により他の適材を其樹種の分布狀態によりて地方的に利用するものなしとせず。

樹 種

地方名		和名
內地石柳	Lāi-tē-chiôh-liú	ツゲ
石柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ

狗骨仔	Kaú-kut-á	シロミヽズ
山柑仔	Soa^{n}-kam-á	フウテウボク
柚仔	Iū-á	ジヤボン
石菺	Chiòh-lēng	ゲツキツ
白樹仔	Pèh-chhiū-á	オホバツゲ
白仁	Páh-jîn	クチナシ
拔仔	Pat-á	バンジロウ
梨仔	Lâi-á	ナシ

特質及利用地方

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類の材は淡黃白色を呈し、內地產ツゲに比すれば稍〻黃味に乏しく老大なるものには往々材の內部に淡灰黃褐色の暈を生ず、印材業者は之を餡(饅頭の餡の如く內部に着色せられたる部分存在するにより名づけたる名稱なり)と稱す、是石柳の缺點にして、內地に移出するも材商に叩かれ、所謂島物なる名稱を附せらるゝ所以をなす、質は緻密なるも精緻の度合は內地產ツゲに劣り、從つて硬度も亦小なり、次に著者が實驗せる兩者の木口の硬度を比較すれば

樹種名	比重	硬度(瓩)	內地產ツゲの硬度を100とせる改算率	備考
內地石柳(ツゲ)	0.91	1,278	100.0	硬度はヤンカ博士の表示法による
石柳(タイワンアサマツゲ)	0.89	989	77.4	

の如くにして石柳の硬度は內地石柳の夫れに比し約2割3分劣る計算となる、本結果卽ち內地石柳に比して石柳の軟かなるは、印刻屋の實際と一致するものなるが、石柳の木口の特徵は內地石柳よりも柔靭にして極細線のものは例外として、普通大のものにありては反て缺損を生ずること尠しと云ふ、實印、認印は固より抄印、雜印等に利用せらる。

南部地方に於ては大形印に石柳の代用として山柑仔(フウテウボク)

柚仔(ジヤボン)、石菺(ゲツキツ)、白樹仔(オホバツゲ)、白仁(クチナシ)等を利用し、北部にありては狗骨仔(シロミヽズ)、拔仔(バンジロウ)、梨(ナシ)等を代用す、是等の諸材は何れも材質堅緻にして、彫刻を施すも差狂又は缺損を生せず、價格も亦低廉なり。

五 木版(Bok-pán)用材

種類 書版(Chu-pán)、畫版(oē-pán)の二つに分る。

用材

樹種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ

特質

樟(クスノキ)は頗る緻密、靭性を有し、又狂ひ少く龜裂を生せず、保存期永く蟲害に罹ること少きのみならず、腦油分を含有するにより、印肉其他の着色劑を吸收せざるを以て他材は殆ど使用せず、楠仔(オホバタブ)は材の理學的性質、前者に類するにより代用材となし、保存期に關せざるものに利用す。

六 匾額 Pián-giáh 用材

種類 牌匾(Pâi-pián)、商匾(Siong-pián)、寺、宮、廟匾(Sī Keng Biō-Pián)、紹牌(Chiau-pâi)、柱聯(Thiāu-lián)等の各種あり。

イ 牌匾 Pâi-pián 及 商匾 Siong-pián

何れも支那式看板にして、各商店の軒頭に掲げらる、其形狀は普通長方形にして、長さ3尺5—6寸、幅1尺8寸とす、現今、街區改正の實施せられたる改良建築の建並ぶ街庄には餘りに見受けざるに至れり。

ロ 寺、宮、廟匾 Sī Keng Biō-pián

寺、宮、廟等に掲ぐる匾額にして、其構造は前者と大同小異なるも一般

に大形なり。

ハ 招牌 Chiau-pâi

店舗用にして掛看板の類なり。

ニ 柱聯 Thiau-liân

柱掛にして寺,宮,廟其他中流以上の廳堂,客室等の装飾品として使用せらる。

用 材

樹 種

地方名		和名
杉仔	Sam-á	コウエフザン
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aňg-koè	ベニヒ
烏心石	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
荊竹	Chhî-tek	シチク
蘇竹	Môa^{n}-tek	マチク
茅茹竹	Bâ-lì-tek	モウサウチク

特 質

杉仔(コウエフザン)は反張,割裂を生ずること少く,加工容易にして塗料の着色も亦良好なるにより寺,宮,廟用の大匾額に使用せらる。

松梧(ヒノキ)は質緻密にして彫刻し易しく,差狂を生ずること少きと幅廣の大板を得易きとにより,前者と同様に使用せらる。

紅檜(ベニヒ)は松梧より稍〻軟かなるも,反張割裂を生せざることは前者よりも優り,特に幅物板は本材の特色とするところなるを以て,是又前者と同様に使用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は靭性に富み,木纖維錯綜するも,縱横共に及物

の切れ味良く,又割裂を生せざるを利用し,紹牌,柱聯等に使用す。

楠仔(オホバタブ)は加工し易く,幅物多きを以て牌匾に使用することあるも薄板にては反張の虞れあるにより多くは厚板を用ゆ,然れども一般に賞用せられず。

荊竹(シチク)は稈肉厚く,節間,短矮にして雅致あるを利用し,商匾に使用す。

蘇竹(マチク)は皮目,堅靭,緻密にして加工し易く,且つ臺灣產竹類中の大材なるを利用し,柱聯となす。

茅茹竹(モウソウチク)は節間,短く雅致あり,臺灣產竹類中最も堅緻なるものにして,外皮を剝ぎ,皮目部を研磨すれば光澤を生ずるにより,柱聯は多く本材にて製作せらる。

七 木模(Chhâ-bô· =木型)用材

種類 粿模(Ké-bô· =菓子型),瓦模(Hiā-bô· =瓦型),磚模(Chng-bô· =煉瓦型),等の別あり。

甲 粿模(Ké-bô·)用材

總 說

粿模(菓子型)は木材に文字,花,鳥,獸其他動物の形象を凹形に彫刻したる木型に,菓子の原料を流し込み,又は摺り込みて,一定の形態と雅致とを有する菓子を製造する用具にして,當業者に取りて重要なる器具なり,其種類,形態は極めて多く,冠婚,葬祭等の場合により各〻一定す。

種類及構造

種類 粿模は大別して筐模(Kheng-bô·),印仔模(Iň-á-bô·)となす,筐模は2枚以上よりなり,印仔模は1枚よりなる,種類多しと雖も,其主なるものを擧ぐれば次の如し。

五壽印(Gó·-siū-iň), 糖龜印(Thňg-ku-iň), 鴛鴦(Oan-in^{n}), 糖花籃(Thňg-hoe-nâ^{n}), 糖鶴(Thňg-hóh)(以上筐模)。

八角糖印(Poeh-kak-thňg-iň), 萬字糖印(Bān-jī-thňg-iň), 大餅印(Toā-piá^{n}-iň),

粿印(Ké-iⁿ)、糕仔包印(Ko-á-pau-iⁿ)、和生餅印(Hô-seng-piáⁿ-iⁿ)、鹽糕印(Kiâm-ko-iⁿ)、篆糕印(Thoàn-ko-iⁿ)、圓糕印(Îⁿ-ko-iⁿ)(以上印仔模)。

尙此他にも大同小異のもの數十種あるも之を省略す。

附屬具には轢槌(Gêng-thûi)、手轢槌(Chhiú-gêng-thûi)、圓轢(Îⁿ-gêng)等あり。

(一) 筐模(Kheng-bô·)類

イ 五壽印 Gó·-siū-iⁿ

五壽印は更に(一)中塔(Tiong-thah)、(二)双龍(Siang-lêng=內部は二箇の型に分る)、(三)双鳳(Siang-hông 同上)に分る。

(一)中塔は6枚組よりなり、直徑5寸、長さ2尺4寸、外觀は圓筒形を呈すれども內腔は六角柱形をなし、各板の內側には塔(Pagoda)の模型を深刻す。

(二)双龍及(三)双鳳は3枚組よりなり、方8寸、長さ1尺8寸、外部は四角柱形をなす、上部には砂糖の調合料を流し込む2箇の矩形孔あり、其內側は一方は龍、他方は鳳の模型を彫る。

ロ 糖龜印 Thûg-ku-iⁿ 糖鴛鴦 Thûg-oan-iⁿ
糖花籃 Thûg-hoe-nâⁿ 糖鶴 Thûg-hôh

何れも3—5枚組よりなる、直徑4寸、高さ7—8寸、外部は圓壔形狀を呈し、內側には各其名稱に因みし模樣を深刻せり、而して其上部には前者と同じく2箇の流し込み口を有するも兩口の內側は共に同型なり。

(二) 印仔模(Iⁿ-á-bô·)類

イ 八角糖印 Poeh-kak-thûg-iⁿ
萬字糖印 Bān-jī-thûg-iⁿ

八角糖印は幅7寸、長さ6寸、厚さ4寸の厚板にて作り、其一面には外向きの連續孤よりなる八角形、其底部は圓形をなし、之に「百年階老」又は「二姓百婚」の四文字を刻む。

萬字糖印は形狀前者と同樣なるも、模型は矩形の正角臺形に彫り、底部には卍の字を刻む。

ロ 大餅印 Toā-piáⁿ-iⁿ

幅1尺6寸、長さ1尺8寸、厚さ2寸5分位の板にて作り、板面の中央に直徑1尺乃至1尺3寸、深さは周緣に於て8分、其他の部分に於て約2分の中高の圓臺形を彫る。

ハ 粿印 Ké-iⁿ

一に紅龜印とも云ふ、長さ5寸5分、幅4寸5分、厚さ1寸の矩形の板の一側の木口に把手を嵌入す、板の一面には龜甲形、他面には桃實形を深刻し、兩側には一方に魚形、他面に5箇の連輪を彫刻す。

ニ 糕仔包印 Ko-á-pau-iⁿ 和生餅印 Hô-seng-piáⁿ-iⁿ 鹽糕印 Kiâm-ko-iⁿ 篆糕印 Tho-àn-ko-iⁿ 圓糕印 Îⁿ-ko-iⁿ

糕仔包印は大小ありて一定せざるも、普通の長さは1尺1—2寸、幅2寸、厚さ1寸の板に矩形の正角臺形を10箇宛彫るを法とす。

和生餅印は長さ約1尺、幅2寸7—8分、厚さ1寸5分、羽子板狀をなし兩側は丸面を呈し一面には齒車形の周緣を有する直徑約2寸の圓窪を彫り、底部に「和生」の二文字を刻む。

鹽糕印は長さ約1尺2—3寸、幅2寸5分、厚さ1寸の板の一面に徑2寸の六角又は八角の正角臺形を彫る、其數は4箇又は5箇を普通とす。

篆糕印は長さ約4寸5分、幅4寸5分、厚さ1寸2—3分の2枚組よりなり、菱形の長さ約3寸の角壔を彫り貫き、別に篆字を刻せる嵌入板を附屬す。

圓糕印は形狀前者と同樣なるも、彫形の圓壔形なるを異なりとし、別に之に嵌挿する圓形板の中央に四角臺形を刻せる嵌入板を附す。

(三) 附屬具

種類 轢槌(Gêng-thûi)、手轢槌(Chhiú-gêng-thûi)、圓轢槌(Iⁿ-gêng-thûi)等の別あり。

(イ) 轢槌は砧に類す、圓壔形にして高さ1尺、徑5寸、中心を貫通し左右に等長に把柄を嵌入す。

(ロ) 手轢槌は前者と同形なるも長さ1尺5寸、徑5寸あり、一端のみに嵌入せる把柄を有す。

(ハ) 圓轢槌は球形にして徑2寸5分あり、把柄は中心を貫き左右の長さは相等し。

用 材

製作の技工上よりすれば所謂木彫の一種にして、其用材に對する要件は版木と相同じきは勿論なるも、使用上よりすれば耐熱及耐水性竝に滑澤性を必要とす。

樹 種

地方名		和名
樟	Chiuⁿ	クスノキ
石 柳	Chiôh-liú	タイワンアサマツゲ
〃 〃	〃 〃	ヲキナハツゲ
楠 仔	Lâm-á	オホバタブ
龍 眼	Gêng-géng	リユウガン
白 雞 油	Pêh-koe-iû	シマトネリコ
爛 心 木	Noāⁿ-sim-bok	ランシンボク

特質及使用別竝利用地方

樟(クスノキ)は質堅軟中庸にして加工し易く使用するも其原形を失はざるのみならず、特に熱度、水濕に堪ふるの特質を利用し、五壽印、糖龜印、糖鴛鴦、糖花籃、糖鶴印、八角糖印、萬字糖印、大餅印、粿印等を製作す。

石柳(タイワンアサマツゲ及ヲキナハツゲ)類は質最も精緻にして、細密の彫刻を施し易く、且つ滑澤を利用して和生餅印、鹽糕印、篆糕印、圓糕印其他附屬具の轢槌類に賞用せらる。

楠仔(オホバタブ)は樟の代用となすも保存期短く、只だ糖印の如き粗末なるものに使用す。

龍眼(リユウガン)は材質、堅硬、緻密にして摩擦力强く、且つ滑澤を生じ易き特徴あるを以て、中南部地方にて轢槌類に利用せらる。

白鷄油(シマトネリコ)は質、堅靭にして滑澤あり、恒春地方にて糕仔包印、鹽糕印等に使用せらる。

爛心木(ランシンボク)は質極めて堅硬にして靭性あり、本材の髓線細胞内には潤葉樹に類例稀れなる樹脂溝(Resin canal)を有するが故に膩滑あり、轢槌類として最も賞用せられ、多くは臺南以南に限らる、總て轢槌類の製作は挽物師の手により、其内、圓轢槌は八方挽を施す。

乙 瓦模(Hiā-bô·)及磚模(Chng-bô·)用材

(一) 瓦 模

支那式瓦(瀋瓦にして厚さ恰も神戸煎餅に髣髴す)の木型にて一種の印仔模(彫込型)なり、長1尺3寸5分、幅1尺1寸、厚さ1寸5分の板にして幅の一側面の中央部には長さ3寸の柄を附す、板の一面には長さ6寸9分、幅7寸5分、深さ2分5厘の矩形を彫る、卽ち瓦模なり、素地を作るには練土を仕込み、表面の板面に沿ひ麻絲にて平切る。

用 材

樹種及特質 (一)堅硬にして滑澤あること、(二)保存期の永きこと等にして、(一)は練土附著せず、素地の打出しに容易なる爲め、(二)は多濕の爲め腐朽し易きが故にして、各地共に**烏心石**(O'-sim-chiôh =和名 ヲガタマノキ)を適材として本材のみを專用す。

(二) 磚 模

磚とは煉瓦の本島人呼稱にして、磚模は手拔煉瓦の木型のことなり、内側長さ8寸5分、幅4寸1分、高さ2寸1分の板枠にして3分板にて

作らる、兩側板は實長1尺1寸、兩端約1寸宛を殘して(把手となす)所定の內側を有する樣に兩妻板には淺き蟻溝を附し、嵌入して釘留となす、枠の上下の口端には摩滅を防ぐ爲めに板と同幅の薄鐵を附し、又枠の補强として妻板の廻緣にも同大の鐵帶を施す。

用　材

要件特質及利用樹種は前者と同樣なるにより之を省略す。

八　靴鞋模(Hia-oê-bô·)用材

種　類

支那型と西洋型との二種あり。

(一)　支那靴模　Chi-nâ^{n}-hia-bô·

總　說

本島に於ける支那靴は民族的慣習上今尙一般に愛用せらるゝも、近年民度の向上に連れ、都市方面に於ける男子の服裝を改良するもの多きに從ひ、支那靴は西洋型の革製靴に壓せられ、需要漸減の傾向にありと雖も、婦女子は尙依然として上海產絹繻子製等の優美なるものを嗜好し、農村の好況と相俟つて需要の減少を見ず、近年彼地に於ける銀價の反騰に輸入難を告ぐる一面、島內に於ける本品の製造業者が內地產の割安絹布を移入して加工製靴するもの增加し、加之大正13年8月以降は贅澤稅法の阻止する所となり、同年に於ては12年に比し數量に於て6割6分、價格に於て6割2分を激減せり、卽ち同年の輸入總額は45,357足63,274圓なるに反し、同年に於ける本島の總產額は447,556足其價格は450,826圓を計上するの狀況を呈せり。

種類及構造

靴鞋型の種類は太一、太二……太九、太十及滿太等の十一種に分る、太五以上は大人用、以下は小兒用にして最も普通なるは太六、太七なり其構造は大體に於て西洋靴型に類し、其各部は頭份(Thâu-hūn)、柱份(Thiāu-hūn)後份(Aū-hūn)の三部よりなる。

用　材

適材としては、瑕瑾なきこと、目立たざること、狂ひ少きこと、磨きて滑澤を生ずること、堅重なること、粘靭なること等を要件とす。

樹　種

地方名			和名
荔	枝	Nāi^{n}-chi	レイシ
龍	眼	Gêng-gêng	リユウガン
赤	皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
栱	仔	Kêng-á	ナンキンハゼ
相 思	仔	Siu-si-á	サウシジユ
苦	苓	Khó·-lêng	センダン

特質及利用地方

荔枝(レイシ)は南支產にして、材質堅重、狂ひ少く、摩擦力强きを利用す、本材製のものは保存期甚だ永く2,000足を數ふると稱せらる、該模は支那製にして改隸前は專ら供給を彼に仰ぎ、現に使用しつゝあるものゝ多くは其前後の輸入品にして今は全く杜絕したりと云ふ、龍眼(リユウガン)は前者と同科(無患樹科、Sapindaceae)の近似せる樹種にして、材質酷似するにより代用として利用せらる、保存期は前者に及ばずと雖も大差なしと稱せらる、北部に於ては赤皮(イチヰガシ)を代用することあり、之が保存期は不明なり、栱仔(ナンキンハゼ)は荔枝の代用材として最も多量に使用せらる、材質固より堅重ならずと雖も、粘靭にして原型の缺損することなく、一型の保存期は1,500足を下らずと云ふ。

相思仔(サウシジユ)は質堅重、摩擦力强きも缺損し易き(本材は木纖維錯綜し割製することを困難なるものなるが故に容易に缺損を生ずるものにあらず、當業者の言に疑なき能はず)の缺點あるが故に荔枝材製のものに比較すべきにあらざるも尙ほ1,500足

の製造に耐ふると云ふ。

苦苓(センダン)は質堅軟中庸にして稍〻輕く、原型の損し易きの缺點あるも、價格低廉なるを以て比較的多く、南部地方に於て使用せらる。

(二) 西洋靴模 Se-iûⁿ-hia-bô·

總 說

西洋型、革製靴の流行に伴ひ、其靴型の需要を增加したりと雖も、其大部分は內地製を使用し、本島製のものは極めて少く、多くは大都市以外の小街にてのみ使用せらる。

種類と構造

種類は支那型を西洋型に改良せる一種の短靴用割型のみにして大さは略〻支那型と同樣なり、其構造は頭份(Thâu-hūn)、中份(Tiong-hūn)、後份(Aū-hūn)の三部よりなり蟻棧繼となす。

用 材

樹 種

地方名		和名
烏心石	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
黃杞	Ñg-kí	フヂバシデ
山蒲姜	Soaⁿ-po·-kiuⁿ	オホバニンジンボク
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
內冬子楠	Lāi-tang-chí-lâm	タイワンイヌグス
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ

特質及利用地方

烏心石(ヲガタマノキ)は質堅靭にして容易に缺損を生せず、研磨すれば滑澤を生ずるを以て尤も賞用せらる。

黃杞(フヂバシデ)も材質頗る緻密强靭にして差狂の少き點は寧ろ前者に優る、本材はクルミと同科(胡桃科Juglandaceae)に屬する樹種にして、其

帶灰紅褐色を呈せる材色の關係上、之を研磨するも著しき滑澤は生せず、然れども肌理は頗る滑かなり、又た烏心石と同樣に木纖維錯綜し容易に缺損を生せざるの特質あるにより各地にて利用せらる。

山蒲姜(オホバニンジンボク)は新竹州南庄地方にては、烏甜(O'-tiⁿ)、羅東地方には蘇仔(Môaⁿ-á)と呼ぶ、材は烏心石に比すれば導管稍〻大にして粗なるの嫌なきにあらざるも頗る堅硬粘靭にして磨けば滑澤を生し、缺損を生ずること少し。

楠仔(オホバタブ)、**內冬子楠**(タイワンイヌグス)は最も普通の樹種にして容易に入手し易く、價格も從つて低廉なるにより前二者の代用材として使用せらる。

赤皮(イチヰガシ)は堅硬にして容易に摩滅せざるを以て各部を連結する雇蟻棧に使用す。

今參考の爲め著者の實驗による前記5種の用材の比重と硬度との比較を表記すれば次の如し。

樹種名	比重	硬度(瓩)	烏心石の硬度を100とせる改算率	備考
烏心石(ヲガタマノキ)	0.69	6.59	100.0	硬度はヤンカ博士の表示法による
黃杞(フヂバシデ)	0.70	6.43	97.6	
山蒲姜(オホバニンジンボク)	0.65	5.99	90.9	
楠仔(オホバタブ)	0.60	4.17	63.3	
內冬子楠(タイワンイヌグス)	0.59	4.46	67.7	

材料の處理

用材は瑕瑾部を除き約4寸の3寸5分角、長さは1尺2寸內外となし、此木取にて1箇分の木型を作り、略〻八分仕上となし更に之を前份、中份、後份の3部に鋸斷し、中份と後份とには雇蟻を嵌入す。

九 帽模(Bō-bô· = 帽子型)用材

種類 帽模(Bō-bô·)と笠模(Lóeh-bô·)との二種に別たる。

(一) 帽模 Bō-bô·

種類及構造

帽模は扁頭形(Pi^{n}-thâu-hêng)と尖頭形(Chiam-thâu-hêng)との別あり、紙製帽(以前は林投帽)の編製用又は古帽子の洗濯、染上げ等の型直しに使用す、大小數種あるも、普通前者は徑5寸、高さ5寸にして圓壔形をなす、後者は尖圓壔にして、底部の直徑は約6寸、高さ5寸あり、兩者共に上下二部よりなる、下部の腹面には握みを中央に殘して徑約3寸の穴を穿つ。

用材

樹種

地方名		和名
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
荔枝	Nāi-chi	レイシ
相思仔	Siu-si-á	サウシジユ
栱仔	Kēng-á	ナンキンハゼ
烏榕	Chiáu-chhêng	アコウ
正榕	Chiàⁿ-chhêng	ガジユマル
苦苓	Khó·-lēng	センダン

特質及利用地方

松梧(ヒノキ)は乾濕に逢ふも差狂少く、又割裂を生せざるにより白色帽の洗濯又は染上げ、型直しに最も賞用せらる、蓋し火に掛け、水に濡らし、又陽光に乾かすを以てなり、本材の利用は比較的近來のことに屬す。

荔枝(前項支那型靴用材參照)材製は改隷前後に對岸より輸入せしものにして今は全く其跡を絶てり、現今該材製のものを使用しつゝあるものは當時の持越物なり、相思仔(サウシジユ)は質堅靭なるを利用し、前者の代用として北部地方にて使用せらる、本材製のものは白色帽の洗濯、型直しには適せず、是材に多量の單寧、其他の色素を含有するが爲め、汚染の惧れあるが故なり。

栱仔(ナンキンハゼ)は質、堅重ならざるも粘靭性に富み、且つ本樹は河原附近又は村落の周圍、路傍等に多く生育し、入手に便なる關係あるを以て南北を問はず、最も多く使用せらる。

烏榕(アコウ)、正榕(ガジユマル)の兩者は最も相近似せる同屬樹種にして、材質相酷似し、質は堅軟中庸なり、成長輪に沿ひ同心圓狀に排列せる柔組織の存在は滑澤を缺ぐも、使用するに從ひ手澤を生ず、臺南地方にて利用せらる、同地方は平地のことゝて他に適材なきが爲めなり。

苦苓(センダン)は村落、路傍等に多く生育し、入手容易なるを以て各地方にて利用せらる。

(二) 笠模 Lóeh-bô·

種類及構造

笠模は笠仔(第三六 笠仔用材參照)と稱する竹笠の骨骼編製に必要なる木型なり、型狀は種々あるも普通は低き圓錐狀にして、之を大別すれば(一)鉢部と周圍庇との縁れの分明せるものと、(二)圓錐傾斜面の弓狀に凹み頂點の高く急突したるものとの二となす、然れども前者は其多數を占む、大さは兩者共に略〻相等しく上下二部よりなり、繋ぎ棧にて嵌著す、大小數種あるも(一)は普通のものにありては中央鉢の高さ3寸5分、其腹面の直徑5寸、周圍の目庇に相當する最高部1寸5分、腹面の直徑1尺3寸内外なり、(二)は高さ6寸、腹面の直徑1尺3寸内外を普通とす。

用材

樹種

地方名		和名
樟	Chiuⁿ	クスノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
栱仔	Kēng-á	ナンキンハゼ
粕仔	Phoh-á	エノキ

特質及利用地方

樟(クスノキ)は笠仔骨の割竹片を安定せしむる特徴あるのみならず、保存期永きを以て最も賞用せらる、然れども本樹は專賣制度の實施以來、資材の入手困難にして、新規の調製は極めて尠く、多くは楠仔(オホバタブ)を代用として使用す。

桂仔(ナンキンハゼ)、粕仔(エノキ)も亦割竹片を安定せしむる特性あり、且つ兩樹共に多くは村落の周圍等に生育し、入手に容易なる關係上、是又樟の代用として笠仔の生產として全島に著名なる桃園街下の如き適材林木の入手困難なる地方にて利用せらる。

一〇 厓仔頭(Ang-á-thâu)用材

用途及構造

厓仔頭とは首人形の謂にして數十種あり、何れも鬼神、英雄、豪傑等の面貌を木材に彫刻し、之に厓仔土(Ang-á-thô·)と稱する粉土を塗り、丹青を施す、臺南市にて製作せらるゝものは最も精巧を極め、大正七年 故北白川若宮殿下 御來臺の折りは特に御買上げの光榮を忝ふせり、本品は小兒玩具のみならず、神佛像にも使用し又布袋戲(Pò·-tē-hì)と稱する人形芝居にも使用せらる。

用 材

樹 種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
江某	Kang-bó·	フカノキ
苦苓	Khó·-lēng	センダン
面頭粿	Bin-thâu-ké	フウセンアカメガシハ
樣仔	Sōai^{n}-á	ソヤ

特質及利用地方

樟(クスノキ)は彫刻容易なるを以て賞用せらる、今は用材少なきを以て使用すること少し。

江某(フカノキ)は材輕軟なるも、質は緻密性にして割目を生せず、加工容易なると厓仔土の附着良好なるにより、北部に於ては之を使用す。

苦苓(センダン)、面頭粿(フウセンアカメガシハ)、樣仔(ソヤ)等は彫刻用材として要件完備の適材にあらざるも臺南地方にて他に適材少なきを以て使用せらる。

一一 風櫃(Hong-kūi = 櫃)用材

第一〇の四、打鐵(鍛冶屋)用具用材の(一)に併記す。

一二 油車床(Iû-chhia-chhng = 油絞器)用材

第一三、油車用材に併記す。

一三 粗彫(Chho·-tiau = 荒彫白木物)用材

總 說

粗彫とは匏瓢(Pû-hia)、鱟殼仔(Haū-khak-á)、飯匙(Pīng-sî)、枕頭(Chím-thâu)、面桶(Bin-thán g)、脚桶(Kha-tháng)、猪槽(Tu-chô)等の如き荒彫白木物の總稱なり。

(一) 匏瓢 Pû-hia

沿 革

本島人は古くより瓢を縦に半割し又は鱟(カブトガニ)の背甲を漏斗形に曲げて短き柄を附し、水桶より水を掬ひ上げ又は米桶より飼料を汲み出し猪槽に移すのときに使用し來りしも、破損し易きにより距今百餘年前、今の臺北州下、深坑庄、深坑に陳去なる人あり、木材を利用して荒彫を施し半割瓢形の水汲器を創作し、之を匏瓢と稱せり、是實に荒彫白木物の鼻祖なり、元來匏とは瓢の意義にして、瓢とは水を掬ふの意なり、即ち瓢形水汲器の義なり。

爾來需要者の增加するに從ひ、前記各種の荒彫物は漸次に案出せられ、材料の豐富なる山間農村に於ては農閑時の副業として盛に各地に

製品を搬出せしも近來は金屬製品のために都會地に於ける需要は其幾部を蠶蝕せられたるも、地方に於ては今尙之を使用せり。

構 造

匏瓢の形狀は前述の如く其大さは大小數種あるも、普通は口徑、縱7寸、横8寸、底の縱徑は4—5寸、横徑5寸5分—7寸、深さ3寸8分、周緣の厚さ4分内外、把手部の長さ3寸、幅1寸位、厚さ6—7分あり。

(二) 鱟殼仔 Hāu-khak-á

鱟殼仔とは古くより鱟(カブトガニ)の背甲を利用して杓子を作りたりと云ふに因み、其形狀の恰も鱟に似たるが故に此の名稱ありと云ふ、

構造及用途 汁物及粥食に使用する匙の一種にして、全長9寸、匙頭は圓形をなし徑2寸5分、半球形に彫る、中央の深さ8—9分あり。

(三) 飯匙 Pīng-sî

飯匙は飯杓子にして匙頭及把柄共に桃實形(柄付)に象り彫製す、長さ4—5寸を普通とす、近來は其需要を宮島杓子に壓倒せらるゝに至れり。

(四) 枕頭 Chím-thâu

枕頭は木枕の一種にして、形狀は竹稈の半割に象り内部を刳り取る、長さ1尺7寸、厚さ3分5厘乃至4分、底徑2寸5分—3寸、高さ4寸を普通とす。

(五) 面桶 Bīn-tháng

面桶は荒彫の洗面器なり、山脚地方にては今尙ほ之を使用す、摺鉢形にして底は稍〻廣し、口徑7寸、底徑5寸、深さ2寸5分、周緣の厚さは4分を普通とす。

(六) 脚桶 Kha-tháng

脚桶は洗濯盥にして、形狀面桶に類し大形なり、口徑1尺8寸—2尺5寸、底徑1尺5寸—2尺2寸、深さ4—5寸、厚さ1寸内外なるも口緣上

端の約1寸は特に厚く彫り殘し、厚さ約4寸内外あり、之手掛にして運搬に便ならしむ、又別に上端口緣を設けず、單に中央部上端に相對して瘤狀突起を彫りて手掛となせしものもあり。

(七) 猪槽 Tu-chô

臺灣の養豚は婦人の副業として市街地の店舗を除く外、殆ど各家之を飼養せざるはなし、猪槽は其飼料槽にして大さは區々にして一定せず、或るものは丸太を細長く抉り、又は板を以て液汁の漏洩せざる樣箱型に組立て、又時としては磁製、石製のものを見ることも尠からず、然れども多くは箱船形の刳物なり、又特種形のものには長方形槽の兩片端に突出せる把柄を刻みしものもあり、大さは一定せざるも長さ1尺5寸、2尺、3尺、3尺5寸、上面の幅6—7寸より1尺内外、高さ6—7寸にして、何れも上面の大さに應して外部を7—8分殘し、鑿にて荒刳をなす。

用 材

樹 種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
有樟	Phà^{n}-chiu^{n}	オホバグス
江某	Kang-bó·	フカノキ
大葉楠	Toā-hiòh-lâm	オホバタブ
香桂	Phang-kùi	ランダイグス
〃 〃	〃 〃	ハマグス
〃 〃	〃 〃	ニヒタカシロダモ
有栱	Phà^{n}-kēng	ナガバナンキンハゼ
九重吹	Káu-têng-chhe	ムクイヌビハ
山黃麻	Soa^{n}-iû^{n}-môa^{n}	ウラジロエノキ
樹梅	Chhiū-mû	ヤマモヽ

茄苳	Ka-tang	アカギ
爛心木	Nōa^{n}-sim-bok	ランシンボク
雞油	Koe-iû	タイワンケヤキ
賊仔樹	Chhát-á-chhiū	ハマセンダン

特質及使用別竝利用地方

樟(クスノキ)は堅軟、中庸にして縱横何れも刄物の切れ味、良好にして加工し易く、耐濕性又大にして保存期永きが故に最も賞用せられ、前記の荒彫物の各種類は殆ど本材に限られしと云ふも、改隷以後、該木は製腦規定により之が使用を嚴禁せられしにより己むを得ず、製造業者は他の代用材を使用するに至れり、**有樟**(オホバグス)は最も賞用せられ、**江某**(フカノキ)之に亞ぎて利用せらる、有樟は Cinnamomum 屬中最も輕軟なるものにして、板目に於ける横彫り利き、刄物を損せず、又割裂を生せざるにより最も多く使用せらる、江某は輕軟なるも質は緻密性にして龜裂を生せず、加工又容易なるを以て、前者と共に廣く各地方にて匏瓢及面桶に利用せらる。

大葉楠(オホバタブ)卽ち楠仔(Lâm-á)は樟に比すれば保存期短く材質は稍〻堅きも生材時には加工し易く、又大材を得易きを以て樟の代用材として脚桶の如き大形物を作る、又豬槽にも使用す。

香桂とは埔里附近なる新高及能高郡下の各地方に於ける呼稱にして、前記の如くランダイグス、ハマグス、ニヒタカシロダモ等の總稱なり、是等の材は何れも質相肖似し邊心材の別なく淡紅白色を呈し、稍〻輕軟なるも緻密にして加工し易く、刄物の切れ味又良好なり、是等の地方にては多くは匏瓢に利用す。

有楔(ナガバナンキンハゼ)**九重吹**(ムクイヌビハ)等は何れも輕軟なる材質を有し、工作容易なるにより匏瓢及面桶に利用せらるゝも保存期短かく從つて安價なるを免れず。

山黃麻(ウラジロエノキ)は輕軟なるも粘靭にして割れ難し、是木纖維の錯綜するによる、然れども加工は頗る容易なるを以て中部地方の山脚地方にて匏瓢に利用せらる。

樹梅(ヤマモヽ)は稍〻堅硬、材の等質度は頗る大にして使用するも容易に磨滅せず、又飯粒を糊著せざるの特徴ありと稱せらる。

茄苳(アカギ)は稍〻硬重なるも、耐濕性大なるを以て保存期永く、豬槽として最も賞用せらる、乾燥材は加工稍〻困難なるも生材は否らず、全島的に使用せらる。

爛心木(ランシンボク)は甚だ堅硬にして保存期又永し、潮州郡下の本島人は本樹が名詮の如く空洞多き樹木なるを以て、空洞部の形狀を巧に利用して豬槽となす。

雞油(タイワンケヤキ)は甚だ堅重にして工作し難きも、保存期永きを以て新竹、臺中、高雄州等の如き該樹の分布を有する山脚地方にて豬槽に使用せらる。

賊仔樹(ハマセンダン)は材は灰褐色を呈し、甚だ輕軟なるも割目を生せず保存期比較的に永く且つ工作容易なるを以て嘉義地方の山元にて製作せられ、南部沿海の漁村にて需要多し。

材料の處理

匏瓢は山元にて適材を伐採し、生木のまゝ直に製作す。

伐採せる丸太は定長に鋸斷して半割材となし大形鑿にて荒取りをなし、彎鑿にて内部を荒彫りたる後、仕上げ、文火にて燻蒸法を行ひ乾燥せしむ、然るときは材の表面はタールにて被はるゝを以て、比較的に乾濕の影響を受けざるにより、保存期を增大するのみならず、兼てシンクヒ蟲屬の蝕害を避け得ると稱せらる。

面桶、脚桶も略〻前者と同樣に處理す。

豬槽は伐採後直に製作す、資木の徑大なるものは割材となし、徑小な

るものは心持のまゝ荒木取をなし鑿にて刳る、是荒彫をなしたるものは心持材と雖も乾燥するに從ひ、材に收縮作用を起すも、割目を生ずること甚だ尠きと、又加工の容易なるが爲めなり。

爛心木は空洞多き樹木なるを以て、樹形を巧に利用して製作す。

枕頭は適大の材を定長に挽鋸し、縦に兩縁の厚さを殘して二條に鋸を入れ、鑿にて荒彫をなしたる後、彎鉋にて仕上げ上面には丸味を附す。

附　猪槽の價格

賊仔樹材製のものは嘉義街より海岸地方に販出せらる。

上 円0.400　中 円0.300　下 円0.200 (大正14年調査)

第八　車枳(Chhia-chí=鏡作物)用材

總　説

種類　極めて多く之を大別すれば、建築、家具遊戯器械及道具、裝飾品等となす。

車枳司阜(Chhia-chí-sai-hū = 鏡鑪師)の種類　臺灣に於ける挽物は從來不振の狀態にありて、其鏡工機の如き各自の考案による頗る簡單なるもの使用せり、然れども民度の向上と文化の進歩とは此方面に需要を增進し來りしを以て、舊時に比すれば稍〻進歩したるも其多くは會社其他の工場等へ納入する挽物の受負業者が增加したるのみにして、未だ以て見るべしと云ふべきにあらず、故を以て其車枳司阜の如き簡單なる萬挽物師に屬するもの多し、其中にても專問師と稱すべきは、僅かに車頭(車胴)司阜(Chhia-thâu-sai-hū)、柴盤(五牲盤とも云ふ=大木皿)司阜(Chhâ-pôa^{n}-saihū)、峰巢(傘鏡鑪)司阜(Phang-siū-sai-hū)、及灯骨頭(提灯口輪の一種)司阜(Teng-kut-thâusai-hū)、洋傘柄司阜(Iû^{n}-sôa^{n}-pi^{n}-sai-hū)等の數種に過ぎず。

用材の特質

挽物に適する用材の要件は、無節、無疵、木理通直にして縄目なきもの、硬質のもの、靭性あるもの、春秋生材の組織の粗密に差異少なきもの等にして、硬きは光澤を發し、質硬からざるも粘靭なるものは仕上り良好にして挽物に適す、而して春秋生材の粗密の差は鏡工に際し抵抗を異にし、平滑を缺ぎ粗鬆部に刄先の突入を來たすの怕れあり、又環孔材と散孔材とを問はず、導管の大にして、年輪の幅狹少なるは一般に光澤に乏しく、最硬、最軟は塗上げ宜しからず、然れども何れの樹種も加工し得ざるはなく、唯だ材質の精粗は製品の優劣に軒輊あるのみ、然れども一般に挽物用材は割裂し易きを嫌忌す。

材料の處理

挽物の種類によりて多々あるべきも大體に於て、心去り割材を上とし、心持を下とし、生材より直に木取を爲し、乾燥後荒挽をなすを普通の順序とするも、山元より搬出するものは運搬の關係上生材より直に木取り荒挽をなし、乾燥後更に仕上げをなすこともあり。

附　臺灣產林木の鏡作的性質に就てはし林業試驗場報告　第四」所載「臺灣木材の鏡作試驗」拙著を參照せられたし」。

一　建築用材

第一、建築用材二の(ト)、樓梯用材に併記す。

二　家具用材

第六、小木用材の一、家具用材の二、客室及三の房間用具の圓卓、圓椅頭仔及眠床、面桶架、等を初め其他に併記す。

三　厁仔物用材

第三五、厁仔物用材の(一)に併記す。

四 蜂巢(傘骨)及燈頭骨並燈頭座(提灯口輪)用材

蜂巢は第三三、紙傘骨用材に、灯頭骨並灯頭座は第三四、紙灯骨用材に併記す。

五 枷枳(絃琴の絲卷)用材

第六の二、樂器用材中各種の絃琴用材に併記す。

六 洋傘柄用材

第一八、洋傘柄用材に併記す。

七 念珠玉(Liām-chu-gek)用材

總 說

本島に於ける佛教の宗派は僅かに二、三にして、是とても各派の宗域劃然たるにあらず、頗る模稜を極め爲に念珠は各宗派共に其制定なく、種類も亦多からず。

用途及構造

其輪の玉數は百八を本體とし、其9分の1、6分の1、3分の2を定數とす、即ち十二粒、十八粒、七十二粒、百八粒の4種あり、是等の內十二粒は普通用にして十八粒、七十二粒、百八粒等は檀徒及僧侶用なり、又百八粒の大粒物は高僧の首懸用なり。

用 材

(一) 外國產材

樹 種

地方名		和名
沈香	Tîm-hiu^{n}	チンコウ
檀香	Tôa^{n}-hiu^{n}	ビヤクダン
菩提樹實	Phô'-thê-chhiū-chí	ボダイジユの實
炒菩提	Sa-phô'-thê	———

(二) 臺灣產材

黃目子	Ñg-bák-chí	ムクロジ
桃仔	Thô-á	モヽ
薊竹	Chhì-tek	シチク
棕櫚	Chang-lū	シユロ

特質及使用別

沈香(チンコウ)は香木類中古くより最も高價なるものゝ一に數へらる、元來沈香を生ずる樹種は甚だ多く、其植物名に就いては、確的なる文献の據るべきものなきも、大別すれば Gonystylus 及び Aquilaria (共に瑞香科 Thymelaeaceae) の兩屬に屬するものと稱せらる、Aquilaria に屬するものゝ材は多くは輕軟なるに反し、Gonystylus 屬のものは堅重、緻密にして、心材は黃褐色に黑色の條斑を有す、該部分は樹脂にて充塡せらるゝが故に芳香著し、材質緻密なるを以て鏤工容易なるにより、匠者は本屬の材を貴重し、上等品として十二粒のみに使用す。

檀香(ビヤクダン)とは白檀の本島人呼稱なり、沈香と共に古より香木の一に數へらる、材は堅重、緻密にして、香氣高く、且つ挽き易きにより前者に亞いで賞用せられ、十八粒及百八粒を製す、十八粒のものは一に十八羅漢と稱し羅漢の像を刻むの慣習あり。

菩提樹實(ボダイジユの實)とは印度菩提樹(Iñ-tō'-phô'-thê-chhiū)の子孫の謂にして、其母樹は釋迦の由緣木として臺灣は勿論內地に於ても珍重せらる、本樹は元來大戟科 (Euphorbiaceae) の Ficus 屬にして隱花果を結ぶが故に指頭大の堅硬なる子孫を有せざるは勿論にして、眞の菩提樹の子孫にあらず、金平林學博士(大日本山林會報、第397號19頁所謂菩提樹の實參照)に據れば印度、馬來等に產する Elaeocarpus Ganitrus *Roxb.*(金平新稱インドジユズノキ)の子孫にして、從來の俗說は全くの誤傳なりと云ふ、孫は球形にして皺狀の小瘤起を有し、普通5室、5種子を有するも、稀れに3—4又は6室のものあり、是等は子孫1箇にして數十圓の價値を有し、印度人は頸飾となす、彼

のバウ、チツテと云ふは之なり、歐洲にては帽子のピン、ボタンを製す、臺灣にては多く百八粒となす。

炒菩提とは黑色の子孫にして、其母樹の植物名を詳にせざるも熱帶產なるは疑ひなし、支那人の手を經て輸入せらる、當業者の談によれば、火に懸け炒りて黑味を帶ばしめたるものなりと云ふ。

黃目子(ムクロジ)の子孫は堅硬にして黑色、滑澤あり、大粒物に用ふるも極めて尠なし。

桃仔(モヽ)は百鬼を制すると云ふ古來の傳說に因みて、其實核を利用す、質最も堅硬にして、彫刻を施すも缺損の憂なし、十二粒、十八粒等に使用す。

莿竹(シチク)の根際の皮目に近き部分は黃褐色の維管束の分布密度大にして、質堅緻、研磨すれば纖維紋理、美なるを以て、普通十二粒を製す。

棕櫚(シユロ)は幹の皮目部に近き部分の維管束は黑褐色を呈し、其分布は密なり、質は堅硬にして、磨けば鐵刀木杢、美しく十二粒を製す。

材料の處理

用材中沈香、檀香等は先づ資材を細く挽き割りて方柱狀となし次で八角柱に削り、漸次に角を削り落して棒狀となし、小切の印を附し、小轆轤に掛け、數種のバイトを用ひて球形に挽き、錐を赤熱して連ぎ孔を燒穿し籾殼と共に揉み上げ、後に木賊又は白雞油(ムクノキ)の葉にて仕上ぐ、近來は零號ペーパーにて仕上ぐ、籾殼は本島種のものに限らる、是內地種の籾殼に比し硅素を含有すること多く、爲めに研磨良好なりと稱せらる。

八　機械及道具用材

種類　漏斗(Laū-taú)、綿弓槌(Mîⁿ-keng-thûi)、轢槌(Géng-thûi)類、籤筒(Chhiam-tâng)、槖錐肉(Lak-chūg-bah)、機心(Ki-sim)、柄(Pîⁿ)類

(一)　**漏斗**　液體を容器に移すに使用す。

用材樹種及特質　臺南地方にては龍眼(Gêng-gêng＝和名リユウガン)、九芎(Kiú-kiong＝和名シマサルスベリ)を使用す、何れも堅硬緻密にして挽き易く、仕上良好にして液體の水切れ良好なりと云ふも前者の方賞用せらる。

(二)　**綿弓槌**　第二四、打綿道具用材に併記す。

(三)　**轢槌類**　第七、彫製用材の七、木模(木型)用材の甲、粿模類の(三)附屬具に併記す。

(四)　**籤筒**　第七、彫製用材の三、佛像、佛具用材の(二)佛具の(リ)に併記す。

(五)　**槖錐肉**　第一〇、槓類用材の三、製木道具用材の(五)に併記す。

(六)　**機心**　第一六、布機用材に併記す。

(七)　**柄類**　各種道具の把柄にして其用材は次の如し。

用材樹種及利用地方

柚仔(Iū-á＝和名ジヤボン)、面頭粿(Bīn-thâu-ké＝和名フウセンアカメガシハ)、苦苓(Khó'-lēng＝和名センダン)は臺南地方にて、烏心石(O'-sim-chiòh＝和名ヲガタマノキ)は中北部にて利用せらる。

九　車頭(車胴)用材

第五、車輛用材中、車頭用材に併記す。

一〇　抛槖(Ka-lak＝滑車)用材

用途及構造

抛槖は滑車卽ちブロック(Block)にして抛槖車(Ka-lak-chhia)と抛槖殼(Ka-lak-khak)との二部よりなる、前者はシーブ(Sheave)卽ち車輪にして、後者はセル(Shell)卽ち外殼なり、其形狀は製作により區々なるも船舶用のものは小判形多く、索道用のものは角枠形多し、本島に於ては在來の採鑛法(主として炭礦を指す)は勿論、建築法等は自ら樣式を異にし、抛槖を使用すること稀れにして、船舶を主とし其他は山地の伐木を運搬する簡易索道に使用するのみなり。

用材

材は精緻にして堅硬なること、木纖維交錯して割裂を生せざること、狂ひ少なきこと、摩擦小なること、保存期永きこと等を要件とし、車輪用材にはリグナム・ヴアイター(Lignum-vitae、學名 Guaiacum officinale *L.*)を最適材とし世界的に使用せらる。

樹種

地方名		和名
雞油(クエイウ)	Koe-iû	タイワンケヤキ
赤皮(ヤチペエ)	Chhiah-phê	イチヰガシ
稠仔(テユア)	Tiû-á	ホソバシラカシ
烏心石(オシムチヨ)	O'-sim-chiôh	ヲガタマノキ
相思仔(シウシイア)	Siu-si-á	サウシジユ
爛心木(ヌアシムボク)	Noā^{n}-sim-bok	ランシンボク

特質及使用部分竝利用地方

雞油(タイワンケヤキ)は抛橐車に使用することあるも、主として抛橐殼に使用す、質堅靭にして割裂し難く、保存期も亦永し、黄雞油(第五、車輛用材の三、牛車用材の附、臺灣產雞油の各種材質、參照)は加工困難なるも紅雞油は否らず。

赤皮(イチヰガシ)、**稠仔**(ホソバシラカシ)等は吸濕による膨脹收縮の二現象頗る大なる爲め、濡れ綱を掛けたる場合に於ては往々にして車輪の廻轉を澁らす、是等の樹種は髓線大なるが爲め木口挽きとなすときは容易に割目を生じ、小形車輪の外は板目取りなるが故に車輪の外周には木口を現はし爲に索繩の保存期短きも價格低廉なるが故に多く使用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は雞油の代用として使用す、索道用のものには分布の普遍的なる關係上、本材を利用すること多し、車輪用材としては、索道の長き場合に於ては摩擦熱の爲め烟を發する缺損あるも、短距離

の場合には不可なしと云ふ。

相思仔(サウシジユ)は車輪用材として各地にて使用せらる。

爛心木(ランシンボク)は從來南部地方にては車輪用材として使用せられたるも狹き範圍に限られたり、元來本材は堅緻、强靭にして、木纖維錯綜し、容易に割裂せず、加ふるに髓線中には濶葉樹に類ひ稀れなる樹脂分泌溝を有し、摩滅を減じ得るの特質を具備す、其リグナム・ヴアイター(Lignum-vitae)との理學的性質の比較(本成績は著者の實驗による)は次の如し

樹種別	含水量	比重	硬度 木口	硬度 板目	板目取り板を1週間水浸したる膨脹率	備考
リグナム・ヴアイター	100.0	100.0	100.0	100.0	100.00	本表の數字はリグナム・ヴアイターの數値を100として換算せる改算率
爛心木(ランシンボク)	100.0	87.8	67.0	73.0	139.66	

卽ち爛心木は含水量の全く同一なる場合に於て、比重は約2割2分、硬度は木口に於て3割3分、板目に於て2割7分小なるは、材の精緻の度合を表示するものにして、略ゝ同一の狀態に於ける氣乾材の板目を一週間水浸せる膨脹率は約4割大なり、是狂ひの大なる所以なり、如斯、爛心木の材質は劣性を示すと雖も、彼に比し材價低廉なるが故に、代用材としての價値は唯に需用者の一大福音たるのみならず、生產自給上國益たるべきを信じ、實際使用方を基隆船渠會社に依賴したることあるも未だ確報を得るに至らず、次に其成績の豫報として素材(油浸せざるもの)に就いて得たる成績を示せば次の如し。

一 ブロック(滑車)のシーブ(滑車輪)に使用せるもの

(一) 本材は反張差狂、比較的に大なるを以て、板目挽のものはセル(外殼)に觸れ、廻轉に支障を生じ、充分に使用するの機會少かりしを遺憾とす。

(二) 割目を生せず。

(三) 材に滑澤ありて、摩擦は小なるものゝ如く、索繩の損傷は割合に少し。

一一 道中車(Tō-tiong-chhia)用材

用途及構造

炭礦の索道に使用するものにして、其大さは各炭礦により多少の差違あるも、普通は徑4—6寸、長さ8寸、8寸5分、1尺等の別あり、其構造は短圓柱形にして兩端には止めとなる高さ約3分の丸面緣を附し、中央には徑約7分の孔を穿つ。

用　材

樹種　材は堅靭にして、摩擦衝動に堪ふるものを要件とす、本島にては現今、殆ど相思仔(Siu-si-á = 和名サウシジユ)のみを使用せり。

保存期　使用場所によりて一定せざるも短かきは十餘日にして使用に堪へざることもあり、然れども大體に於て1噸に約0.067箇を要すると云ふ。

材料の處理　心持材の心材部より荒木取りをなして、鑿工を施す。

第九　桶(Tháng)類用材

附　桶梯(Tháng-thui)及笨仔籌(Pún-á-ko)用材

一　總　說

臺灣の桶類は農業用のもの其大部分を占め、勝手用之に亞ぎ、製造工業用のものは極めて少し、其大部分は島内産なるも、勝手用其他の小桶類に屬するものは對岸より製品を輸入して使用す、其數は固より大ならずと雖も大正13年度に於ける總額は51,308個7,865圓にして、之を輸入港別に表記すれば次の如し。(大正13年臺灣貿易概覽に據る)

港別	數量	價格
	個	円
基隆	7,815	1,138
淡水	8,867	1,634
安平	8,726	1,174
高雄	9,884	1,726
其他(後龍、梧棲、東石、鹿港、東港、馬公)	16,016	2,493
計	51,308	7,865

今島内に於ける桶用材の總消費額は正確なる統計の據るべきものなきも大正13年末に於ける全島の桶類の總生産額(内地人の分も含む)は、45,428圓を計上せり。(大正13年度、林業統計に據る)

二　各　說

種類　桶類を大別して、液體用、乾燥物用、中性體用の三となす。

甲　液體用桶類

用材樹種の適否條件は固より木取り、工作等には稍〻注意を拂ふものゝ如し、之に屬するものは、農家用の菁桶、大桶、水桶、掟桶、屎桶、淋桶、脣桶、秧船、尿瓠、及一般勝手用の脚桶、腰桶、碗桶、攜桶、竝房間用の尿桶等あり。

乙　乾燥物用桶類

削桶、大桶等とす。

丙　中性體用桶類

飯桶、炊斗等に分かる、其中前者の用材には傳說によりて特用せらるゝものあり。

甲　液體用桶類

用途及構造

(一)　菁桶　Chhi^{n}-tháng

菁桶は桶類中の大形物にして二種あり、一は農家に於て木藍より泥藍を製造するに使用せられ、他の一は布房(Pò-pang = 染物屋)にて使用せらる、前者は其大さ口徑7尺、底徑6尺4—5寸、高さ5尺、桶板の厚さ1寸7—8分、桶板の數は資材の幅により一定せず、後者は口徑5尺6寸、底徑5尺、高さ4尺8寸、桶板の厚さ1寸5分にして、桶板數の不定なることは前者に同じ。

(二)　大桶　Toā-tháng

大桶は穀物の貯藏兼浸漬用にして、大中小の三種あり、大は口徑3尺2寸、底徑2尺8寸、高さ2尺8寸、桶板の厚さ1寸2分、中は口徑3尺、底

徑2尺6寸、高さ2尺6寸、桶板の厚さ1寸にして、兩者共に桶板25枚を要す、小は口徑2尺8寸、底徑2尺5寸、高さ2尺4寸、桶板の厚さ9分あり、桶板は20枚を定數となす。

(三) 水桶 Chúi-tháng

水桶は内地の水桶と同じく水の運搬又は水汲に使用す、大小あり其寸法及桶板數は

種別	高さ	口徑	底徑	桶板の厚さ	桶板數
大	1尺2寸3分	1尺5寸	1尺3寸	8分	13枚
小	1尺5寸	1尺4寸	1尺2寸	〃	〃

の如くにして内側の上部に近く横木卽ち水桶栿(Chúi-tháng-nîuⁿ)を相對の2枚の桶板(此部分の桶板は特に厚く木取りて堅固を保持せしむ)に嵌入し、之に繩を結ぶか、又は鐵線を附す。

(四) 掟桶 Soân-tháng

掟桶は水桶に類する、1荷1組の桶にして擔ひ桶と如露とを兼ねたるが如き用途を有す、苗床又は蔬菜類の灌水用に供す、其構造は桶(Tháng)、竹管(Tek-kńg)、水桶栿(Chúi-tháng-niûⁿ)、繩仔(Soh-á)の四部よりなる、高さ1尺5分、口徑1尺4寸、底徑1尺2寸、桶板の厚さ8分、桶板の數は13—14枚を普通とす、内側の上部に水桶栿(Chúi-tháng-niûⁿ)を嵌入し、之に麻繩卽ち繩仔を縛し吊手となす、竹管は長さ2尺5寸、直徑1寸5分あり、桶の下側部に穿ちたる孔に斜に上方に向け嵌入す、竹管の大さは普通竹稈の2尺5寸に2—3節あるものを取り、末端の一節を殘し他は悉く拔き去り先端の節に接し、上向きに幅約3分、竹管の半に達する細き長方形の孔を穿ち、撒水孔とす、又竹管の中央部と水桶栿とは針金にて緊縛し、以て竹管の脫落を防ぐ、掟桶にて灌水せんと欲せば、桶に水を滿たし、秤擔にて運び來り、繩仔を加減しつゝ桶を竹管の方に傾くれば、水は撒

水孔より噴出し、左右竝に前方に擴散して普く灌水することを得るなり。

(五) 尿桶 Jiō-tháng

尿桶に2種あり、一は内地の肥桶にして人糞尿又は汚水等の如き液肥を運搬するに用ひ、他の一は臺灣婦人の專用便器なり。

前者の構造は尿桶と尿桶栿(Jiō-tháng-niûⁿ)の2部よりなる、大小あり其寸法は

種別	高さ	口徑	底徑	桶板の厚さ	桶板數
大	1尺5分	1尺4寸	1尺2寸	6分	13枚
小	1尺	1尺3寸5分	1尺1寸5分	〃	〃

の如くにして、竹箍3條にて締め固む、桶板の中央部の相對する2枚は特に稍〻長く本取り、上端に耳孔を穿ち尿桶栿(Jiō-tháng-niûⁿ)を附す、尿桶栿は灌木又は蔓莖植物を曲げて蔓形となし、又は丸籐を曲げて使用し擔送に便ならしむ。

後者は前者と其構造を異にし、形狀は略〻廣口の米漏斗に類し上部大にして下部は稍〻小さく、其各部は尿桶と尿桶蓋(Jiō-tháng-kòa)とよりなる、桶板は13板にして内外共に漆塗を施す、該桶の桶板の木裏を外向にするは木表よりも、塗料の着色良好なるを以てなり。

(六) 腰桶 Io-tháng

腰桶は臺灣婦人の專用具にして、嫁入道具の一なり、身體の清拭に使用す、桶の大さは口徑7—8寸、高さ1尺2寸—2尺、桶板の厚さ上部8分、下部5分、桶板數は13—14枚にして、形狀尿桶に類するも、底は甚だ高く上り、深さは僅に4寸餘なるに過ぎず。

(七) 脚桶 Kha-tháng

脚桶は内地の盥にして、衣衫の洗濯及兒童の湯沐用なり、大小あり、其

大さは

種別	高さ	口徑	底徑	桶板の厚さ	桶板數
大	6寸5分	1尺8寸	1尺7寸	7分	18枚
小	5寸5分	1尺6寸	1尺5寸	6分	16枚

の如くにして、中央部の相對の2枚の桶板は上端のみ特に厚味を刻み、手懸に便にし、脚桶耳(Kha-tháng-hī)と稱す、總て桶板は木裏を外向きにするを法とす、外觀の美を欲するが爲めなり。

(八) 碗桶 Oáⁿ-tháng

碗桶は一に碗斗仔(Oáⁿ-taú-á)とも稱す、食器又は疏菜洗滌用にして形狀脚桶に似たり、其大さは口徑1尺3寸、底徑1尺2寸、高さ5寸5分、桶板の厚さ6分、桶板數14枚にして、中央部の相對する2枚は上部を特に厚く碗桶耳(Oáⁿ-tháng-hī)を刻む。

(九) 攜桶 Koāⁿ-tháng

攜桶は水汲用にして、桶の胴は少しく膨大し大鼓胴狀を呈す、大小4種あり其大さは

種別	高さ	口徑	底徑	桶板の厚さ	桶板數
第一種	1尺	1尺4寸	1尺3寸	5分	15枚
第二種	9寸	1尺3寸	1尺2寸	〃	〃
第三種	8寸	1尺2寸	1尺1寸	〃	14枚
第四種	7寸	1尺1寸	1尺	〃	13枚

の如くにして、第四種に至るに從ひ順次に大さは1寸減なり、倦桶枋(Kōa-tháng-niûⁿ)と稱する把手には2種あり、其一は小灌木又は割竹をU字形に曲げ其兩端は桶板の列に組込むものと、他の一は桶板の幅狹き2本の小角材を彎形に木取り又は天然屈曲材を其まゝ利用し、桶板の列に組込まるゝ部分のみは略〻桶板と同厚に削り上げ、上端の中央部に於

て力材(Knee)に連結す、桶板は需要者の多くが外觀の美を欲するにより、製造業者は木裏を外向となす。

(㊀) 淋桶 Phun-tháng

淋桶は普通農家に於て豚の飼料を運び、又は之を盛りて豚に給餌する飼畜用桶なり、其形狀は攜桶と大同小異にして口徑1尺1寸、底徑9寸5分、深さ8寸、把手たる淋桶枋(Phun-tháng-niûⁿ)は樹木の枝條又は灌木をU字形に曲げ、兩端を相對する桶板の間に組込む、枝の直徑は約5分、長さは4尺とす。

(二) 搧桶 Hò·-tháng

搧桶は最も簡單なる揚水器にして、普通の水桶の如きものゝ上端に搧桶枋(Hò·-tháng-niûⁿ)と稱する横棧を架し、其兩端及是と十字形をなす位置に於ける桶板の下部に小孔を穿ちて各〻1條宛、計4條の麻繩を附す、麻繩は適宜の長さにして先端に小木片を附し、2人にて兩手に繩を握り、左右に打ち振りつゝ水を汲み揚げ、前方に放出するものなり、桶の大さは深さ8寸、口徑1尺3寸を普通とす。

(三) 秧船 Ng-chûn

秧船は本島中北部の秧銚(Ng-thio =苗代より稻苗を拔き取る農具にして、其形狀は鍬に類す)を使用する地方にて用ゆ、其構造は口徑1尺5寸、底徑1尺2寸、深さ5寸の小桶にして、底部は船底の如く、他の桶類の夫れと異なり、外部に張り出し、周緣は丸味を附す、秧船の名ある所以なり、其用途は挿秧の際稻苗を入れて常に水上に浮べ農夫の身邊に置き、位置を換ふるに從ひ水面を滑走せしめ、又は畦道より苗の供給に便ならしむ。

(三) 尿瓠 Jiō-hia

尿瓠は一種の長柄の肥柄杓にして、液肥を汲み取り、又は施肥するに使用す、尿瓠に大小あり、大は其口徑6—7寸、深さ5寸、長さ5尺許りの竹柄を斜に嵌着す、柄を取付くる部分の桶板1枚は稍〻長大にして孔を穿

つ。

乙 乾燥物用桶類

(一) 削桶 Siak-tháng

削桶は一に棘桶(Siak-tháng)又は粟桶(Chhek-tháng)とも云ふ、稻の脫穀器にして桶梯(Tháng-thui)、笨仔(Pún-á)と稱する附屬品を有す。

削桶の構造は削桶板(Siak-tháng-pang)、桶施繩(Tháng-thoa-soh)、桶施指(Tháng-thoa-chí)、桶耳(Tháng-hi)、桶巾(Tháng-pak)の5部よりなる、削桶は大形桶の一にして横斷面は短卵形を呈す、大小あり其寸法は

種別	高さ	口徑	底徑	桶板の厚さ	桶板數
大	1尺9寸	3尺6寸	3尺2寸	1寸2分	32板
小	1尺6寸	3尺1寸	2尺8寸	〃	〃

の如くにして、外側は竹箍3條を以て締め、桶底の下面には短徑に沿ひ直徑4—5寸の胴割材2本を打ち付け、兩端には丸味を附して橇形となし、收穫の際田圃の間を曳行するに便にす。

桶施繩は桶の下側部に結繫せる前方二本、後方一本の棕櫚繩にして、其先端に木片卽ち桶施指を附し、削桶を曳行するとき之を把りて引くものとす、又桶耳は桶の後方上部に附けたる籐製の輪にして、削桶を擔送するとき、此に棒を挿入して擔ぎ上ぐるものなり、桶巾は削桶の後半內側に笨仔を立つるに必要なるものにして、上下2列、各〻8寸を隔てゝ7箇所に輪形に結び付けたる麻繩なり、卽ち笨仔の脚を1本づゝ上下の桶巾に通して倒伏することなからしむ。

附

イ 桶梯(Tháng-thui)用材

桶梯は笨仔を圍繞せざる部分の桶板の緣より底に斜に架し、之に刈り取りたる稻束を叩き付くる當にして、穀粒は盡く脫落して桶內に推

積す、其構造は桶梯頭(Tháng-thui-thâu)、桶梯柱(Tháng-thui-thiāu)、桶梯枳(Tháng-thui-chí)、桶梯牽(Tháng-thui-khian)、の4部よりなる。

桶梯枳は割竹又は鐵製にして、其他は悉く木材なり、其形狀は略〻耳字形を呈す、桶梯の名ある所以なり、長さは普通3尺5寸、上幅3尺4寸、下幅2尺5寸の框にして、框材の幅は1寸5分、厚さ8分乃至1寸あり、上端の框材を桶梯頭と稱し、長さは3尺4寸を定寸とす、此兩端より3寸に2本の側框あり、長さは一定せざるも普通は3尺5寸とす、之を桶梯柱と云ふ、該柱の長さの3分の2卽ち約2尺3寸の所に、桶梯牽あり、兩側の桶梯柱に嵌着す、桶梯牽と桶梯頭との間には、割竹又は鐵紐を以て作りたる桶梯枳を竝列して嵌入す、稻束の穗は之に叩き付けられ脫粒せしむるものとす桶梯枳は其數一定せざれども、普通は12本とす、多くは節間の短き根株に近き部分を割りて使用せるものにして、幅7—8分のものを約1寸づゝ隔てゝ嵌入し、割り目を外にし、外皮を上向にして桶梯頭に平行せしむ、又桶梯枳の折損を防ぐ爲め桶梯頭と桶梯牽の中央に細き中肋柱を加へたるものあり。

ロ 笨仔籠(Pún-á-ko)用材

笨仔(Pún-á)とは、稻束を桶梯に叩き付けて脫粒する際、粃の桶外に飛散せざる樣、桶の半周を圍繞する爲めに用ふる澁染の荒目麻布にして、高さ7尺3寸、幅9尺2寸あり。

笨仔籠は此麻布を張り立つる支柱にして多くは桂竹仔(Kùi-tek-á =和名タイワンマダケ)を利用す、之本竹は强靭にして保存期の大なるが爲めなり、一笨仔に7本を要す、之を削桶の內側に結び付けたる桶巾(Tháng-pak)に挿入し、笨仔巾(Pún-á-pak=麻紐)にて麻布を縫ひ附くるものとす。

(二) 大桶 Toā-tháng

大桶は穀物の貯藏用なり。(液體用桶類(二)を參照)

丙 中性體用桶類

(一) 飯桶 Pīng-tháng

飯桶は一に飯斗(Pīng-táu)とも稱す、飯櫃にして三種あり、大は口徑1尺2寸、底徑1尺1寸、高さ9寸、厚さ6分、中小は大の寸法より1寸減にして、桶板の厚さは三者相同じきも、桶板の數は大、中各12枚、小10枚あり、其中央部の相對する1對の桶板は、特に上部の3分の1を厚く木取り、外方に突出せしめ、把持に便にす、飯斗蓋(Pīng-táu-kòa)と稱する蓋を附屬品とす。

(二) 炊斗 Chhe-táu

炊斗は殘飯の蒸温に使用する蒸し桶にして、大皷形をなし、口徑1尺1寸5分、高さ1尺、桶板の厚さ3分、桶板の數14枚を有す、上部には炊斗蓋(Chhe-táu-kòa)を附す、下底は割竹にて編みたる炊斗棧(Chhe-táu-chàn)を嵌入せり。

三 桶の構造及組立

以上各種の桶類中、蓋を附屬するものは尠しと雖も其主なる部分は桶板(Tháng-pang=博)、桶底(Tháng-tóe)、桶蓋(Tháng-kòa)及桶箍(Tháng-kho·)の4部よりなる。

桶板は大桶用(挽材)と小桶用(割材)との二に分類せらる、小桶用桶板は其矧合せ面は鉋刀床(正直臺)と稱する長さ3尺乃至5—6尺、の臺に勾配8分の鉋刀を裝置せる鉋の一種にて正し、後ち假箍にて寄せ合せ、內を彎鉋(丸鉋の一種)にて、外部を桶刀(彎曲せる刀にして兩端に把手を附す)にて削る、但し大桶に用ふるものは其矧合面に竹釘を使用す、又桶底を嵌入する部分には內側に淺き溝の缺を附す。

桶底は大小桶の別なく、底板を列べ合せて所要大の徑より少しく大きく圈を畫き、不要の部分を割仔(引き廻し鋸の一種)にて挽き廻はし、矧合面を正し、竹釘を以て矧ぎ合せ、次に底の外周緣の部分を彎鉋にて仕上げて所要の大さとなす、大桶は5—6枚、小桶は3—4枚を矧ぎ合せ、木表を上向にするを要す。

桶箍の多くは割竹製なり、鐵製は桶板の接觸部を腐朽せしめ易きの缺點あるにより特種のものゝ外使用せず。

桶栫は攜桶、尿桶、淋桶等に組込む把手にして曲木又は曲材を利用す。

四 用 材

(一) 桶板(Tháng-pang)及桶底(Tháng-tóe)用材

樹 種

地方名		和名
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
温州杉	Un-chiu-sam	ヲンシユウスギ(新稱)
松梧	Siông-gô·	ヒノキ
紅檜	Aûg-kòe	ベニヒ
亞杉	A-sam	タイワンスギ
白松柏	Pèh-chhêng-peh	ニヒタカトウヒ
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
大葉刺葱	Toā-hiòh-chhî-chhang	カラスザンシヨウ
烏甜	O'-tiⁿ	オホバニンジンボク
面頭粿	Bin-thâu-ké	フウセンアカメガシハ
柯仔	Ko-á	ナガバジヒ

特質及利用地方

福州杉(コウエフザン)は一に杉仔(Sam-á)と云ふ、一見スギに類するも、心材は帶紅黃白色を呈し恰かもヒノキとスギの中間性を帶ぶ、硬度は、スギより稍〻小なるも脆弱性を帶ぶ、木理は通直にして割裂は、スギに比し頗る容易なり、次に著者が實驗せる抗割强(柾目、板目の平均値)の比較成績を表示すれば

樹種別	福州杉（コウエフザン）	日本杉（スギ）	備考
抗割強	100.0	124.4	抗割強は破割荷重と楔の噛ひ込みとの比を以て現したるものにして、表中の數字は福州杉の數値を100として改算せるものなり

の如くにして日本杉の抗割强は福州杉の夫れより約24％大なる計算となる、卽福州杉の割裂容易なるの確證なり、又本材は乾濕の影響する材の伸縮度も比較的に少し、次に著者が日本杉(スギ)との吸水による膨脹率を比較せんが爲め、春秋生材部の比例卽年輪の幅略〻相等しき兩者の心材部の柾板を1週間全く水中に沒入せしめ、其1糎に對する幅の膨脹率を實驗せる結果を表示すれば次の如し

樹種別	日本杉	福州杉	備考
膨脹率	100.0	30.0	表中の數字は日本杉の數値を100として改算せるものなり

本表によれば福州杉の膨脹率は日本杉の100分の30に過ぎず、此結果は材を組成する細胞膜壁の薄きに起因するは勿論なるが、又一因としては含有主成分卽ちセドロール(Cedrol = $C_{15}H_{26}O$)の存在するが爲め、吸水を防止するが故なるべく、又此揮發性分の存在は保存期卽ち耐水、耐白蟻性の大なる所以なり、故を以て大小を問はず桶類は殆ど本材を使用せざるはなし、殊に菁桶、大桶、揀桶等の如き大形物は、本材の二層材（半面白太にして半面赤身のもの）のみを選用す、元來二層材は著色良好にして且つ乾燥の爲め收縮差狂を生せざるにより、液體漏洩の虞れなしと云ふ、又該木の辨甲材（邊材）は外觀、良好ならざるのみならず、材質軟く保存期短きを以て水濕に餘りに關せざる桶蓋に使用す、桶底板には水濕の關係上心材のみを選用す。

福州杉の優良材の產地として人口に膾炙せらるゝは福建省北港方面の頂四府の仁化及宮仁の二府管內竝油縣等の各地にして該地方產のものは木理齊整、工作し易く、心材部大にして總て赤褐色若くは淡赤

褐色を呈し、肌理緻密にして、水分の吸收力少く、爲めに乾濕に强しと稱せらる。

溫州杉は一に廣東杉(Kúg-tang-sam)とも云ふ、南支產にして溫州又は廣東省柘林地方より輸入せらる材質、色澤、日本產スギに酷似す、本樹の學名は(Cryptomeria Kawai *Hay*?)なるべし（第六の四の(一)棺柴用材溫州杉參照）年輪粗大にして生長速かなるものゝ如し、保存期永からずと雖も、尺餘の大材多きを以て大形桶類中の揀桶に使することあり。

以上二種の支那輸入材は、民族的の慣用材にして、從來大量の消費をなしたるものなるが、營林所材たる檜類卽ち臺灣の市街地方言の松梧(ヒノキ)の供給潤澤となり、且つ近來材價の遞減するに及んで、前記の支那產材は著しく其需要を減少するに至れり。

松梧(ヒノキ)は臺中州下の竹山地方にては樹皮厚きにより厚殼(Kāu-khak)と云ふ、質緻密にして帶紅黃白色を呈す、木理通直なるも多くは老大木なるを以て年輪の幅廣く、其柾目は所謂絲柾にして外觀極めて優美なり、材には特種の芳香あり、保存期永きも乾燥するに從ひ小割れを生じ易し、然れども著色は固より仕上良好なるにより賞用せらる。

紅檜(ベニヒ)は竹山地方にてヒノキの樹皮の厚きに比し薄きにより薄皮(Poh-phê)と云ふ、材質は前者に類似するも材は紅色若しくは黃色を呈し鉋削、割裂共にヒノキよりも容易なり、材には俊烈なる芳香を有し、保存期永く耐水性はヒノキより大なるが上に乾燥による干割れを生起することも亦尠なきにより尤も賞用せらる。

是等の所謂厚殼、薄皮と稱するものは、營林所材の上市せざる以前今の臺中州竹山郡鹿谷庄方面又は東勢郡下の山地よりは、古くより山挽材を數箇分一束とし、一種の桶丸として、各地方に搬出せりと云ふ、其數量の如き、固より大ならざるは勿論なり、然れども竹山地方の如き今尙ほ、南は斗六、虎尾方面より、北は員林地方を販路區域として之を供給し

つゝあり、同地方產の桶類名稱別及桶板の結束法は次の如し。

桶類名稱別	桶板の結束單位	備考
水桶 Chúi-tháng	六箇分一束	桶類の名稱は同地方の方言にして本項記載の桶類名稱とは稍〻異るものあり、
腰桶 Io-tháng	三箇分一束	
厚宜 Kaû-gî	〃	
淺桶 Chhián,tháng	六箇分一束	
碗斗 Oáⁿ-táu	〃	
薄宜 Pôh-gî	三箇分一束	
拔桶 Poat-tháng	六箇分一束	
尺八脚桶 Chhioh-poeh-kha-tháng	〃	
二尺脚桶 Nīg-chhioh-kha-tháng	〃	
露水桶 Lō·-chúi-tháng (＝掟桶)	〃	
稻桶 Ti -tháng (＝削桶)	一箇分一束	

既に前述せるが如く、近來營林所材の潤澤なる供給に伴ひ、刳材又は屑材の利用、旺盛を極め、地挽として到る處の山脚の小邑と雖も、紅檜、松梧材を見ざるはなきに至れり、是等の傾向は木材の利用變遷を明示する一例として閑却し得ざる點なりとす。

亞杉(タイワンスギ)とは營林所材名にして、臺中州下の竹山及臺北州下の羅東地方に於ては松羅(Siông-lô)と云ふ、本材は色澤の濃淡によりて、紫亞杉、紫黃亞杉、黃亞杉等の呼稱別あり、材は極めて割裂し易し、著者の實驗によるベニヒとの抗割强(柾目、板目の平均値)の比較を表示すれば

樹種別	紅檜	亞杉	備考
抗割强	100.0	91.9	抗割强は破割荷重と核の喰ひ込みとの比を以て現はしたるものにして、表中の數字は紅檜の數値を100として改算せるものなり

の如くにして、亞杉は紅檜よりは約8分內外小なる計算となる、加工も亦比較的容易なり、其水中に於ける保存期は大なるも、乾濕交代する場合に使用せらるゝ桶板には十全ならざるが如し、是本材は乾濕の影響する伸縮作用、比較的に大なるを以て、桶板間に隙を生ずるの缺點あるが故なり、然れども前述の如く常時の湛水桶類には良好なりと云ふ。

白松柏(ニヒタカトウヒ)は竹山地方にては松羅杜(Siông-lô-tō·)と云ふ、材は一見トガに類す、無味無臭にして、耐白蟻性は小なるも、耐水性は稍〻大なるが故に桶板に使用せらる、本樹は中央山脈7,000尺以上の高地に分布するが故に、容易に伐採して搬出し得べきものにあらざるも、夏期の暴風雨毎に流出する、所謂、流散材を利用するものにして、多くは中央山脈に源を發する諸大溪の下流地方、卽ち西部に於ては臺中州下の竹山、東勢、新竹州下の大溪、三叉、東部に於ては花蓮港廳下の玉里等の如き各地方にて利用せらる。

日本杉(スギ)は福州杉に比し、保存期短しと稱せらる、故に一般の需要者は賞用せざる傾きあるも、桶製造者は死節少なく、幅廣きを以て矧ぎ合せの勞を減じ得ると稱し、內地移入の板割材を使用し、脚桶其他の大形桶の桶底に利用するものあるも、其數固より大ならず。

大葉蔥(カラスザンショウ)とは北部の呼稱にして、南部の恒春地方にては蔥江某(Chhî-kang-bó·)と稱す、材は邊心材の別なく淡黃白色を呈し光澤あり、割裂、加工共に頗る容易なり、「材は腐敗を防止するのみならず、一切の邪氣を拂ふ」との傳說あり、故を以て飯桶に賞用せらる。

烏甜(オホバニンジンボク)は是又「飯桶に使用すれば飯粒は容易に腐敗せず」と云ふ傳說あり、羅東地方にては一名蒜仔(Môaⁿ-á)とも云ふ、材は帶灰黃白色又は灰白色を呈す、加工は大葉蔥に比すれば稍〻難し。

面頭粿(フウセンアカメガシハ)は黃白色を呈し、導管は散孔性なるも數少し、質は輕軟中庸にして無臭且つ「飯粒を粘著せざる特徵あるにより、南部にては飯桶に使用することあり。

柯仔(ナガバシヒ)は阿里山沿道の山邑にて脚桶に使用せらる、保存期大ならざるも、木理通直にして割裂し易く加工も差して困難ならずと云ふ。

(二) 桶箍(Tháng-kho·)用材

樹 種

地方名		和名
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
䕷竹	Chhì-tek	シチク
長枝仔竹	Tûg-ki-á-tek	チョウシチク

特 質

小桶類には**桂竹仔**(タイワンマダケ)を、大桶類には**䕷竹**(シチク)、**長枝仔竹**(チョウシチク)を利用す、前者は稈圍、稈長小なるが爲にして、後の兩者は長大にして、長物を得るに便なるが爲なり、何れも皮目强靭にして彎曲性に富み、分割し易きを利用す、保存期は桂竹仔最も大にして䕷竹、長枝仔竹は之に及ばず。

(三) 桶枋(Tháng-niû^{n})用材

桶枋は耐水性大なること、强靭にして容易に缺損せざること、屈撓性に富むこと等を要件とす。

樹 種

地方名		和名
樟	Chiu^{n}	クスノキ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエウザン
日本杉	Jit-pún-sam	スギ
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク
桶鈎藤	Tháng-kau-tîn	シマクロウメモドキ

特質及利用地方

樟(クスノキ)は曲材又は木纖維の錯綜せる部分を賞用す。

福州杉(コウエフザン)、**日本杉**(スギ)、は徑8—9分乃至1寸2—3分までの小枝を利用す。

茅茹竹(モウソウチク)は他の竹類に比し、稈肉厚く、皮目堅靭にして、保

存期永きを利用す。

桶鈎藤(シマクロウメモドキ)は小灌木にして材は邊材は黃白色、心材は黃色を呈し柔靭なり、幹は屈曲するを常とし、多くは他の雜木又は岩石上に纏匍す、普通直徑は2—3寸內外にして枝條は能く20—30尺に達するものあり、南部の恒春地方にて攜桶枋(同地方にては桶鈎と云ふ)に利用す、桶鈎藤の名ある所以なり。

材料の處理

大桶用桶板の二層材は內地に於ける吉野地方の酒樽、搏の甲付に類似するものにして其處理法も殆ど相同じ。

桶板の多くは地挽にして挽材(大桶用)は定長の丸太を鋸にて挽き、木表を外向にす、一般に邊材部(白肌)は心材に比し、輕軟にして水分を吸收し易く、從ひて腐朽すること速かなり、又木裏は木材の通有性として、木表に反張するの性質を有するを以て、乾濕の二現象の影響する材の伸縮度の大は桶板又は桶底の刻目に目漏を生ずるが故に、木裏を內向けに製作するものとす。

小桶用割材は丸太を定長に鋸斷したるものを、先づ割り型の彎割刀(型に合はせ、刀身を彎曲せしめたるもの)にて外周より割剝し、木裏を內向けにせざる可らずと雖も、木表は脂分の多き堅硬なる秋材部顯はれ着色不良なる爲め需要者は一般に嫌忌するの傾向あるにより、製作者は總て木裏を外向に製作す、而して其荒取り桶板は何れも風通良好なる箇所に棧積に積み上げ、數箇月間風雨に曝露したる後、貯藏場に收めて陰干とす。

桶箍用材たる竹材は、伐採の季節及原料の選擇に重きを置く、竹齡は2年以上の竹稈の通直にして、生長、完滿なるものならざるべからず、否ざるものは折損又は腐朽し易きの缺點ありて、割竹其他の操作に支障少ならず、伐期は白露(陰曆8月14—15日前後)の候を以て好時期とす、本季節に

於て伐採したるものは、蟲蝕の被害尠しと稱せらる。

桶梜用材は山間農民が副業的に製作するものにして、福州杉(移植品)、日本杉(移植品)の枝打材を利用す、3月頃、樹液の活動を始めたる頃に枝打をなし、適大のものを選びて樹皮を剝ぎ、文火(トロビ)にてU字形に燒き曲げをなし、藤蔓又はイチビにて結縛を施し、10本を、1束として搬出す。

茅茹藤(モウソウチク)は箍用材と同じく白露の前後に代採し定寸に荒割りをなす、曲面操作、製品の結束等は前者と同樣なり。

桶鈎伐(シマクロウメモドキ)は幼年木の母指大のものを伐採し、樹皮を剝ぎ去り、曲輪となして乾燥せしむ。

附 桶梯(タアントウイ)(Tháng-thui)用材

桶梯は稻束の打擊、摩擦を受くるを以て、之に堪ふる材質の堅硬にして靭性あるものを要件とす。

樹 種

地方名		和名
相思仔(シウシイア)	Siu-si-á	サウシジユ
九芎(キユキヨン)	Kiú-kiong	シマサルスベリ
雞油(クエイウ)	Koe-iû	タイワンケヤキ
赤皮(チヤペエ)	Chhiah-phê	イチヒガシ
石苓(チヨリエン)	Chiôh-lêng	ゲツキツ
楠仔(ラムア)	Lâm-á	オホバタブ
楓仔(ブンア)	Png-á	フウ
荊竹(チイテク)	Chhî-tek	シチク
茅茹竹(バーリーテク)	Bâ-lî-tek	モウソウチク

特質及利用地方

相思仔(サウシジユ)は中北部及び南部の恒春地方に使用せらる。

九芎(シマサルスベリ)は全島的に利用するも、特に東臺灣に於ては餘

他に使用せらる。

雞油(タイワンケヤキ)は西部に於ては新竹州及臺中州下の東勢郡、東部に於ては花蓮港廳下の南部、臺東廳下の北部地方にて使用す。

赤皮(イチヒガシ)は中部以北にて多く利用せらる。

石苓(ゲツキツ)東臺灣に於て使用せらる。

楠仔(オホバタブ)及楓仔(フウ)は前記の各樹種に較ぶれば、堅靭の度は及ばざるも、容易に割裂せざるを以て、代用材として前記の各樹種を得難き地方にて利用せらる。

以上の各樹種は桶梯頭、桶梯柱、桶梯牽の各部に使用せらる。

荊竹(シチク)は稈肉厚く、强靭なるを利用し、桶梯枳に使用し、茅茹竹(モウソウチク)は臺中州竹山郡下及新竹州下北埔、新埔地方、臺南州嘉義郡下の竹崎、交力坪(カラビン)地方に於て前者と同樣に使用す。

第一〇 槓(Kòng =棒)類用材

槓類の意義　槓類とは棒類の謂ひなるも玆に述ぶる槓類とは道具の臺及柄のうち長き堅硬なる木材を用ふるものを主として其他二三の短柄を含む卽ち各種の道具臺、槌類、柄類、櫓類、楔類、滑車殼、拆木等を總稱す。

一 道具の柄用材

材は堅硬にして挫折、壓迫、衝突、摩擦等に對して抵抗力あるを要件とす。

(一) 鉋刀床 Khau-to-chhng

第一〇の三、製木道具用材(四)に併記す。

(二) 打砧

第一〇の四、打鐵用具用材に併記す。

(三) 槌(Thûi)類

種類　綿弓槌、紙槌仔、轢槌、手轢槌、圓轢槌、槓槌仔、洗衣槓槌等にして、槌頭(Thûi-thâu)は總て木製のものを稱す。

(イ) **綿弓槌**は第二四、打綿道具用材に併記す。

(ロ) **紙槌仔**は第一〇の二、金銀紙製作道具用材に併記す。

(ハ) **轢槌、手轢槌、圓轢槌**等は第七の七の(一)粿模用材、附屬具用材に併記す。

(ニ) **槓槌仔**は第一三、油車用材に併記す。

(ホ) **洗衣槓槌**は第六の六、(ロ)洗衣板の附に併記す。

(四) **麵槌仔**　Mi^{n}-thûi-á 及　**圓槌仔**　Î^{n}-thûi-á

二者共に大麵(麵類)、打ちの用具にして麵槌仔は(三)の槌類とは其形狀を異にし等しく槌仔と稱するも、其實丸棒にして徑2—3寸、長さ5尺—5尺5寸を普通となす、本具は大麵板(第六の六、イの(四)參照)の上に原料の粘塊を載せ、棒の先端を層壁(煉瓦壁)又は柱仔(柱)の嵌入孔に挿入し、他端に馬乘りに跨りて下方に壓し、其彈力を應用して上下に動かしつゝ粘塊を壓展し、漸次に廣き薄片となし一定に達すれば、圓槌仔と稱する徑1寸2—3分乃至1寸5分の正圓の削り棒を中心として之を卷き、了れば棒を引き、拔き前と同樣に壓展し、適大に達すれば之を展開して、又之を圓槌仔に卷き、前と同樣の操作を繰り返すこと3—4回に及び漸次に擴大するに從ひ長短の棒を取り換へ、原料が所要の厚さに達すれば之を疊みて長き棒狀となし、之を細切して大麵となす、圓槌仔の長さは6尺、8尺、10尺を定尺となす。

用材樹種　麵槌仔は材の彈性と肌理の緻密にして滑澤あるを要件とす、之上下動をなすには彈力の必要あるが爲めにして肌理の滑澤は原料の粘著せざるが爲なり、大頭茶(Toā-thâu-tê＝和名タイワンツバキ)を利用し丸太のまゝ多少の鉋削を施して使用す、圓槌仔は堅靭にして抗折强と滑澤とを要し赤皮(Chhiah-phê＝和名イチヰガシ)を使用す。

(五) **柄　類**

(イ) **斧頭柄**

第二三、農具用材一〇、各種農具把柄用材に併記す。

(ロ) **各種農具の把柄**

前　同

(ハ) **搗杵柄**

第一六、搗舂及搗杵用材に併記す。

(ニ) **鋸仔把柄**

第一〇の三、製木道具用材の(三)に併記す。

(ホ) **鑿仔柄**

前同の(七)に併記す。

(ヘ) **菜刀柄**(Chhài-to-pi^{n})

菜刀とは庖丁の謂にして柄は主として松柏(Chhêng-peh＝和名タイワンアカマツ)を使用す、是本材は刀の中子の嵌入部を保持する力大にして燒き嵌め後、決して動かず、又耐水性大なるを以て保存期永しと稱し賞用せらる。

(六) **桶　桮**

第九、桶類用材に併記す。

(七) **櫓、槳、擢**

第二の(一)木造船の二、船具用材の(ヘ)に併記す。

(八) **槳　砧**

前同の(ト)に併記す。

(九) **屈　手**

第二の(二)竹筏用材の二、附屬具用材(ハ)に併記す。

(一〇) **淨仔、罎仔**

第一三、油車用材に併記す。

(二) 珈霎殼

第八、車枳用材の(九)に併記す。

(三) 拍

第六樂器用材の(一)明清樂器の(ト)に併記す。

二 金銀紙(Kim-gûn-chóa)製作道具用材

總說

本島人は廟寺に參詣することを燒金(Sio-kim)と云ふ、これ參詣には必ず金紙(Kim-chóa)を携へて神佛前に燒化し、冥福を祈るによる、燒金は內地の賽錢に相當す、金紙の外に銀紙(Gûn-chóa)あり、一家の亡きものゝ祭(凶祭)葬式等に用ふ、燒金の風習の起源は明ならざれども、支那にては2000年前より行はれたるものゝ如し、元來、金銀紙は錢の形に象りしものにて、鬼神の貨幣に寓したるもなりと云ふ、蓋し普通の貨幣は神佛に捧げ、故人に致さんには天高くして重量のため運ぶこと能はざるも、之を燒化せば煙となりて送達することを得ると云ふ迷信より來りしものなりと云ふ。

金、銀紙は粗紙と稱する黃色の竹紙を長方形に截ちたるものゝ中央に錫箔を糊附(布海苔にて)したるものにして、金紙と云ふは、右の箔に金藥を塗り、周りに雲形其他の模樣を印刷したるものなり、銀紙は錫箔そのまゝにして普通、模樣の印刷もなし、金紙、銀紙にも各種別ありて形狀寸法を異にし其使用途も亦略〻一定す。

金、銀紙を燒化するには寺廟にありては金爐(煉瓦にて組立てたる火爐)又は金鼎(鐵製の鍋)の設けあれば、之に點火して投入す、點火するには一枚づゝ叮嚀に燒くもあり、又は一束を扇形に擴げて一端より點火するもあり、戶每に燒火するには金爐(鐵鍋型)にて行ふか又は門口の地上に置きて點火す、墓前に於ても地上にて點火す、若し箔に損所あるものあらば、其銀は陰間に通用せずとし、2組以上を燒くもの多し。

今臺灣に於ける確的なる金銀紙の消費額は統計の據るべきものなきも原料及製作費竝取引商人の利得等を通算すれば、消費者の年々燒化する金額は數十萬圓を下らざるべし。

金銀紙の製作は業主が粗紙(竹紙の一種にして上等品は對岸の輸入品に俟ち、普通品は臺灣產を使用す)と錫箔とを適宜の大さに切斷して、之を內職とする女工の家に送る、工女は布海苔を煮篦にて錫箔を貼り附く、金紙は更に其錫箔の上に金藥(金藥は多く液として輸入す)を塗り更に仕上げの模樣印刷を施す、印刷濟みの紙は之を取揃へ菊目石を以て緣を摩り磨き、20—50枚(中には100枚のものもあり)每に一隅に孔を穿ちて綴る、之を一只と云ふ、各綴は更に重ねて20只を一千、五千を一枝といふ、一枝每に各製造所の商標を印刷して其工程を終はり以て商品となす。

製作道具の用途及構造

種類 銀紙砧(Gûn-chóa-tiam)、紙槌仔(Chóa-thûi-á)、銀紙枋棚(Gûn-chóa-pang-pîⁿ)、挾板(Geh-pang)、紙辨(Chóa-pān)、紙刀(Chóa-to)、箔貼刷(Poh-liâm-soeh)等あり。

(イ) 銀紙砧は丸太の胴切にして其橫斷面の木口を使用す、卽ち粗紙の整形に使用する截ち臺なり、大さは資木により大小一定せざるも無節のものを要件とし、其直徑は2尺內外なるを普通とす。

(ロ) 紙槌仔は一種の手槌にして圓錐形をなせる短柱なり、高さ1尺、直徑5寸5分、上端の直徑2寸5分、中央に長さ5寸、徑1寸7分の把柄を嵌入す、紙刀の打擊用なり。

(ハ) 銀紙枋棚は金銀紙の調整臺なり、長さ5—7尺、厚さ1寸、幅4尺の板3枚を1組とし、2箇の馬椅(Bé-í)を附屬具とす、板を載する臺脚なり、馬椅は椅面(Í-bin)と椅脚(Í-kha)とよりなる、高さ3尺、椅面は長さ4尺、幅4寸、厚さ1寸5分、4脚を有す。

(ニ) 挾板は長さ2尺2—3寸、厚さ7分、幅7寸、の板2枚よりなる、粗紙

に錫箔を貼附したるものを挾む板なり。

(ホ) **紙辨**は金銀紙の大さの標準尺度にして、種類によりて其太さを異にす。

(ヘ) **箔貼刷**は錫箔を貼附する樹皮製の糊刷毛なり。

用材

樹種

地方名		和名
楓仔	Png-á	フウ
樣仔	Soāi^{n}-á	ソヤ
校欅	Káu-chàn	アラカシ
楠仔	Lâm-á	オホバタブ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
桂竹仔	Kùi-tek-á	タイワンマダケ
破布子	Phòa-pò'-chí	カキバチシヤノキ

特質及使用部分竝利用地方

凡て銀紙砧としての要件は紙刀の刀及を損傷せざること、切傷せられたる材部は、可成原形を保持して缺損の少なきものなること等にして楓仔(フウ)の横斷面は如上の要件を具備するものとして賞用せらる、是本材の導管は直徑方向に30—80ミユー(1ミリの1000分の1)、切線方向に30—65ミユーの大さを有し其1平方粍米突の單位面積内に於ける數は110—130箇を算するが如く、導管の分布密度は頗る大にして、肉眼にては明瞭ならざるも、ルーペを使用するときは海綿狀に相隣接せる無數の導管の斷孔を明かに認め得べし、刀及の損せざるは卽ち之が爲にして、薄刀の切り込みし跡の如きは、容易にその損傷部を認め難し。

樣仔(ソヤ)は生木のときは、樹皮を傷くれば鮮黃色の樹液を分泌し、材又た帶灰黃褐色を呈す、故を以て本材を使用すれば金銀紙の臺紙たる

粗紙の黃色をして一層濃厚ならしむるとの俗說あるも固より信ずるに足らず、尙ほ本材の材柔細胞は年輪方向に帶狀をなし又は撒布するを以て刀及を損傷すること比較的に尠し、中南部地方にては本材を使用するも其の特質は楓仔に及ばず。

校欅(アラカシ)は材質堅硬にして、木纖維錯綜せるため刀背と相擊つも容易に損傷缺裂せざるが故に、槓槌仔に賞用せらる、之材の縱斷面に於ける髓線の高さは他のカシ類の夫れに比し低く、數多く且つ幅廣きがため、他の細胞組織は相互に錯綜するがためなり、大材の內部に存在する特有の黑條(俗に鳥花と云ふ)の部分は材質、特に堅く打擊に應ずる反撥力、大にして、粗紙の切れ味、良好ならずと云ふ、故に職人は之を忌む。

楠仔(オホバタブ)は大材多く、價格又低廉なるにより各地方にて銀紙板棚に使用す。

福州杉(コウエフザン)は質稍〻輕軟なるも、差狂を生ずること尠きを以て挾板に使用す。

桂竹仔(タイワンマダケ)は紙辨に利用す。

箔貼刷には**破布子**(カキバチシヤノキ)の樹皮を專用す、之本樹の皮は厚く且つ纖維質に富み、其質は剛柔中庸にして、薄き錫箔の貼附に際し破損を出來せざるの特質あるが爲なりと稱せらる。

材料の處理

銀紙砧の適材たる楓仔は伐採後2—3年間、水浸して樹液の溶出せるものは保存期永しと稱す。砧面は切込みの度數を重ねるに從ひ漸次に荒れ、操作に支障を生ずるに及べば、3—4分位、斧頭にて削り鉋削を施して面立をなし、落花生油を塗る、之紙槌仔にて打込まれたる紙刀の刀を容易に拔き取ることを得るがためなり。

箔貼刷は破布子の樹皮を剝ぎ、適當の大さに木取り、其の一端を一晝夜、米の磨き汁の中に浸し、刷毛の部分を叩きて、纖維の結束を碎き、更に

針にて纖維を分割して梳き拔く。

三 製木(Chòe-bák)道具用材

總 說

製木とは大木(Tōa-bák＝建築大工)と小木(Sió-bák＝指物大工)との總稱なり。

種類 墨斗(Bák-táu)、魯斑尺(Ló'-pan-chhioh)、鋸仔柄(Kù-á-pi^{n})、鉋刀床(Khau-to-chhûng)、索錐(Lak-chûg)、斧頭柄(Pó'-thâu-pi^{n})、鑿柄(Chhák-pi^{n})、馬椅(Bé-í)、

(一) 墨斗(Bák-táu＝墨壺)

用途及構造

墨斗は墨壺の呼稱なり、其構造は內地の夫れと大同小異にして其各部は墨斗胴(Bák-táu-tâng)、墨斗車(Bák-táu-chhia＝絲車)よりなり、墨斗胴は更に墨斗池(Bák-táu-tî)と墨斗車殼(Bák-táu-chhia-khak)よりなる、墨斗胴は雲形(Hûn-hêng)、双慶牌(Siang-khèng-pâi)、雛虎(Chhu-hó')等の形狀あるも使用者により更に大木(大工)用、打石(石工)用、土師(左官)用等に區別せらる、大木用は絲の長さ數間に達する絲を卷き付くるが故に墨斗車の車輪は大なり、土師用のものは柱の隅々に絲を張る必要あるが故に出絲口は細長く尖る尖頭(Chiam-thâu)又は猪頭(Tu-thâu)と稱す、打石用のものは石片の爲め絲車の損傷するを防ぐため無頭車(Bô-thâu-chhia)卽ち隱車となす、車輪も亦長き絲を要せざるを以て其車輪の徑は小なり。

用 材

材は堅硬にして吸水性小に、且つ割裂し難きこと卽ち吸濕によりて、伸縮割裂を生せざるもの適當す。

樹 種

地方名		和名
雞油	Koe-iû	タイワンケヤキ
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
樟	Chiu^{n}	クスノキ

龍眼	Gêng-géng	リユウガン
相思仔	Siu-si-á	サウシジユ

特質及使用別竝利用地方

雞油(タイワンケヤキ)は適材として尤も賞用せらる、是李理美なるのみならず、彫刻し易きを以てなり、總て雞油は黃雞油よりも紅雞油良好なりと云ふ、是黃雞油は材質紅雞油に比し堅硬なるも狂ひ易しと云ふにあり、(第161頁、附 臺灣產、雞油材の各種材質の比較參照)全島的に使用せらる。

烏心石(ヲガタマノキ)は堅靭にして保存期大なる外、容易に割裂を生せず、且つ彫刻し易く、吸水性も亦た小なり。

樟(クスノキ)は耐水性强く、割裂を生せず又彫刻を施し易し。

龍眼(リユウガン)は材質堅硬にして、木纖維交錯し、繩目多く爲めに割裂を生じ難く、吸水及伸縮性も亦比較的に小なり、南部地方にて各種の墨斗に利用せらる。

相思仔(サウシジユ)は材、堅硬にして割裂し難く、吸水性小に差狂も亦比較的小なるにより、打石及土師用として中北部地方にて利用せらる。

材料の處理

雞油の邊材は反張割裂比較的多きを以て、心材部のみを使用す、木取りは柾目取りを良好となす、之差狂割裂少なきが爲めなり、柾目取りのものは環狀に排列せる導管の存在の爲め水の引き早しと稱するも、墨斗池の內圍には漆塗を施すを以て其恐れなしと云ふ、材は充分に乾燥したるものを使用す、荒木取りは兩側に型板を當て型を畫きて彫製す、多くは使用者の手製なり。

墨斗車は胴の共木を使用するも、多くは差狂少なき柾目取りにて製作するを常とし、鏡工となすものあるも多くは手製となす。

(二) 魯斑尺 Ló'-pan-chhioh

用途及構造

魯斑尺は支那木匠に祖神と仰がるゝ魯斑公の創始に係かるが故に名稱爾るなり、曲尺と木曲とを折衷せるが如き形狀を呈し、其用途も兩途に使用せられ、多くは小木(指物大工)に使用せらる、然れども今は內地製曲尺の流行により、之を使用するもの尠し、其各部は尺母(Chhioh-bú)と尺尾(Chhioh-bé)とよりなる、尺母は木製にして長さ8寸、幅7分、厚さ5分あり、表面には骨片を貼附し、之に度盛を刻み、尺尾は竹製にして長さ1尺、幅7分、厚さ2分あり。

用材

樹種

地方名	和名
赤皮 Chhiah-phê	イチヰガシ
茅茹竹 Bâ-lî-tek	モウソウチク
桂竹仔 Kùi-tek-á	タイワンマダケ
松梧 Siông-gô·	ヒノキ
黃杞 Ng-kí	フヂバシデ
楠仔 Lâm-á	オホバタブ

特質及使用部分

赤皮(イチヰガシ)材質堅硬にして乾濕による伸縮の二現象比較的小にして、貼臺に適するにより、尺母に使用す。

茅茹竹(モウソウチク)は質堅硬にして彈力に富み、皮目緻密にして伸縮度極めて小なるを利用し、尺尾に用ふ。

桂竹仔(タイワンマダケ)は前者に比すれば、稈圍小なるも、節低く節間長く、皮目は光澤を有し、目盛りをなすに容易なり、故を以て同樣に尺尾に使用す。

松梧(ヒノキ)は材質通直緻密にして伸縮極めて小なるにより尺母に使用せらる。

黃杞(フヂバシデ)及び楠仔(オホバタブ)は彈性に富むを利用し尺尾に使用することあり。

材料の處理

竹は岩石多き瘠地に生じたるものを可とす、之れ皮目堅硬なるが爲にして、竹齡は滿3年生以上5—6年生を可とす、竹の伐採期節は舊八月を好期となす、之蟲害少きが爲めなり。

(三) 鋸仔柄 Kù-á-pì[n]

用途及構造

鋸仔(Kù-á)とは鋸類の總稱にして、鋸齒の方向は內地の夫れと反對の方に向ひ、力を加ふるには前方に押す、其形狀は彼の蔓掛鋸に類し、硬木を挽くに際しては摩擦を減少し得る特徵を有す、橫挽、縱挽等の區別によりて齒の構造及齒根の廣狹を異にす、其主なる種類を擧ぐれば、鋸仔(Kù-á)、割仔(Koah-á)、彎鋸(Oan-kù)(以上小形)、料鋸(Liâu-kù)、大料鋸(Tōa-liâu-kù)、斬鋸(Chám-kù)、大斬鋸(Tōa-chám-kù)、猪母乳鋸(Tu-bú-lin-kù)(以上大形)、手鋸(Chhiú-kù)、銅線鋸(Tâng-sòa[n]-kù)(以上特種形)等の如し。

其構造は種類により多少の差異は免れざるも大同小異にして、其各部は鋸板(Kù-pán)、鋸手(Kù-chhiú)、鋸弓(Kù-keng)、鋸牽(Kù-khian)、鋸乳(Kù-lin)等よりなる、鋸板は鋸刃にして、鋸牽は鋸の種類により木製と鐵製との二種あり、前者は小形鋸仔に、後者は大形物に限らる、2箇の鋸手の一端を連結緊張す、鋸乳は小形鋸仔にのみに附するものにして傘の裂開せざる松茸の如く、一端に饅頭形の突起を有し、二の鋸手の一端を內方に貫通して、鋸手の雙方より鋸板を挾定し、其突起部にて支持しつゝ鋸牽に對應して緊張す、大形鋸仔の鋸板の兩端は環狀をなし直接、鋸手に嵌入す、卽ち鋸板と鋸牽は同長にして、例へば鋸弓は矩形の相對向する短邊の中心點卽ち鋸手の中央部を支張し、鋸板の張り具合を調節して、所謂鋸仔を構成する中心軸をなす。

(イ) 割仔(Koah-á)は一人挽きの縦挽にして小木(Siô-bák)卽ち指物大工及大木(Tōa-bák)卽ち建築大工用なり。

(ロ) 鋸仔(Kù-á)は横挽にして使用途は前者に同じ。

(ハ) 彎鋸(Oan-kù)は廻挽の一種にして、鋸板の幅は極めて狹し、小木用なり。

(ニ) 料鋸(Liâu-kù)及大料鋸(Tōa-liâu-kù)は2人挽にして幅廣の大板を挽割するに使用せらる、料柴司阜(Liâu-chhâ-sai-hū)卽ち木挽用なり、長さは普通4尺以上なり。

(ホ) 斬鋸(Chám-kù)、大斬鋸(Tōa-chám-kù)は前者と同樣2人挽きにして焙仔(Phōe-á=臺北地方の方言)を挽くに使用す、焙仔とは桷仔(Kak-á=濟類)又は角材(Kak-châi)を造材する資料丸太を總稱す。

(ヘ) 猪母乳鋸(Tu-bú-lin-kù)は米國風の鋸齒なるも彼の3小齒なるに比し1鋸齒の先端は2箇の小鋸齒に分る、其狀恰かも猪又は豚の乳房に髣髴たるものあり、猪母乳房の名ある所以なり、本鋸は横挽にして丸太の横斷のみに使用せらる、2人挽きなり。

(ト) 手鋸(Chhiú-kù)は前述の鋸仔類とは稍〻趣を異にし、彼の背金鋸の一種なるも、背金の代はりに木製の厚さ4分、長さ8寸の庖丁形(把手部は下方に彎曲す)の背板を有し、其刀刃に相當する部分は兩側より幅5分の勾配面を附し、中央部は縱に二折りの薄き鐵板を嵌入し、之に鋸刃卽ち鋸板を嵌入す、多くは小木用にして、蟻溝を堀る場合に使用す。

(チ) 銅線鋸(Tâng-sòa^{n}-kù)は外觀粗笨なるも頗る要領を得たる弓形の絲鋸にして、絲鋸機と同じ目的に使用せらる、其大さは種々あるも長さ1尺5寸ー2尺のもの尤も普通なり、其各部は鋸弓と鋸刃たる針金及其固定金具たる銅線鋸頭よりなる、針金は眞鍮製にして一端は鋸弓に卷き附け、他端は銅線鋸頭にて張力を調節しつゝ固定す、鋸齒列は一定の制限なく、針金の周圍に同一方向に勾配を持たせて鑿にて切り刻む、銅線鋸の名ある所以なり、鑿花司阜(Chhák-hoe-sai-hū)卽ち彫刻師用にして

透彫、象嵌等の素地挽に使用し、山水、人物、花鳥等其方向に從ひ屈曲巧に挽き廻はし、使用の跡は頗る精巧なり。

用材

鋸手は抗折强を、鋸弓は彈性及抗壓强を、鋸乳は抗剪强を、鋸牽は抗伸及抗剪强の大を要件とす。

樹種

地方名		和名
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
稠仔	Tiû-á	ホソバシラカシ
校樻	Káu-chàn	タイワンアカガシ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
雞油	Koe-iû	タイワンケヤキ
油葉茶	Iû-hiôh-tê	ヒサカキ
紅木	Aûg-bók	———
梨	Lî	———
茅茹竹	Bâ-lî-tek	モウソウチク

特質及使用部分竝利用地方

赤皮(イチヰガシ)は堅硬にして負擔强及抗剪强竝に抗伸强共に大なるを以て、鋸手、鋸牽及鋸乳等に賞用せられ、稠仔(ホソバシラカシ)を代用材となす、南部地方に於ては赤皮の分布なきを以て校樻(タイワンアカガシ)を使用すること少からず、今參考のため是等三者の諸强度を比較すれば次の如し(本成績は著者の實驗による)

樹種名	負擔强	抗剪强	抗伸强	備考
赤皮(イチヰガシ)	100.0	100.0	100.0	表中の數字は赤皮の數値を100として換算したるものなり
稠仔(ホソバシラカシ)	114.6	93.5	120.9	
校樻(タイワンアカガシ)	81.5	88.7	109.2	

本表によれば赤皮の負擔强は校檳に優り、稠仔には劣る、然れども抗剪强は最も大きく、反之抗伸强は他の二者より少なるに拘らず、最も賞用せらるゝは赤皮が髓線小にして材の狂ひ少なく本島產カシ類中最も優良なるものにして、加工も他のカシ類に比し容易なるが故なり。

福州杉(コウエフザン)は內地スギに比すれば稍〻輕軟なるも彈性に富み、鋸手の支張力は內地スギよりも大なりとして鋸弓は殆ど本材に限り使用す、是內地スギは柔靭性大にして、彎曲を生じ易く鋸手の支張には適せずと稱せらる、總て木材の接着安定は硬度の異りたるものを要件とす、これ福州杉が鋸弓として前記の要件のみに止まらず、本材の適材とせらるゝ所以なり。

雞油(タイワンケヤキ)は立地其他の關係によりて工藝的性質に差異を生じ、其呼稱も自ら異なる、就中最も賞用せらるゝは黃雞油(Ng̃-koe-iû = 第五車輛用材の二、牛車用材の附、臺灣產雞油材の各種材質の比較、參照) なりとす、本材は材質最も堅硬にして抗折强、抗剪强共に大なるにより大形鋸仔の鋸手、及小形物の鋸牽、鋸乳等に利用せらる。

油葉茶(ヒサカキ)は質甚しく堅硬ならざるも板目、柾目の別なく抗剪强比較的大なるのみならず、鋸板と接觸して酸化せしめざる特徵ありとして鋸乳に賞用せらる。

紅木、梨等はボルネオ及比律賓又は馬來地方等より南支、特に主として廣東に輸入せらる、本島には料柴司阜(木挽)が僅かに南支より持來するのみなり、紅木には數種あり、眞の紅木は帶黃紅色を呈す、Pahaudia rhomboidea (*Blco.*) *Prain* 及 Ormosia sp 等之に屬す、ボルネオ鐵木(Billian or Borneo iron wood = 學名 Eusideroxylon Zwageri *T. et B.*) も亦其一に數へらる、梨は甚だ堅靭にして黑色を呈し最も賞用せらる、其植物名は Tristania sp なり。

茅茹竹(モウソウチク)は稈肉厚く、彈性最も强きにより銅線鋸弓は殆ど本竹に限り使用せらる。

材料の處理

雞油の鋸牽木取りは留枘を木纖維に直角に刻むを常とす。

(四) 鉋刀床 Khau-to-chhng̃

用途及種類並構造

鉋刀とは鉋類の總稱にして、削り方は突き出しなり、種類は掃鉋(Sàu-khau = 荒鉋)、幼鉋(Iù-khau = 仕上鉋)、彎鉋(Oan-khau = 丸鉋の一種)、鉋仔(Khau-á)、褊仔(Pian-á = 溝鉋)、線褊仔(Sòa^{n}-pian-á = 側取り)、孤獅(Ko'-sai = 面鉋)、朴仔(Phŏk-á) 等を主とし其他種々あるも、其構造は大同小異にして其各部は鉋刀床(Khau-to-chhng̃)、鉋刀手(Khau-to-chhiú)、鉋刀舌(Khau-to-chíh)、等よりなる鉋刀舌は鐵製なり。

用 材

材は堅重にして摩擦力强く、狂ひを生せざることを要件とす。

樹 種

地方名		和名
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
稠仔	Tiū-á	ホソバシラカシ
校檳	Káu-chàn	タイワンアカバシ
大頭茶	Tōa-thâu-tê	タイワンツバキ

特質及使用部分並利用地方

赤皮(イチヰガシ)を最も賞用し、稠仔(ホソバシラカシ)、校檳(タイワンアカバシ)を代用材となす、後者は南部地方にて使用せらる。

鉋刀手は前記の鉋刀床の切端を使用する外、大頭茶(タイワンツバキ)を利用す、これ本材の堅さは赤皮其他に及ばざるも、材は緻密にして蟻の緩少なく且つ手觸り柔かなるが爲なり。

材料の處理

鉋刀床は若木又は大木の邊材部を賞用す、是心材部に比し稍〻軟にし

て床面の滑り少く落附き良好なるによる、木取りは追柾となす、是各年輪を直角に貫通せる髓線は木口に斜に現れ爲に槌にて床頭を叩くも割裂を生せず又遊動面の磨滅を小ならしむ、遊動面は凡て木表を用ふ。

(五) 櫜錐 Lak-chûg

用途及構造

櫜錐は內地の舞錐の一種にして其形狀は種々あるも、大別すれは小木司阜用と造船司阜(Chō-chûn-sai-hū＝船大工)用との二となす、前者は內地の廻錐の一種にして、其各部は櫜錐心(Lak-chûg-sim)、櫜錐翅(Lak-chûg-chhî)、櫜錐肉(Lak-chûg-bah)、櫜錐尾(Lak-chûg-bé)等よりなる、櫜錐心は木製にして先端に櫜錐尾を嵌入す、該部分は鋸にて割目を1寸5—6分乃至2寸位に入れ、鐵製櫜錐の取代へに便にし、鐵輪又は黃籐製の小箍にて緊締す、櫜錐翅は中央部に櫜錐心を中軸として上下に遊動し得る穴を穿ちて嵌入し、其兩端には心軸の上端を貫通し來れる麻絲を結び付けて廻揉裝置となす、櫜錐肉は心軸の上端に嵌着せる圓形の壓重にして石又は木製なり櫜錐尾は鐵製の錐なり。

造船司阜用は木造船の側板、船底板等の矧合はせの釘孔を穿つに使用するものにして一種の自動錐なり、其各部は前者と稍趣を異にし櫜錐心、櫜錐心車、櫜錐尾、櫜錐竿等よりなる櫜錐心の頭部は櫜錐心車に嵌入し、自由に廻轉す、櫜錐心は長さ1尺2—3寸あり、其の尾端は前者の夫れと同樣に櫜錐尾の取代へに便利ならしむべく黃籐製の小箍にて之を固定す、櫜錐心車は廻轉軸の把柄にして櫜錐心の嵌入部の脫出せざる樣に頭部の留を抱合する必要上、其短かき把柄は二つ割となし、2個の黃籐製の小箍にて緊締せらる、廻揉裝置は前者と異り別に分離し直徑5—6分、長さ3尺5—6寸の小圓柱棒にして、兩端には麻絲を附し、之を心軸に卷き付けて廻揉す、是を櫜錐竿と云ふ。

樹 種

地方名		和名
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
稠仔	Tiû-á	ホソバシラカシ
大頭茶	Tōa-thâu-tê	タイワンツバキ
龍眼	Gêng-gêng	リユウガン
荔枝	Nāiⁿ-chi	レイシ

特質及使用部分

赤皮(イチヰガシ)は質堅硬にして、摩擦に堪へ且抗折、抗壓等の强度大なるを以て櫜錐心、櫜錐翅、櫜錐竿等に利用し、**稠仔**(ホソバシラカシ)を代用とす。

大頭茶(タイワンツバキ)は質緻密にして滑澤を生じ易く從つて摩擦小なるにより、櫜錐心車卽ち把手の部分に賞用せらる。

龍眼(リユウガン)は堅重にして滑澤あるを利用し、鑿工して櫜錐肉に使用す。

荔枝(レイシ)は今は新調せざるも改隸前にありて南支より移入して櫜錐肉に使用せりと云ふ、今尙ほ使用せるものは當時の持越物なり。

(六) 斧頭柄 Pó·-thâu-pi^{n}

第二三、農具用材の㊀の(四)、收穫用器に併記す。

(七) 鑿仔柄 Chhák-á-pi^{n}

用途及種類並構造

鑿仔とは鑿の呼稱なり、其種類は數多あるも主なるものは鑿仔(Chhák-á＝ムカヘマチに相當す)、薄鑿(Pòh-chhák —名扁平鑿 Pi^{n}-pêng-chhák とも云ふ)、指甲鑿(Chńg-kah-chhák —に彎鑿 Oan-chhák とも云ふ)等なり、指甲鑿のみは延柄にして別に木柄を附せず、柄の大さは長さ3寸5分內外、直徑8分を普通とす。

柄は鐵槌にて鑿仔頭(Chhàk-á-thâu =柄頭)を强打せらるゝを以て、挫壞に堪へ、抗壓(縱壓)强の大なるもの卽ち木纖維の結合力大なるものを要件とす。

樹種

地方名		和名
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
校欅	Káu-chàn	アラカシ
〃 〃	〃 〃	タイワンアカヾシ
稠仔	Tiū-á	ホソバシラカシ
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
相思仔	Siu-si-á	サウシジユ

特質及利用地方

赤皮(イチヰガシ)は適材として最も賞用せらる、校欅(アラカシ)の强度は赤皮に及ばざるも髓線の高さは低く、幅廣きが爲め木纖維は錯綜し、强打せらるゝも容易に木纖維の挫壞又は剝離を生ずること尠きにより全島的に賞用せらる。

校欅(タイワンアカヾシ)は中南部地方にて使用す、材質は略〻アラカシと同樣なり。

稠仔(ホソバシラカシ)は赤皮と同樣に使用せらる、强度及硬度は臺灣產カシ類中最も大なるものなり。

烏心石(ヲガタマノキ)は木纖維の結合力大なるも、抗壓强及硬度は前數種に比すれば及ばざるも、時に使用することあり。

相思仔(サウシジユ)は前者より强度及硬度は大なるも木纖維の結合力は小なり北部の海岸地方にて使用するを見る。

(八) 馬椅 Bé-í

用途及構造

馬椅は定盤(仕事臺)にして長腰掛狀を呈し、脚杆を嵌入せる四脚を附す、其各部は馬椅面、馬椅脚よりなる、馬椅面は長さ6尺5寸—7尺、高さ2尺2寸、厚さ3—4寸、馬椅杙(Bé-í-khit =跳蟲)4—6個を嵌入す、主として小木司阜(指物大工)用なり。

用材

馬椅面は堅硬なること、狂ひの少きこと、馬椅脚は保存期大にして抗壓の大なること等を要件とす。

樹種

地方名		和名
烏心石	O'-sim-chioh	ヲガタマノキ
楠仔	Lâm-á	オホバタブノキ
冇梡	Phàⁿ-kēng	ナガバナンキンハゼ
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ
校欅	Káu-chàn	タイワンアカヾシ
赤蘭	Chhiah-lân	タイワンアデク
水金京	Chúi-kim-kiaⁿ	アカミヅキ

特質及使用部分

烏心石(ヲガタマノキ)は材質堅硬にして負擔强大なり、生材は木取りによりては狂ひを生じ易きの缺點あるも、柾目取り又は充分に乾燥して氣乾狀態に達せるものは之を減少することを得、馬椅面に賞用せらる、又地上に直接せる保存期の大は勿論、抗壓强大なるを以て、之又馬椅脚に賞用せらる。

楠仔(オホバタブ)は材質、前者に比すれば劣るも、大材多く最も普通の用材にして價格も亦低廉なるにより一般に使用せらる。

冇梡(ナガバナンキンハゼ)は材質輕軟なるも、差狂を生ずること少なきを以て、山脚地方に於ては自家用的に之を馬椅面に使用するもの多

し、勿論素人用にして、脚には**烏心石**、**赤蘭**(タイワンアデク)、**水金京**(アカミヅキ)等の如き抗壓强大にして耐朽性の大なるものを使用す。

赤皮(イチヰガシ)、**校櫝**(アラカシ、及タイワンアカヾシ)類等は保存期は前の數者に比すれば小なるも、抗壓强大なるを以て、堅固を必要とする脚部用材に使用することあり。

四 打鐵(Phah-thih =鍛冶屋)道具用材

種類 風櫃(Hong-kūi)、打鐵砧(Phah-thih-tiam)、鐵槌仔柄(Thih-thûi-á-pi^{n})

(一) 風櫃 Hong-kūi

用途用構造

鞴にして打鐵用、金仔店(Kim-á-tiàm=金銀細工)、補鼎(Pó'-tiá^{n}=鑄掛屋)用等の別あるも大同小異にして唯だ其大さを異にするのみなり。

其形狀は圓筒形と箱狀形の二種あるも最も多く使用せらるゝは圓筒形狀のものなり、其構造は直徑約8寸、長さ1尺5寸—2尺を普通とし、胴の一方に風溜を附す、其各部は風櫃胴(Hong-kūi-tâng)、風櫃頭(Hong-kūi-thâu)、風櫃面頭前(Hong-kūi-bin-thâu-chêng)、風櫃尾(Hong-kūi-bé)、風羽(Hong-sit)、風孔(Hong-khang)、風櫃柄(Hong-kūi-pi^{n})、風楪(Hong-iáp)、風溜箱(Hong-liû-siu^{n})、風吹(Hong-chhe)等よりなる、風羽は布帛の小片を數枚重ねたるものにして、風櫃胴の內面には綿を貼付す、箱狀のものは內地の夫れと大差なし。

用 材

樹 種

地方名		和名
山黃麻	Soa^{n}-iû^{n}-môa^{n}	ウラジロエノキ
福州杉	Hok-chiu-sam	コウエフザン
赤皮	Chhiah-phê	イチヰガシ

特質及使用部分

山黃麻(ウラジロエノキ)は材質キリに類似し輕軟なるも木纖維交錯し、爲めに火に逢ふも、容易に乾燥、收縮して割目を生せず、又吸濕、引火の兩性も小なるを以て風櫃胴に賞用せらる。

福州杉(コウエフザン)は內地產スギに比すれば脆弱性を帶ぶるも彈性あり、充分に乾燥したるものは容易に割裂を生せず、且つ耐火性あるを利用し、其柾目は箱形狀の板材及圓筒形の風楪に使用す。

赤皮(イチヰガシ)は强靭にして摩擦に堪ふるにより風櫃柄及風櫃面頭前等に使用す。

材料の處理

風櫃胴は山黃麻を丸太のまゝ數十日間陰干にしたる後ち、定法に木取り、周緣を2—3分殘し彎鑿にて胴刳りをなす、風櫃胴と其兩妻なる頭、尾板とを接合するには小孔打着となす。

(二) 打鐵砧 Phah-thih-tiam

用途及構造

鐵床臺にして大さは一定せざるも高さは2尺內外を普通とし、胴切り丸太を其儘使用す。

用 材

樹 種

地方名		和名
龍眼	Gêng-gêng	リユウガン
烏心石	O'-sim-chiòh	ヲガタマノキ
相思仔	Siu-si-á	サウシジユ
白其春	Pèh-kî-chhun	タイワンネムノキ

特質及利用地方

打鐵砧は材質堅硬にして抗壓强の大なること、木纖維錯綜して、割裂を生せざること、打擊に應ずる摩擦、衝動に堪ふること等を要件とす、龍眼(リユウガン)は最も適材として全島的に賞用せらる。